寺部村附第9·中西第3遺跡

- 新山梨環状道路建設に関わる発掘調査報告書 -

2004. 3

山梨県教育委員会山梨県土木部

寺部村附第9·中西第3遺跡

本書は、山梨県土木部による新山梨環状道路建設工事に先だって、山梨県埋蔵文化財センターが平成 13・14 年度に発掘調査を実施した寺部村附第 9・中西第 3 遺跡の発掘調査報告書であります。

遺跡は、甲府盆地西部の御勅使川扇状地の先端に近い南アルプス市寺部に位置し、標高は 265m の緩やかな南東向きの斜面に立地しています。また、遺跡の西側には南アルプスの白根三山やその前山の櫛形山がそびえ、東側には甲府盆地を挟んで御坂山塊とその上に壮麗な富士山を望むことができる眺望の良い地域であります。

遺跡の周辺には甲府盆地西部の古墳時代前期の拠点的な集落で、発見された住居跡が 100 軒を超えるような村前東遺跡、古墳時代から奈良平安時代の集落遺跡である新居道下遺跡などが存在していますので、弥生時代以降に水田開発がなされ、以降、集落が次第にその規模を大きく展開していった様相をうかがうことができます。

本遺跡の発掘調査では、道路幅の範囲で約8,000㎡を対象として行い、平安時代から近代までの遺構と遺物が発見されました。平安時代の遺構は竪穴住居跡2軒と土器捨場1ヶ所が検出され、この他に溝18条、井戸1基、土坑31基、水溜遺構と考えられるもの3基等がありました。これらの溝や土坑は江戸時代から近代のものが多く、板で囲われた水路と水溜遺構の近くでは江戸時代後期の陶器片が出土しています。

このような遺構や遺物の状況から、平安時代の生活や扇状地と湿地の開発の様子を把握することができたとともに、平安時代から今日まで、地下水位の高いこの地域が、水を制するために様々な工夫をこらしていたことが明らかになった意義は大きいものと思います。本書が地域の歴史を解明するために、少しでも役に立つことができれば、望外の喜びであります。

末筆ではありますが、本調査におきまして様々なご協力を賜りました関係機関各位、並びに発掘調査・整理作業に従事された方々に厚く御礼を申し上げます。

2004年3月

山梨県埋蔵文化財センター 所長 渡 辺 誠

例言•凡例

- 1 本報告書は、山梨県南アルプス市(旧若草町)寺部に所在する、寺部村附第9・中西第3遺跡の 平成13年・14年度に実施した発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、新山梨環状道路建設に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を、山梨県教育委員会が山梨県土木部より委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが調査を実施した。
- 3 本報告に関わる出土品および写真、記録図面等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
- 4 自然科学分析は、株式会社パリノ・サーヴェイに委託した。
- 5 遺物の写真撮影は、トータル・アイの清水守氏に委託した。
- 6 本書の編集は、小林広和、猪股一弘が行い、執筆は小林、猪股の合議の結果による。
- 7 発掘調査および整理作業において、次の方々・機関によりご協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。

南アルプス市教育委員会(旧若草町教育委員会)

田中雄二、宮沢公雄

8 本報告書の挿図等に関する指示は下記のとおりである。遺構・遺物の挿図縮尺は基本的に次のとおりである。遺構・遺物の縮尺は基本的に下記のとおりであるが、資料の大きさにより適宜、縮尺を変化させてある。

遺構 住居跡 1:40 土坑 1:40 井戸 1:20 溝 1:80

土器集中区1:40 全体図1:400 (水平1:200、垂直1:20)

目 次

序	文
例言	• 凡例
目	次

第1章 調	査の経緯と	調査の	概要	•		•	•		•	•	 •							•	1
第1節	調査に至る	経緯·		•		•	•			•		•	•	•		•		•	1
第2節	発掘調査の	概要·		•		•	•								•			•	1
第3節	調査組織・			•		•	•			•	 •				•	•		•	2
第2章 遺	跡の立地と	環境·		•										•	•	•			3
第1節	自然的環境			•		•			•	•	 •	•		•	•		•	•	3
第2節	周辺の遺跡	と歴史	的環	境		•	•		•	•	 •	•	•	•	•	•	•	•	3
	見された遺																		
第1節	層序・・・			•					•	•	 •	•	•	•		•	•	•	6
第2節	遺構と遺物			•				•	•			•	•	•		•	•		6
	まとめ・・			•		•	•		•	•	 •	•	•	•	•	•	•	•	18
付編 寺部	村附•中西	遺跡の	自然	科等	学的	分村	沂·		•							•			50

挿図目次

第1図	本遺跡	5の位置と周辺遺跡分布図	第20図	4区,	1号住居跡出土遺物(1)
第2図	寺部村	対附第9・中西第3遺跡全体図	第21図	4区,	1号住居跡出土遺物(2)
第3図	1区,	全体図、遺物平面・垂直分布図、	第22図	4区,	1号住居跡出土遺物(3)
		発掘区西壁セクション			2号住居跡出土遺物(1)
第4図	1区,	1~5号溝、1~4号土坑実測図	第23図	4区,	2 号住居跡出土遺物(2)
第5図	1区,	6~8溝、5~13土坑、			1号土坑出土遺物
		1~3号水溜実測図			土器集中区出土遺物(1)
第6図	1区,	1 • 3 号水溜実測図	第24図	4区,	土器集中区出土遺物(2)
第7図	2区,	全体図、遺物平面・垂直分布図、	第25図	4区,	土器集中区出土遺物(3)
		1 · 2 溝、 2 号土坑実測図	第26図	4区,	土器集中区出土遺物(4)
第8図	2区,	1 · 3 号土坑、3 ~ 8 溝実測図	第27図	3 ⊠,	2号溝出土遺物(1)
第9図	3 ⊠,	全体図、遺物平面・垂直分布図、	第28図	3 ⊠,	2号溝出土遺物(2)
		西壁セクション	第29図	3 ⊠,	2号溝出土遺物(3)
第10図	3区,	1号溝実測図	第30図	$3 \boxtimes$	2号溝出土遺物(4)
第11図	3区,	2号溝実測図	第31図	3区,	2号溝出土遺物(5)
第12図	3 ⊠,	1~12号土坑実測図	第32図	3区,	2号溝出土遺物(6)
第13図	3 ⊠,	1号井戸・15号土坑実測図			
第14図	3 ⊠,	第13・14号土坑実測図			
第15図	4区,	全体図、遺物・垂直分布図			
第16図	4区,	土器集中区・垂直分布図			
第17図	4区,	1号住居跡・遺物分布図			
第18図	4区,	1号住居跡カマド実測図、			
		2号住居跡実測図			
第19図	$3 \boxtimes$,	1号井戸出土遺物			

図版目次

図版 1	1区	全景・土坑及1~5溝	図版 7	4区	1 • 2 号住居跡
図版 2	1区	土坑·水溜·6~8溝			1号土坑・1号住居跡出土遺物
図版 3	1区	水溜	図版 8	4区	1号・2号住居跡出土遺物
	2区	全景・3~7溝	図版 9	4区	土器集中区出土遺物
図版 4	3 区	全景,1号溝	図版10	3 区	2号溝出土遺物
図版 5	3区	2 号溝・1~10号土坑	図版11	3区	2号溝出土遺物
図版 6	3 区	土坑・1号井戸			
	4区	全景			

第1章 調査の経緯と組織

第1節 調査に至る経緯

今回の、調査にかかわる地域は、旧若草町教育委員会が主体となって行われた町内の分布調査により、古墳から平安にかけての土器が発見され遺跡が確認されている。

さらに本遺跡は、今回の発掘調査に先行して、山梨県土木部による新環状道路建設に伴う遺跡確認の為の 試掘調査が旧若草町教育委員会(現南アルプス市)により実施され、1・2区では中世の溝状遺構が、3・ 4区では、平安時代集落の一端が確認された。

平成15年4月25日、本遺跡を通過する新環状道路建設工事打ち合わせが行われた。それを受けて、山梨県教育委員会では、調査体制を整えることとなった。

発掘調査は、平成13年8月20日から13年10月の2ヶ月間、平成14年7月1日から15年1月31日の6ヶ月間 (民家移動延期の為、11月中は調査中断)、の2回を実施した。

第1次調査

平成13年8月14日 文化財保護法第58条2による発掘通知を山梨県教育委員会に提出

平成13年10月16日 埋蔵文化財発見通知を小笠原警察署に提出

第2次調査

平成14年7月1日 文化財保護法第58条2による発掘通知を山梨県教育委員会に提出

平成15年1月31日 文化財発見通知を小笠原警察署に提出

第2節 遺跡の概要

今回の発掘調査で検出された遺構は、平安時代に属する竪穴住居2軒、平安時代土坑墓2基、土器集中区1箇所、井戸1基、水溜3基、土坑29基、溝16条、用水路(1・2号溝)2条である。特記すべきは、発掘調査区中央部の標高363,3mの位置に傾斜変換線が認められたことである。

平安時代に属する遺構関係では、住居2軒と、何らかの祭りに関連したと思われる遺物集中区は、変換線上位位置に展開して、それ以下では平安時代の土坑墓2基が検出されたのみであった。このことは、今回の調査区の中央部に存在する傾斜変換線付近が、周辺遺跡の集落の端部であるとの解釈を可能にした。

調査第3区では、江戸末期の生活用水路が確認された、調査中央南北に走る1号溝、それに直行して交わる2号溝が確認され、2号溝は、昭和30年代に改修された息が長いものであった。

調査区1・2区は、水性堆積の軟弱な地盤に、緩やかな流れの侵食作用により作出された幅の狭い自然溝が十数条、南北に検出される。遺物はいずれも3cm前後の小破片で、自然溝からの出土は皆無であり、水性堆積土の遺物包含層からが大半を占めている。

第3節 調査組織

調査体制

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

調査担当者

		13年度	14年度	
副主幹文化財主事	小林 広和	\circ		
主查文化財主事	猪股 一弘		0	
非常勤嘱託	楠間美季江	\circ		
発掘作業員	今村 貞雄	時田 勲	斉藤 重信 小野 嘉雄	(故) 佐久間 等
	二宮 明雄	河野 逸広	山本三重子 福島 祥子	真道みゆき
	佐久間篤子	大越すず子	石川 久子 神沢 正孝	花形 三男
	井上 時男	望月 忠	渡辺 旭光 末木 義光	加藤 秀代
	佐久間春江	長谷川りん	平嶋 弘子 平嶋 純一	土橋 享一
	金丸 亨	石川 千年	中村 謙一 鈴木 政一	飯室めぐみ
	原田 佳子	座間 昭子	山本 愛 山本 妙子	
整理員	新津 多恵	清水 真弓	小林 順子	

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 自然的環境

本遺跡(★)の立地する旧若草町(現南アルプス市)は、甲府市の南西約12km の所にあり、盆地を縦断する釜無川の右岸に位置する。町域は、東の釜無川と西の櫛形山累層から流下する滝沢川に挟まれ、国内屈指の規模を誇る扇状地である御勅使川扇状地(標高約270m)の扇央から扇端部、及び釜無川の沖積低地(氾濫原)に広がっている。町内には山地はなく、極めて平坦な地形的特色を持っているが、より細かく見ていくと、御勅使川古期扇状地、その上に形成された滝沢川の2次的小扇状地、土石流堆積などの小扇状地上の微高地(自然堤防)、釜無川の沖積低地など、いくつかの地形に分類することができる。

御勅使川古期扇状地の形成時期・過程は不明だが、褐色の火山灰質粘土層と、小礫を主とする礫層の互層が厚く堆積し、古い様相を示すという。東端部の崖線上には縄文遺跡が立地し、扇状地及びその崖線形成が、縄文時代よりもかなり古い時期であったことが窺える。

2次的小扇状地は、旧櫛形町(現南アルプス市)小笠原付近を扇頂とし、御勅使川古期扇状地を覆う泥流堆 積によって形成されたものという。この小扇状地上には、滝沢川に沿う左岸の十日市場、加賀美地区にみられるように滝沢川に平行して幅広く土石流堆積した微高地が発達している。

沖積低地は、鏡中条・藤田地区と釜無川との間に広がる、釜無川のたび重なる氾濫によって生じた氾濫原とも洪極平原とも呼ばれる地域で、非常に平坦な地形で水の豊かな水田地帯である。

本遺跡は、御勅使川古期扇状地扇端部に立地し、全体的には北西から南東に向かって、緩やかに傾斜する緩傾斜土地に存在している。扇端部では堆積物の粒子は細かく、堆積量も少ない。砂礫層にしみ込む伏流水も浅く、ついには自然に湧水するようになる。この湧水は、扇端部で弧状に分布しているので湧水列(湧水帯、地下水自噴帯)と呼ばれている。

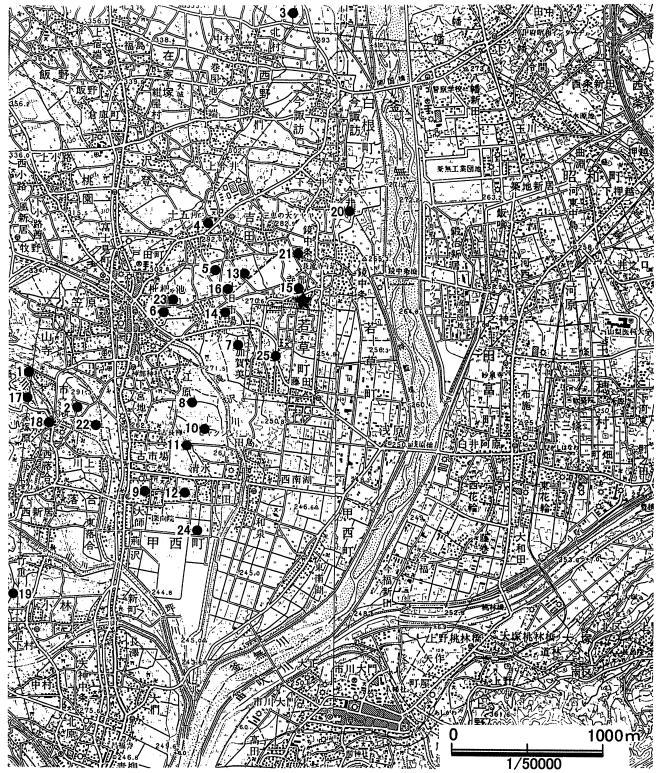
この湧水列が、本遺跡付近を東西に走っていて、これを境にほぼ上手は畑地に、下手は水田地帯になっている。ただし、現在では果樹栽培が急速に進行しているので必ずしも当てはまらない。

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

旧若草町も含め、釜無川右岸における峡西地域の遺跡は、近年分布調査が詳細に行われている。これらの調査をもとに、この地域での遺跡の分布状況や遺跡の立地及び動態について詳細な検討がなされている(保坂1990「原始・古代の遺跡」『若草町誌』)。また、国道改築工事や県道韮崎・櫛形・豊富線、中部横断自動車道、甲西バイパス建設などに伴う調査により、多くの遺跡が発見され、より詳細な実態が解明されつつある。

旧石器時代まで遡る遺物は、旧若草町のような扇状地上では発見に至っていないが、近くの旧櫛形町の市 之瀬台地上では、数点採集されている。特に、六科丘遺跡・長田口遺跡・長田A遺跡では、ナイフ型石器な どが出土していて、この台地に昔から人類が生活していたことがわかる。

縄文時代になると山地、台地、山地・台地と扇状地との境界にある緩斜面などに遺跡が多く拡大分布するが、わずかに扇状地やその崖線上にも認められる。台地上の曽根遺跡・大畑遺跡(1)では早期・前期の遺物が、上の山遺跡・古屋敷遺跡では中期の遺物が発見されている。また、中期中葉の環状集落が調査された鋳物師屋遺跡(2)は台地下の扇状地に、後期を中心とする遺物が採集されている清水坂遺跡(3)は、崖線上に立地している。しかしながら、旧若草町内には今のところ縄文時代の遺跡は発見されてない。これはまだ、人々が生活を低湿な地域よりも、乾燥した高地や台地を中心に求めたものと理解される。



第1図 本遺跡の位置と周辺遺跡分布図

- 1. 大畑遺跡
- 2. 鋳物師屋遺跡
- 3. 清水坂遺跡
- 8. 向河原遺跡
- 9. 住吉遺跡
- 5. 村前東A遺跡

- 6. 溝呂木道上遺跡 7. 二本柳遺跡 11. 中川田遺跡
 - 12. 大師東丹保遺跡 13. 前原G遺跡
- 10. 油田遺跡

14. 新居道下遺跡

4. 十五所遺跡

15. 寺部村附第6遺跡

- 16. 角力場第2遺跡 17. 物見塚古墳
- 18. 上村古墳
- 19. 狐塚古墳 20. 八幡遺跡

- 21. 今井前遺跡第4遺跡
- 22. 〆木遺跡
- 23. 枇杷 B 遺跡
- 24. 宮沢中村遺跡

弥生時代に入ると、縄文時代で中心的な居住地であった台地などの遺跡の割合が減少し、徐々に扇状地、 微高地、沖積低地での遺跡の割合が増加するようになってくる。それと共に、旧若草町内並びにその周辺に も多くの遺跡が発見されようになってくる。例えば、後期方形周溝墓や住居跡、中期条痕文土器片が検出さ れた十五所遺跡(4)、水田とみられる跡や中期条痕文土器片が検出された村前東 A 遺跡(5)などがある。いずれ も扇状地扇央部から扇端部にかけての遺跡である。さらに、微高地から沖積低地にかけて、浮線文土器片が 検出された溝呂木道上遺跡(6)、中期の土器・包含層が確認された二本柳遺跡(7)、中期の小区画水田跡が見つ かった向河原遺跡(8)、後期の住居跡が認められた住吉遺跡(9)を始め、同じような地域で、油田遺跡(10)、中川 田遺跡(11)、大師東丹保遺跡(12)などで水田跡、祭祀跡などの資料が発見されている。このように、この時代頃 から稲作のために生活域を拡大した形跡が窺える。

古墳時代では、この地域での拠点的集落ともいえる、140軒を超える住居跡が確認されている村前東A遺跡(5)の調査が行われ、東海系のS字状口縁台付甕が多数出土している。また、後期の遺構が検出された前原 G遺跡(3)もこの地域に占地する。旧若草町内では、前期の集落が発見された角力場第2遺跡(6)、中期での円 形周溝墓が出土している寺部村附第6遺跡(5)、後期では、扇状地扇端部の湧水列付近で、大規模な集落跡が 検出された新居道下遺跡(4)が立地する。

一方、古墳の分布状況だが、旧若草町では寺部地区に塚が3基あるが、いずれも古墳ではなく中世以降に造られたとされる十三塚や富士塚等である。しかし、周りの地域では、多くの古墳が明らかにされている。前・中期古墳としては、物見塚古墳(が)、六科丘古墳などで、竪穴式石室などをもち市之瀬台地上など限られた地域に存在する。又、横穴式石室をもつ上村古墳(18)、狐塚古墳(19)が属する後期古墳は、甲府盆地周辺地域にみられる。これは当時の中央集権の力が部族長のレベルにまでに至り、ムラが再組織されて、小扇状地上の微高地にも水田耕作を開発推進する有力者が存在したと考えられている。このような動態は、後の条里型土地割(25)に引き継がれた可能性がある。

奈良時代になると、この地域での遺跡の確認が少なくなる。分布状況は、御勅使川古扇状地扇端部に集中する。湧水列付近に立地する新居道下遺跡似の集落遺跡をはじめ、八幡遺跡(20)、今井前遺跡第4遺跡(20)などがある。

平安時代では、再び遺跡の数が増加する。御勅使川古扇状地上の遺跡に加え、滝沢川の小扇状地の微高地、沖積低地への遺跡の進出が目立つ。扇状地扇央部から扇端部にかけて、角力場第2遺跡(16)、新居道下遺跡(14)、鋳物師屋遺跡(2)、〆木遺跡(2)などで集落跡が見つかっている。微高地や沖積低地では、竪穴住居跡や掘建柱建物跡が検出された枇杷B遺跡(2)、水田跡が検出された二本柳遺跡(7)、中川田遺跡(1)がある。また、この時期に関わる遺構として、旧若草町の加賀美や藤田地区にみられる条里型土地割の問題があるが、いつが起源なのかという問題に関しては、古墳時代後期以後の水田開発の延長から考え、奈良時代頃にその起源を求めるという見方(保坂1990『若草町誌』)と平安時代後期以降の荘園経営に関係しいるという考え方(中山誠二1996『条里制研究』12)がある。いずれにせよ背後に強力な権力のある組織が存在したと考えられる。

中世以降に関しては、戦国時代の井戸、溝や法善寺の子院の一つである中世寺院「福寿院」跡を調査した 二本柳遺跡(7)、鎌倉時代の建物跡、木製品が出土した大師東丹保遺跡(2)、13世紀後半に遡る常滑焼大甕が土 坑に埋蔵され見つかった溝呂木道上遺跡(6)がある。近世では、江戸時代の集落が検出された宮沢中村遺跡(24) が立地する。このように各時代における遺構・遺物が確認され、この地域での人々の生活の歴史的変遷を知 る上で、貴重な資料が発見されている。それをもとに、今まで以上により多くの事の解明が期待されている。

(猪股一弘)

第3章発見された遺構と遺物

調査は、県土木部の依頼により、発掘区を4区に区画して、建設工程の早い1区の南側区域から順次おこなうこととなり、平成14年度では1区および3区の一部(発掘区は水没の為翌年調査)を、平成14年度には、2区から4区の調査を行った。

第1節 層序

本遺跡は、御勅使川古期扇状地の端部に位置するため、土層は細かい水性堆積物が主体をなしていて、しかも量は少ない。

4区•西壁(傾斜変換線上位)

第 I 層 黒褐色 5 mm の小礫炭化物土器片含む。

第Ⅱ(IV)層 黒褐色 粘土質 にぶい黄褐色土含む。(礫、焼土含む。)

第Ⅲ層 黒褐色 5~1 mm の小礫含む。

3区•西壁(傾斜変換線下位)

第 I 層 黒褐色 焼土粒子および小礫を含む

第Ⅱ層 黒褐色 にぶい黄褐色 焼き土粒子小礫は I 層より多くなる。

第Ⅲ層 黒褐色 にぶい黄色褐色を全体に含む。

第IV層 黒褐色 にぶい黄色褐色を少量含む。

1区•西壁(調査区最下部)

第 I 層 耕作土

第Ⅱ層 暗茶褐色 木炭・土器粒子含む。

第IV層 暗灰褐色

第V層 砂層

第VI層 黒褐色 緻密で若干の砂含む。

第2節 発見された遺構

1区の調査結果

1区は、今回の調査区の中で、最も低位に位置する地区で、表土を剥いだ時点で湧水があり、常に水浸しの状態であるが、水抜を施して精査を行った。溝8条、土坑13基、水溜3基が検出された。

水溜1・2号(第5・6図)

水溜 1 号、水溜 2 号は平面プランは共に整った円形を呈して、東西に走る 6 号溝と連結し、互いに機能しているものと思われる。 8 号溝は北側より水溜 2 号に合流する。水溜 1 • 2 号、溝 6 • 8 号は、排水あるいは水溜による水利用の施設が考えられる。時期は、1 号水溜より近代以降の瓦片を含む礫等が検出されている点、水溜、6 • 8 号溝の覆土は、第 3 図 • 2 セクション図の 2 層にあたり上面に確認されることより、現代に限りなく近い所産とされる。

水溜 3号(第6図)

楕円形の土坑を掘削後、円形に石組が丁寧に積まれる。出土遺物無し。使用目的不明。

溝1~8号(第4図)

前記した調査経緯で触れた、試掘結果での中世溝と想定されていた遺構状のものであるが、全面調査の結

果は、方向が一定であり、途切れているが $1 \sim 3$ 条の溝に収束が可能であること。不規則な形態を示し一定していない。溝に伴う杭等の人的工作物が検出されないなどの事由により、本地区の溝群は、第3層の軟弱な水成堆積の地盤に緩やかな水の流れの際に削成された自然水路の痕跡と断定した。

土坑(第3·4·5図)

大小の13基が検出されている。大半のものは時期不明であるが人為的によるものとされる。土器などの遺物の出土はない。

2区の調査結果

1区の東側に隣接して、調査区の低位置に当たり、溝8条、土坑2基が検出された。西側部は、1区同様の水性堆積の地盤に、土坑、溝等が数ヶ所検出され1区の延長上として把握されたが東側のトレンチを設けた部分では(第7図)、地盤が礫層に移行して、遺構、遺物は検出されなかった。

土坑(第7・8 図) 3 基が検出された。 2 号土坑は、規模は 2 m 前後を有し、平面形方形、断面形箱形を呈し比較的整った形状を示す。 1 号土坑は不規則は平面形を呈し、 3 号土坑は円形を呈する。これらの土坑からは土器等の遺物は検出されず、時期、使用目的は不明である。

溝1~8号(第7・8図)

見かけは、溝8条が検出された様相を呈する。これらは、1区の溝群同様に、軟弱な水成堆積の地盤に緩やかな水の流れに伴って削成された不規則な形態、同一方向を示す自然水路痕である。1・2・3・4・8号は途切れているが、1区の溝群の南端部を形成するものと判断される(第2.8図)。

1・2区では、近代以降の水溜、溝以外では、遺構は検出されず、小破片の土器が平安時代を中心として、 古墳時代から中世遺物が1区東部を中心に2区北部、南部に検出された。これらは3層の茶灰褐色層を中心 に包含層を形成するが、土砂の流れの中での流れ込みとしての状態が、第2・3図より示唆される。

3区の調査結果

傾斜変換線から2号溝の範囲である。地盤は1号溝を境に西側は水成堆積層、東側は礫層に分かれ、遺構は掘削可能な西部に偏る。井戸1基、土坑15基、用水路(溝1・2号)2条が検出される。

井戸·水溜遺構(第13·14図)

1号井戸は、ほぼ円形プランで断面鍋形を呈する。井戸としたが本来的な目的は水溜的な機能が与えられる。北側壁に整然とした石組が認められるが、他は素掘状であり、本施設の廃棄と同時に、石材が抜かれた可能性も残す。遺物は11~12世紀中心に杯、カメ類の小片が出土する。

1号井戸に、近似した状況を呈するものに、13・14・15号土坑がある。これらは円形、不正形であるが、掘り込みは1号井戸に近い。またこれらは石材の稀な水性堆積土に掘削されているが、土坑中からは中に放り込まれた状態の多量な大型礫が出土する。機能的には、水溜が与えられる(第11図)。

1 • 2 号土坑(第12図)

人骨等は消滅して存在しない。共に長軸 2 , 3 m を計測する。 1 号からは、皿 1 点(IX期)が出土する事実から 9 世紀第 4 四半期の年代が与えられる。

1 • 2 号溝(第10図)

変換線下位の標高263付近の湧水を源としてほぼ南北に流れて2号溝に直角に交わる。水源付近では湾曲するが中央以下では直線的となる。溝脇には杭列がつらなる。使用時期は、出土磁器より江戸末期が当てられる。2号溝は1号溝と直角に交わりほぼ東西に流れる。使用時期は、出土磁器より江戸末期明治~昭和初期とされるが、昭和30年代に改修されて、木枠が組み込まれている。

3区では、住居跡は検出されず土坑墓、井戸あるいは水溜の類が認められた。遺物は、調査区西部、東部

に散在する。その出土状況は小破片であり $1 \cdot 2$ 区同様に堆積土との関わりに強く影響されたものであるといえる。

4区の調査結果

標高263,5m に傾斜変換線が認められ、本区と下位地区(1・2・3区)に分かれる。本区は遺跡の集落端に位置付けられ、住居跡2軒、土器集中区、土坑1基が検出された。

土器集中区(第15·16図)

ほぼ変換線上に位置して、発掘区南西部に当たる。今回の調査では、遺構外での本格的な遺物の検出地点である。現状では 2 × 6 m の範囲に認められたが、その範囲は発掘外に伸びている。焼土と伴に、甲斐型土器の暦年代(1992・瀬田)、IX・X期の杯、甕を中心にXII期までが、投げ捨てられるように出土して、接合関係例も認められる。

第1号住居跡(第17図)

調査区北西部に検出される。平面形は隅丸方形である。床面は、全体的に平坦でしっかりと踏み固められているが、貼床は確認されない。また、柱穴、周溝の確認を行ったが検出にはいたらなかった。

住居中央部と竃上部および東壁は、本調査に先行して行われた試掘によりすでに削平され消失している。 竃は残り下位の焼土より観察すると、東壁やや南よりに設けられている。覆土は、2層であり床面に対して 平行に認められ、住居廃棄の際に埋め戻された可能性が高い。遺物は、住居内全体に検出されるが、とくに 竃内に集中する。住居構築時期は、甲斐型土器の暦年代(1992・瀬田)IX・X期の杯、甕が検出しており、 9世紀第4四半期~10世紀第1四半期と考えられる。

第2号住居跡(第18図)

1号住居跡の、北側10mの位置に存在する。平面形はやはり隅丸方形である。床面は、地山が砂層であり、 貼床の有無は確認されないが床表面は固く平坦に整えられている。竃は東壁やや南寄りに設けられ、煙道が 認められる。柱穴、周溝の検出に努めたがいたらなかった。遺物は甲斐型土器の暦年代(1992・瀬田) 畑、 区期で主に区期に集中する。このため、構築時期は、9世紀第4四半期に求められる。

4 区では、変換線上位位置に住居跡 2 軒、土器集中区を検出したわけであるが、変換線下位には住居跡、および、まとまった遺物の検出もなく、この地点が遺跡内での集落区とそれ以外の区域の境界線としての認識が可能となった。

十器観察表

	観察る	攵													
挿図 番号	遺物 番号	注記 番号	出土 地点	器形	時期	残存率	法量(口径	cm)(現 器高	存値) 底径	焼成	胎土	色調	口縁部形	底径・口 径の比	調整技法
19	1	105	一号	坏	11 世紀 前後	底部破片	□1至 —	(1.4)	(7.5)	やや良	赤色粒子	にぶい 橙色			 底部回転糸切り後無調整、信州 系?
19	2	32 107 108	一号	カメ	12 世紀 前後	口縁部破片	(26.0)	(5.8)		良	赤色粒子 白·黒砂粒	褐色	_	_	水面スス付着 内面外面ロクロ ナデ外面スス付着
19	3	96	一号 井戸	鍋	12 世紀 前後	口縁部破片	_	(3.3)	_	良	赤色粒子	橙色	_	_	外面スス付着 内面外面ロクロ
19	4	109	一号 井戸	カメ	12 世紀 前後	口縁部破片	(31.0)	(7.9)	_	良	白色粒子	灰白色	_		
19	5	12 35 103	一号 井戸	釜	12 世紀 前後	底部付近 の破片	_	(6.2)	_	良	赤色粒子 白・黒色砂粒	にぶい 褐色	_	_	
19	6	148	一号 井戸	須恵器 カメ	中世後半	破片	_	(5.6)	_	良	白色砂粒	灰色		_	
19	7	106	一号 井戸	須恵器 カメ	中世後半	破片	_	(3.5)	_	良	白色砂粒	灰色	_	_	
20	1	431 ~ 435・462 カマド <i>一</i> 括	一号住	坏	9期	95%	11.7	4.1	3.8	良	赤·黒色粒子 小石少量	明赤 褐色	丸形	35%	内面体部に暗文 底部と周辺斜 位手持ちヘラケズリ
20	2	274 378 379 380	一号住	坏	10 期	50%	12.4	3.2	(4.8)	良	赤色粒子 白·赤色砂粒	橙色	玉縁	26%	外面体部斜位手持ちヘラケズリ 内 面暗文あり 底部全面ヘラケズリ
20	3	104 • 105 • 151	一号住	坏	9期	80%	12.1	4.1	4.4	良	赤色粒子 赤·黑色砂粒	橙色	丸形	34%	底部と周辺斜位手持ちヘラケズ リ
20	4	380	一号住	坏	9期	20%	(12.5)	4.0	(4.8)	良	赤色粒子 白·赤色砂粒	橙色	丸形	38%	外面底部全面体部斜位手持ちへ ラケズリ 内面体部暗文
20	5	95~102 一括	一号住	坏	11 期	40%	12.2	(4.2)	_	良	赤・黒色粒子	にぶい 赤褐色	丸形	-	外面体部斜位手持ちヘラケズリ 内面回転ヘラケズリ?
20	6	カ 397 400 430 436 439 440 カマド 一括	一号住	坏	9期	55%	12.0	4.0	4.4	良	赤・黒色粒子 雲母わずか	にぶい 赤 褐 色	丸形	37%	外面体部斜位手持ちヘラケズリ 内面体部わずかに暗文 底部 全面ヘラケズリ
20	7	227 291 292	一号住	坏	9期	30%	(11.7)	4.0	(4.5)	良	赤色粒子 白·赤色砂粒	橙色	丸形	38%	底部回転糸切り後ヘラナデ後周 辺斜位手持ちヘラケズリ
20	8	128	一号住	坏	10期	20%	(15.5)	4.8	(6.5)	良	赤・黒粒子 砂粒含む	明赤 褐色	丸形	43%	内面体部暗文 底部回転ヘラケズリ 体部回転ヘラケズリ
20	9	カマド一括	一号住	坏	10 期	破片	_	(1.6)	(5.5)	良	赤色粒子 白·赤色 砂粒雲母	橙色	_	_	外面体部内面体部とも回転ナデ 底部回転糸切り後無調整
20	10	388	一号住	内黒坏	11期	破片	(14.6)	(3.8)	-	やや良	白色粒子	外面灰 黄褐色	_	_	外面スス付着回転ナデ 内面縦 位のミガキあり 信州系?
20	11	417 423 437 443	一号住	内黒坏	_	破片	(15.2)	5.4	(4.8)	良	赤色粒子 白·赤色 砂粒雲母	外面 橙色	丸形	32%	外面体部回転ヘラケズリ 内面体 部に横位と縦位のミガキ 底部回 転ヘラケズリ 信州系?
20	12	一括	一号住	坏	11期	破片	-	(5.0)	2.4	良	赤・黒色粒子	橙色	_	_	内面体部〜みこみ部回転へラケズリ 底 部回転糸切り後手持ちヘラケズリ
20	13	一括	一号住	内黒坏	11期	破片	(14.0)	(4.2)	_	良	白・黒色砂粒	外面赤 褐色	玉縁	_	体部回転ヘラケズリ
20	14	99 101 一括TP	一号住	高台 付碗	平安	50%	(16.6)	5.1	7.0	良	白色粒子 白・黒色砂粒	灰白色	-	_	灰釉陶器 三ヶ月高台
20	15	一括	一号住	坏	10 期	破片	_	(3.0)	4.6	良	赤・黒色粒子	橙色	_	_	外面体部下半斜位ヘラケズリ 底部 回転糸切り後手持ちヘラケズリ
20	16	106	一号住	坏	11期	破片	_	(0.9)	(4.4)	良	赤・黒色粒子	褐色	_		内面体部回転ナデ 底部と底部 周辺手持ちヘラケズリ
20	17	一括	一号住	高台 付碗	_	破片	_	(1.9)	(8.4)	良	黒色粒子	灰白色		_	三ヶ月高台 灰釉陶器
20	18	一括	一号住	坏	10 期	破片	_	(1.8)	(5.0)	良	赤色粒子 白·黑色砂粒	橙色			内面体部回転ナデ 底部全面手持ちヘラケズリ
21	19	159 ~ 162	一号住	Ш	10期	ほぼ完 形	13.6	2.3	4.8	良	赤色・黒色粒子	橙色	_	_	外面体部手持ちヘラケズリ 内面体部へみこみ部まで粗い 渦巻状の暗文あり 底部まで手持ちヘラケズリ
21	20	一括	一号住	Ш	11期	50%	(12.3)	2.5	(5.2)	良	赤色粒子白・赤色砂粒	橙色	_	_	外面体部手持ちヘラケズリ 内面みこみ部にロクロ回 転の渦巻 底部まで手持ちヘラケズリ
21	21	280 292 一括	一号住	Ш	10期	破片	15.0	(2.7)	6.8	良	白・黒色 粒子	橙色			外面体部回転へラケズリ 内面みこ み部〜体部に渦巻状の暗文あり
21	22	408 410 429 430 カマ ド	一号住	ロクロガメ	-	60%	15.0	(11.9)	_	やや 粗	赤色粒子 白色砂粒	赤褐色	_	_	回転ロクロガメ 内面回転ナデ 信州系?
21	23	287 399 404 418 419 421 446 ~ 449 453 カマドー 括	一号住	カメ		口縁周辺のみ	27.8	(8.9)	_	良	白色砂粒 黒・金色 雲母	明赤褐色	薄口 縁型	_	
21	24	387	一号住	カメ	10 期~ 11 期	口縁部 破片	_	(3.2)	_	良	赤色粒子 白色砂粒 金色雲母	褐色	_	_	口縁部外面体部横ナデ 内面体 部横位ハケメ
21	25	436 457 461	一号住	カメ	9期~ 10期	口縁部 破片	(29.4)	(7.0)	-	良	赤色粒子 白色砂粒 金色雲母	明褐色	薄口 縁型	_	
21	26	一括	一号住	カメ	10 期	口縁部 破片		(3.9)	-	良	赤色粒子 白色砂粒 金色雲母	明赤 褐色	薄口 縁型		外面斜位ハケメ 内面体部横位 ハケメ

十器観察表

土器	観察表	₹													
挿図 番号	遺物 番号	注記 番号	出土 地点	器形	時期	残存率	法量(c	m)(現 器高	存値) 底径	焼成	胎土	色調	口縁 部形	底径・口 径の比	調整技法
21	27	403 404	一号住	カメ	10 期	口縁部破片	(30.0)	(6.3)	-	良	赤色粒子 白·黑色砂粒 金色雲母	にぶい 赤褐色	薄口 縁型	_	外面斜位ヘラケズリ
21	28	285 405 406 416	一号住	カメ	10 期	底部周 辺破片	_	(11.2)	9.0	良	赤色粒子 白·黑色砂粒 金色雲母	明褐色	_	ı	外面体部斜位ハケメ 内面体部 横ナデ ヘラケズリによる整形 底部木葉痕あり
21	29	426	一号住	カメ	10期	口縁部 破片	(27.0)	(5.9)	_	良	赤色粒子 黒·金色雲母	明褐 色	薄口 縁型		外面斜位ヘラケズリ
21	30	413425 428 454 ~ 456	一号住	カメ	10 期	胴部破片	-	(13.0)	_	良	赤色粒子 白·黑色砂粒 金色雲母	にぶい 褐色	_	_	外面体部縦位ハケメ 内面体部 横ナデ
22	31	床一括	一号住	S字 ガメ	古墳	口縁部破片	1	(2.6)	-	やや 良	赤色粒子 白色砂粒 金色雲母	にぶい 橙色		_	外面体部付近位斜位ハケメ 内 面横ナデ
22	32	171	一号住	羽釜?	12期~ 13期	破片	1	3.5	-	良	黒色砂粒 金色雲母	黒褐色	1	_	外面体横ナデ 内面体部ヘラケ ズリ
22	33	109	一号住	須恵器	_	口縁部破片	_	-	-	良	白色粒子	明灰 黄色	ı	_	
22	34	110	一号住	須恵器 カメ	_	胴部破片	1	ı	ı	良	_	灰色		_	外面タタキ
22	35	385	一号住	須恵器 カメ	-	胴部破片	1	1	ı	良		黒褐色	_	_	外面タタキ
22	36	172	一号住	須恵器 カメ	1	胴部破片	-	(4.4)	1	や良	白色粒子	黄灰色	_	_	外面体部内面体部ともタタキ
22	1	一括	二号住	坏	8期~ 9期	20%	(10.6)	4.4	(5.6)	良	赤色粒子 黒色砂粒	橙色	丸形	53%	外面体部下半斜位手持ちはヘケ ズリ 内面体部に暗文あり
22	2	一括	二号住	カメ	9期	口縁部 破片	(26.0)	(5.7)	_	良	赤色粒子	褐色	薄口 縁型	-	外面斜位ハケメ 内面横位ハケメ
22	3	一括	二号住	坏	8期~9期	破片	(12.8)	(3.4)	_	良	赤色粒子 黒色砂粒	明褐色	丸形	_	外面手持ちヘラケズリ 内面体 部に暗文あり
22	4	一括	二号住	カメ	9期	口縁部破片	(25.4)	(3.1)	_	良	赤色粒子 黒色砂粒 金色雲母	褐色	薄口 縁型	_	外面斜位ハケメ 内面横位ハケメ
22	5	一括	二号住	カメ	1	底部破片	5.9	(7.0)	_	やや 良	赤色粒子 黒•金色雲母	暗褐色	_	_	
22	6	391	二号住	カメ	9期	口縁部破片	_	(2.1)	_	やや 粗	赤色粒子 白·黑色砂粒 金色雲母	橙色	薄口 縁型	_	
22	7	一括	二号住	カメ	同一個 体?	胴部破片	_	(5.7)	_	良	赤色粒子 金色雲母	褐色	_	_	外面縦位ハケメ 内面横位斜位 ハケメ
22	8	390 カマド 一括	二号住	カメ	9期	口縁部 破片	_	(2.3)	_	やや 良	赤色粒子 金色雲母	褐色	薄口 縁形	_	
22	9	一括	二号住	カメ		胴部破片	_	(10.4)	_	良	赤色粒子 金色雲母	褐色	_	_	外面縦位ハケメ 内面横位斜位 ハケメ
23	10	一括	二号住	須恵器 カメ	_	底部破片	_	(12.7)	10.0	良	白色砂粒	灰色	_	_	外面胴部底部タタキ 内面わず かにヘラケズリの跡
23	11	一括	二号住	高台 付坏	古墳	脚部破片	-	(4.1)	_	良	赤色粒子	橙色	_		外面脚全面にミガキ 内面しぼ り込み?
23	12	一括	二号住	壺	古墳	底部破片	_	7.0 ?	_	やや 良	赤色粒子 白色砂粒	褐灰色	-	_	外面タタキの跡? 内面ヘラケズリのあとわずかに残る
23	13	一括	二号住	内耳	中世	口縁部 破片	_	(17.6)	_	良	赤色粒子	橙色		_	
23	1	356 373 375	一号 土坑	ш	9期	50%	(12.6)	2.3	4.9	良	赤色粒子 白色砂粒	にぶい 褐色	丸形	_	内面体部渦巻状暗文あり 底部 と底部周辺回転ヘラケズリ
23	2	335 364	一号 土坑	カメ	_	底部破片		(2.7)	(10.0)	良	赤色粒子 白・黒色 砂粒雲母	褐色	_	_	外面体部縦位ハケメ後はヘケズリ 内面体部横ハケメ 底部ユビナデ

十器翻窣表

工品1	観察表	₹													y
挿図 番号	遺物 番号	注記 番号	出土 地点	器形	時期	残存率	法量(口径	cm)(現 器高	存値)	焼成	胎土	色調	口縁 部形	底径・口 径の比	調整技法
23	1	354	土器集中区	坏	10 期	破片	(15.8)	(4.5)	_	良	赤色粒子	橙色	玉縁?	_	外面体部回転ナデ 内部体部暗文あり 外面底部固縁回転へラケズリ
23	2	199	土器集中区	坏	_	破片	_	(2.7)	(4.4)	やや 良	白・赤・黒色 粒子雲母	橙色	_	_	外面体部斜位手持ちヘラケズリ底部ヘラケズリ
23	3	191	土器集中区	内黒 坏	9期	20%	(14.6)	5.2	(4.8)	良	赤·黒色 粒子雲母	明赤褐色	丸形	33%	内面体部に暗文あり(横位と縦位) 底部固縁回転ヘラケズリ
23	4	87	土器集中区	坏	_	10%	_	(3.2)	4.0	良	赤·黒色 粒子雲母	にぶい 赤褐色	-	-	内面体部に暗文あり 外面体部 底部手持ちヘラケズリ
23	5	253 258 325	土器集 中区	坏	10 期	90%	12.7	4.1	3.8	やや 良	赤色粒子 白·赤色砂粒	橙色	玉縁	30%	外面体部底部手持ちヘラケズリ 内 面体部に暗文あり 全体にゆがみ
24	6	270	土器集 中区	坏	9期	70%	11.3	4.4	4.3	やや 良	赤色粒子 白色砂粒	橙色	丸形	38%	外面体部底部手持ちヘラケズリ 内面体部に 暗文(不明瞭) 底部手持ちヘラケズリ
24	7	242	土器集 中区	坏	11期?	30%	(11.4)	3.8	4.4	良	赤・黒色 粒子	明赤 褐色	丸形	39%	外面体部手持ちヘラケズリ 回 転糸切り後ヘラケズリ
24	8	71	土器集 中区	坏	9期	30%	(12.2)	4.1	(3.8)	良	赤・黒色 粒子雲母	橙色	玉縁	31%	内面体部に暗文あり 外面体部 底部手持ちヘラケズリ
24	9	22	土器集 中区	坏	10期?	20%	_	(2.7)	6.4	やや 良	赤・黒色 粒子	橙色	_	_	外面体部斜位手持ちヘラケズリ 底 部底部周辺ヘラケズリ 信州系?
24	10	993	土器集 中区	内黒 坏	_	破片	_	(0.8)	(4.2)	良	赤・黒色 粒子	にぶい 橙色	_	_	内面体部暗文あり 底部ヘラケズ リ 底部周辺斜位ヘラケズリ
24	11	321	土器集 中区	坏	13期?	破片	_	(1.7)	(5.8)	良	赤・黒色 粒子	にぶい 橙色	_	_	底部回転糸切り後未調整
24	12	48	土器集 中区	Ш	9期	50%	(11.8)	2.5	-	良	白・赤色粒子砂礫	橙色	丸形	_	内面体部渦巻状に暗文あり 底部 と底部周辺回転ヘラケズリ
24	13	185	土器集中区	Ш	11期?	破片	(10.4)	1.8	(4.6)	やや	赤・黒色粒子雲母	明黄 褐色	丸形	_	内面外面とも回転ヘラケズリ
24	15	317 318	土器集中区	坏	中世	_	(13.8)	(3.2)		良	赤色粒子金色雲母	明褐色	_	_	内面外面ロクロナデ
24	16	308 309	土器集中区	坏 (碗)	中世	破片	(12.8)	(4.2)	_	良	赤色粒子・	褐色	_	_	内面外面ロクロナデ
24	17	90	土器集中区		9期	30%	(15.2)	2.0	(8.2)	良	赤・黒色 粒子	赤褐色	丸形	_	みこみ部に渦巻状に暗文あり 底部回転糸切り後へラケズリ 底部周辺回転横ナデ
24	18	一括のみ	土器集中区	高台付坏	11 世紀 前後	破片	(11.2)	(2.1)	6.2	良	— —	_	_	56%	内面外面ロクロナデ 灰釉陶器 三ヶ月高台 内面に
24	19	296	土器集中区	高台		破片	_	(1.9)	_	良	白・黒色粒子	灰白色	_	_	
24	20	300 303	土器集中区	坏 (碗)	中世	破片	_	(3.5)	5.4	良	赤色粒子金色雲母	褐色	_	_	ナデ
24	21	219	土器集 中区	高台 付坏	_	破片 口縁部~	_	(3.1)	7.2	良	白・黒色 粒子	灰白色	_		灰釉陶器 三ヶ月高台
24	22	68 238 241 255 256	土器集 中区	カメ	9期~ 10期	回移部~ 胴部上部 3分の1	(29.2)	(20.0)	_	良	白・黒色粒子黒・金色雲母	橙色	_		外面胴部縦ハケメ 内面胴部横 ハケメ 底部回転糸切り痕
25	23	61 209 222	土器集中区	カメ	9期~ 10期	口縁部の 二分の一	(28.0)	(7.9)	_	良	赤色粒子 白色砂粒 金色雲母	にぶい 赤褐色	_	_	外面胴部縦ハケメ 内面口縁部 胴部横ハケメ
25	24	75	土器集 中区	カメ	9期~ 10期	破片	(31.0)	(6.0)	_	良	赤色粒子 白色砂粒 金色雲母	褐色	_	_	外面胴部縦ハケメ 内面胴部横 ハケメ
25	25	245	土器集中区	カメ	9期~ 10期	破片	(31.4)	6.0	_	良	赤色粒子 白色砂粒 金色雲母	赤褐色	-	_	外面胴部縦ハケメ 内面胴部横 ヘラナデ
25	26	244	土器集 中区	カメ	9期~ 10期	破片	(30.0)	(6.2)	_	良	赤色粒子 白色砂粒 金色雲母	にぶい 赤褐色	_	_	外面胴部縦ハケメ 内面胴部へ ラナデ
25	27	355	土器集 中区	カメ	9期	破片	_	3.1	_	良	白・赤・ 黒色粒子 金色雲母	明赤褐色	口縁折 り返し	_	外面口縁へラナデ 胴部縦ハケメ 内面口縁胴部横ハケメ
25	28	80	土器集 中区	カメ	_	破片	_	(2.5)	_	良	赤色粒子 白色砂粒 雲母	褐色	口縁折 り返し	_	外面胴部縦ハケメ 内面口縁胴部ヘラケズリ
25	29	310	土器集 中区	カメ	_	破片	_	(6.2)	_	良	赤色粒子 白色砂粒 金色雲母	褐色	厚口縁部	_	外面胴部縦ヘラケズリ 内面胴部横ハケメ
25	30	251	土器集 中区	カメ	_	破片	_	(3.9)	_	良	赤色粒子 黒・金色 雲母	褐色	口縁折 り返し	_	外面胴部縦ハケメ 内面体部へ ラナデ
25	31	59 70 73 85	土器集 中区	カメ	9期	底部破片	_	9.0	_	良	赤色粒子 白・黒色 砂粒雲母	明褐色	_	_	外面体部ヘラケズリ 内面体部 横ハケメ 底部木葉痕
25	32	58	土器集 中区	カメ	_	底部二 分の一	_	(3.2)	10.0	良	赤色粒子 白色砂粒	灰褐色	_		外面体部縦ハケメ 内面体部ハケメ 底部本葉痕
26	33	49 51 62 205 207 210 224 33	土器集中区	カメ	-	胴部破片	_	(15.9)	_	良	赤色粒子 金・黒色 雲母	褐色	_	_	外面胴部縦ハケメ 内面体部ユビナデ後横ハケメ
26	34	202	土器集中区	カメ	_	底部破片	_	(4.1)	(8.2)	良	赤色粒子 白・黒色 砂粒雲母	明赤褐色	_	_	外面縦ハケメ後ヘラナデ 内面 横ヘラケズリ 底部木葉痕

十器観察表

	気気ズ	х.													
挿図	遺物	注記	出土	器形	時期	残存率	法量(cm)(現	存値)	焼成	胎土	色調	口縁	底径・口	調整技法
番号	番号	番号	地点	もさハン	₩ 41 141	及行手	口径	器高	底径	NE II			部形	径の比	MILIXIA
26	35	74	土器集 中区	カメ	_	底部破片	1	(4.1)	(8.0)	良	赤色粒子 白・黒色 砂粒雲母	明褐色	I	_	外面わずかに縦ハケメ 内面横 ハケメ 底部木葉痕
26	36	223	土器集中区	ロクロガメ	_	底部のみ	_	(2.3)	7.8	良	赤色粒子 白・赤・ 黒色砂粒	明赤 褐色	1	_	外面内面体部ロクロナデ底部回 転糸切り痕
26	37	179 189	土器集 中区	S字 ガメ	古墳	_	-	(5.2)	1	良	赤色粒子 白·黑色砂粒 金色雲母	にぶい 黄橙色	1	_	外面系斜位ハケメ 内面ユビナ デ
26	38	196	土器集 中区	柱状 高台坏	12期	底部のみ	1	(4.7)	7.8	良	赤色粒子 白·黑色砂粒	にぶい 赤褐色	1	_	外面内面体部ともロクロナデ 底部回転糸切り痕
26	39	316	土器集 中区	須恵器 カメ	10期	底部破片	ı	(7.8)	(16.0)	良	白色砂粒	灰色	1	_	外面体部タタキ
26	40	257 259	土器集 中区	須恵器 カメ	1	破片	1	(6.8)	-	良	白色砂粒	灰色	ı	_	外面に灰釉
26	41	168	土器集 中区	獣足 (姓の足)	1	破片	ı	(5.6)	_	やや 粗	白・黒色 砂粒	にぶい 灰褐色	1	_	
26	42	351	土器集 中区	置き カマド	_	破片	_	(4.1)	(16.0)	やや 良	赤色粒子 白色粒子 金色雲母	にぶい 灰褐色	_	_	外面体部ハケメ 内部体部ハケメ ユビナデ底部折り返し

磁器観察表(江戸時代)

	既宗る	夏 (江戸										
挿図 番号	遺物 番号	注記 番号	出土 地点		 器種	形状	種別	法量(口径	cm)(現 器形	存値) 底径	絵付け・釉薬	備考
27	1	106 148	2 号溝	碗	小	丸形	磁器	(5.4)	4.7	3.2	染付	菊
27	2	118	2 号溝	碗	中	丸形	磁器	(10.2)	(4.0)	_	染付	菊 etc
27	3		2 号溝	碗	小	丸形	磁器	(8.0)	(4.4)	_		菊 内面に焼継の汚れ
27	4		2 号溝	碗	小小	端反形	磁器	(8.8)	4.4	(3.6)	染付	笹
27	5		2 号溝	碗	ф.	丸形	磁器	(10.9)	5.9	(4.5)	染付	
27	6	7	2 号溝	碗	小	筒形	磁器	(7.0)	(4.1)		染付	 菊花散らし
27	7		2 号溝	-	_	_	磁器		2.1	_	染付	蛸唐草 焼継
27	8	_	2 号溝	碗	小	端反形	磁器		(3.5)	_	 染付	
27	17	37	2 号溝	碗	小	丸形	磁器	7.0	(2.3)		 染付	
27	9		 2 号溝	碗	小	-	磁器	_	(3.8)		 染付	雪輪梅樹文 ?
27	10		 2 号溝	 	_	_	磁器		(3.8)	_	 染付	
27	11		2 号溝	<u> </u>	_	_	磁器		(3.2)	_	 染付	雪輪梅樹文 ?
27	12	5	2 号溝	碗	小	丸形	磁器		(3.8)	_	なし	内面に焼継の液たれの跡
27	13	22	2 号溝	碗	中	丸形	磁器		(2.6)	_	 染付	
27	14	_	2 号溝	-	_	_	磁器		(2.8)	_	 染付	菊花文
27	15	- 1	2 号溝	-	_	_	磁器	_	(2.1)	_	染付	花
27	16	3	2 号溝	碗	中	丸形	磁器	(10.6)	(4.2)	_	染付	
27	17	37	2 号溝	碗	小	丸形	磁器	7.0	(2.3)	-	染付	船 一重網目文様
27	18	114	2 号溝	碗	ф	丸形	磁器	_	(3.5)	(4.0)	染付	花 雲? 焼継
27	19	31	2 号溝	碗	中	丸形	磁器	_	(3.6)	(4.4)	染付	木?
27	20	_	2 号溝	碗	中	丸形	磁器	_	(2.7)	(6.0)	染付	菊?
27	21	13	2 号溝	δ⁄ē	小	丸形	磁器	_	4.4	_	染付	笹
27	22	32	2 号溝	69i	小	丸形	磁器	_	(3.4)	_	染付	
27	23		2 号溝	碗	中	_	磁器	_	_	(4.0)	染付	
28	24	_	2 号溝	碗	中	丸形	磁器	-	(3.0)	(4.0)	染付	蛸唐草 見込鶴 底部文字か記号 焼 継
28	25	11	2 号溝	碗	中	丸形	磁器		(2.8)	(4.0)	染付	雲? 見込
28	26	115	2 号溝	碗	中	丸形	磁器	-	(2.7)	(4.5)	染付	
28	27	_	2 号溝	碗	中	-	磁器	_	(1.8)	(3.0)	染付	菊 貫入
28	28	-	2 号溝	碗	中	_	磁器	_	(3.0)	(4.0)	染付	笹 花 焼継 底部に記号
28	29		2 号溝	碗	中	丸形	磁器	_	(4.3)	(4.0)	染付	
28	30	_	2 号溝	69 1 2	中	丸形	磁器	_	(1.3)	(5.5)	染付	見込 五弁花?
28	31		2 号溝	碗	中	丸形	磁器	_	(2.6)	(4.4)	染付	
28	32	_	2 号溝	碗	中	丸形	磁器		(3.8)	4.2	染付	見込鶴?
28	33		2 号溝	_		_	磁器		(1.7)	_	染付	
29	34	29	2 号溝	碗	中	丸形	磁器	_	(3.5)	(3.6)	染付	菊? 見込寿 焼継
29	35	121	2 号溝	碗	中	丸形	磁器	_	(2.8)	(4.4)	染付	見込 寿

磁器観察表(江戸時代)

特別	磁器観察表(江戸時代)												
29 37 一 2 号薄 碗 中 丸形 磁器 一 (2.9) (8.0) 染付 空輪線数文 29 39 34 2 号沸 碗 中 丸形 磁器 一 (2.4) (3.8) 染付 操栓 操栓 操栓 操栓 操栓 操栓 操栓 操	挿図	遺物	注記	出土	2	居種	形状	種別		cm)(現 器形		絵付け・釉薬	備考
29 38 34 2 号薄 碗 小 一 一 一 一 一 一 中 決別 監督 一 二 上 日 <th< td=""><td></td><td>36</td><td>_</td><td>2 号溝</td><td>碗</td><td>中</td><td></td><td>磁器</td><td>_</td><td></td><td>_</td><td>染付</td><td></td></th<>		36	_	2 号溝	碗	中		磁器	_		_	染付	
29 39 124 2号離 碗 中 丸形 磁器 一 (2.4) (3.8) 染付 換離 換離 上 受け 検離 上 受け 使和 上 使け 使和 上 使け 使和 上 使力 上 使器 上 (1.7) 上 使け 使和 上 使和 上 使器 上 (1.7) 上 使け 使和 上 使け 使和 上 使け 使和 上 使用 上	29	37	_	2 号溝	碗	中	丸形	磁器		(2.9)	(8.0)	染付	
29 40 147 2 号薄 碗 小 端反形 磁器 一 (3.4) 一 染付 29 41 14 2 号薄 碗 小 端反形 磁器 一 (42) 一 染付 世 29 42 一 2 号溝 碗 中 一 磁器 一 (26) 一 染付 世 29 43 一 2 号溝 前 中 一 磁器 一 一 染付 東付 29 45 一 2 号溝 一 一 一 磁器 一 24 一 2 号溝 一 一 一 磁器 一 (24) 一 染付 一 29 46 一 2 号溝 四 小 一 磁器 (9.5) 2.3 4.6 公 次分 上 29溝 四 小 一 磁器 (9.5) 2.3 4.6 公 染付 量 上 2.3 4.6 公 次付 量 上 2.3 4.6 公 次付 上	29	38	34	2 号溝	碗	小	_	_	_	_	_	染付	雪輪梅樹文
29 41 14 2 号薄	29	39	124	2 号溝	碗	中	丸形	磁器	_	(2.4)	(3.8)	染付	焼継
29 42 一 2号薄 一 一 一 磁器 一 (2.6) 一 集付 種子 29 43 一 2号薄 碗 中 一 磁器 一 1.9 一 染付 類付 29 44 一 2号薄 一 一 一 磁器 一 一 集付 29 45 一 2号薄 一 一 一 磁器 一 2.4) 一 染付 二 29 46 一 2号薄 一 一 一 磁器 一 (2.1) (7.2) 染付 29 47 一 2号薄 皿 小 一 磁器 (2.1) (7.2) 染付 極初 29 49 18 2号薄 皿 小 一 磁器 (6.8) 2.2 1.4 染付 無付 無付 29 50 一 2号薄 皿 小 一 磁器 (1.7) (6.2) 染付 無付 上 上 上 上	29	40	147	2 号溝	碗	小	端反形	磁器	_	(3.4)	-	染付	
29 43 一 2号溝 碗 中 一 磁器 一 一 染付 類人 29 44 一 2号溝 一 一 一 磁器 一 一 染付 29 45 一 2号溝 一 一 磁器 一 (2.4) 一 染付 29 46 一 2号溝 一 一 磁器 一 (2.1) (7.2) 染付 29 47 一 2号溝 皿 小 一 磁器 一 (2.1) (7.2) 染付 29 48 36 2号溝 皿 小 一 磁器 (6.8) 2.2 1.4 染付 鳥(ひな) 29 50 一 2号溝 皿 小 一 磁器 (6.8) 2.2 1.4 染付 鳥(ひな) 30 52 113 2号溝 皿 小 一 磁器 (1.7) (6.2) 染付 30 53 10 2号溝 皿 中 一 磁器 (1.5)	29	41	14	2 号溝	碗	小	端反形	磁器	_	(4.2)		染付	
29 44 一 2号薄 一 一 一 破器 一 一 染付 29 45 一 2号薄 一 一 一 破器 一 24 一 染付 29 46 一 2号薄 皿 小 一 破器 一 24 一 染付 29 47 一 29薄 皿 小 一 磁器 05 2.3 (4.6) 染付 植物 29 48 36 2号薄 皿 小 一 磁器 0.5 2.3 (4.6) 染付 植物 29 50 一 2号薄 皿 小 一 磁器 0.2 1.4 染付 鳥(ひな) 29 51 138 2号薄 皿 小 一 磁器 1.0 (2.3) - 染付 量 30 52 113 2号溝 皿 小 一 磁器 1.1.7 6.2) 染付 是 30 53 10 2号溝 皿 中	29	42	_	2 号溝	_	-	_	磁器	_	(2.6)	_	染付	笹
29 45 - 2 2 号薄 - 2 2 号薄 - 2 2 号薄 - 2 - 3 - 4 磁器 - 3 (3.3) - 3 - 3 - 4 株付 29 46 - 2 2 号薄 - 3 - 4 磁器 - 3 (2.4) - 4 株付 29 47 - 2 2 号薄 - 3 - 4 磁器 - 3 (2.4) - 4 株付 29 47 - 3 - 4 2 号薄 - 3 - 4 磁器 - 3 (2.4) - 4 株付 29 48 36 2 2 号薄 - 3 - 4 (4.6) 株付 4 極勢 - 3 (4.6) 株付 2 日本 株付 2 日本 株付 2 日本 株付 4 極勢 - 3 (4.6) 株付 2 日本 株成 2 日本 株付 2 日本 株成 2 日本 株成 </td <td>29</td> <td>43</td> <td>_</td> <td>2 号溝</td> <td>碗</td> <td>中</td> <td>_</td> <td>磁器</td> <td>_</td> <td>(1.9)</td> <td>_</td> <td>染付</td> <td>菊 貫入</td>	29	43	_	2 号溝	碗	中	_	磁器	_	(1.9)	_	染付	菊 貫入
29 46 - 2号薄 - - - 磁器 - (2.4) - 染付 29 47 - 2号薄 皿 小 - 磁器 - (2.1) (7.2) 染付 29 48 36 2号溝 皿 小 - 磁器 (9.5) 2.3 (4.6) 染付 植物 29 50 - 2号溝 皿 小 - 磁器 (14.0) (2.3) - 染付 鳥(ひな) 29 51 138 2号溝 皿 小 - 磁器 (14.0) (2.3) - 染付 30 52 113 2号溝 皿 中 - 磁器 (15.0) 3.4 (8.0) 染付 雲 30 53 10 2号溝 皿 中 - 磁器 - (2.3) (8.5) 染付 見込風景 庭部に文字もり 焼継 30 54 - 2号溝 皿 中 - 磁器 - (1.7) - 染付 要込風景 会	29	44	_	2 号溝	_	_	_	磁器	_	_	_	染付	
29 47 - 2号機 皿 小 - 磁器 - (2.1) (7.2) 染付 29 48 36 2号機 皿 小 - 磁器 (9.5) 2.3 (4.6) 染付 植物 29 49 18 2号機 皿 小 - 磁器 (6.8) 2.2 1.4 染付 鳥(ひな) 29 50 - 2号機 皿 中 - 磁器 (14.0) (2.3) - 染付 30 51 138 2号溝 皿 中 - 磁器 (15.0) 3.4 (8.0) 染付 雲 30 52 113 2号溝 皿 中 - 磁器 (15.0) 3.4 (8.0) 染付 雲 30 53 10 2号溝 皿 中 - 磁器 - (2.3) (8.5) 染付 見込風景 底部に文字あり焼煙 30 54 - 2号溝 皿 中 磁器 - (1.7) - 染付 見込風景 上上風	29	45	_	2 号溝	_	1	_	磁器	_	(3.3)	_	染付	
29 48 36 2号溝	29	46	-	2 号溝	_	1	_	磁器	_	(2.4)		染付	
29 49 18 2号溝	29	47	_	2 号溝	Ш	小	_	磁器	_	(2.1)	(7.2)	染付	
29 50 - 2号溝 皿 中 - 磁器 (14.0) (2.3) - 染付 29 51 138 2号溝 皿 小 - 磁器 - (1.7) (6.2) 染付 30 52 113 2号溝 皿 中 - 磁器 (15.0) 3.4 (8.0) 染付 雲 30 53 10 2号溝 皿 中 - 磁器 - (2.3) (8.5) 染付 見込風景 底部に文字あり 焼継 30 54 - 2号溝 皿 中 - 磁器 - (1.1) - 染付 見込風景 底部に文字あり 焼継 30 55 19 2号溝 皿 中 - 磁器 - (1.1) - 染付 霊 30 56 - 2号溝 郵 - - 磁器 - (3.3) (9.2) 外面に釉 30 58 - 2号溝 鉢 - - 磁器 - (2.3) (6.4) 外面に釉 30 <	29	48	36	2 号溝	m	小	_	磁器	(9.5)	2.3	(4.6)	染付	植物
29 51 138 2 号溝 皿 小 一 磁器 一 (1.7) (6.2) 染付 30 52 113 2 号溝 皿 中 一 磁器 (15.0) 3.4 (8.0) 染付 雲 30 53 10 2 号溝 皿 中 一 磁器 一 (2.3) (8.5) 染付 見込風景 底部に文字あり 焼継 30 54 一 2 号溝 皿 中 一 磁器 一 (1.7) 一 染付 見込風景 底部に文字あり 焼継 30 55 19 2 号溝 皿 中 一 磁器 一 (1.4) 一 染付 雲 30 56 一 2 号溝 皿 中 一 磁器 一 (3.3) (9.2) 外面に釉 30 57 一 2 号溝 鉢 ー 一 磁器 一 (2.3) (6.4) 外面に釉 30 59 2 2 号溝 段重 ー 一 磁器 ー (1.3) 一 染付 底部に焼継の記帳 無	29	49	18	2 号溝	Ш	小	_	磁器	(6.8)	2.2	1.4	染付	鳥(ひな)
30 52 113 2 号溝 皿 中 一 磁器 (15.0) 3.4 (8.0) 染付 雲 (15.0) 53 10 2 号溝 皿 中 一 磁器 一 (2.3) (8.5) 染付 見込風景 底部に文字あり 焼継 30 54 一 2 号溝 皿 中 一 磁器 一 (1.7) 一 染付 雲 一 一 一 一 一 一 一 一 一	29	50	_	2 号溝	Ш	中	_	磁器	(14.0)	(2.3)	_	染付	
30 53 10 2 号溝 皿 中 一 磁器 一 (2.3) (8.5) 染付 見込風景 底部に文字あり 焼継 30 54 一 2 号溝 皿 中 一 磁器 一 (1.7) 一 染付 雲 30 55 19 2 号溝 皿 中 一 磁器 一 (4.0) (7.2) 染付 雲 30 57 一 2 号溝 鉢 一 一 磁器 一 (3.3) (9.2) 外面に釉 30 58 一 2 号溝 鉢 一 一 磁器 一 (2.3) (6.4) 外面に釉 30 59 2 2 号溝 皿 中 一 磁器 一 (1.3) 一 染付 底部に焼継の記号 焼継 30 60 25 2 号溝 段重 一 一 磁器 一 (3.9) 一 染付 蛸唐草 焼継 30 61 一 2 号溝 ស 一 一 磁器 (14.8) 5.1 (16.8) 染付 蛸唐草 焼継 30 62 一 2 号溝 段重 一 一 磁器 (13.2) (4.4) 一 染付 蛸唐草 焼 31 64 一 2 号溝 徳利 一 一 磁器 一 (2.5) (5.6) 外面に釉 底部に重ね焼きの跡 31 66 一 2 号溝 極利 一 一 磁器 一 (2.5) (5.6) 外面に釉 底部に重ね焼きの跡 31 66 一 2 号溝 瓶 一 一 磁器 一 (3.0) 一 染付 和	29	51	138	2 号溝	Ш	小	_	磁器	_	(1.7)	(6.2)	染付	
30 54 一 2 号溝 皿 中 一 磁器 一 (1.7) 一 染付 2 号溝 皿 中 一 磁器 一 (1.4) 一 染付 雲 30 56 一 2 号溝 皿 中 一 磁器 一 (4.0) (7.2) 染付 雲 30 57 一 2 号溝 鉢 一 一 磁器 一 (3.3) (9.2) 外面に釉 30 58 一 2 号溝 鉢 一 一 磁器 一 (2.3) (6.4) 外面に釉 30 59 2 2 号溝 皿 中 一 磁器 一 (1.3) 一 染付 底部に焼継の記号 焼継 30 60 25 2 号溝 段重 一 一 磁器 一 (1.8) 条件 销唐草 焼継 30 61 一 2 号溝 鉢 一 一 磁器 一 (3.9) 一 染付 対	30	52	113	2 号溝	m	中	_	磁器	(15.0)	3.4	(8.0)	染付	雲
30 55 19 2号溝 皿 中 一 磁器 一 (1.4) 一 染付 雲 30 56 一 2号溝 皿 中 一 磁器 一 (4.0) (7.2) 染付 雲 30 57 一 2号溝 鉢 一 磁器 一 (3.3) (9.2) 外面に釉 30 58 一 2号溝 鉢 一 磁器 一 (2.3) (6.4) 外面に釉 30 59 2 2号溝 皿 中 一 磁器 一 (1.3) 一 染付 底部に焼継の記号 焼継 30 60 25 2号溝 段重 一 一 磁器 一 (3.9) 一 染付 蛸唐草 焼継 30 61 一 2号溝 段重 一 一 磁器 一 (3.9) 一 染付 蛸唐草 30 62 一 2号溝 股重 一 磁器 一 (3.9) 一 染付 蛸唐草 30 63 7 2号溝 </td <td>30</td> <td>53</td> <td>10</td> <td>2 号溝</td> <td>Ш</td> <td>中</td> <td>_</td> <td>磁器</td> <td> -</td> <td>(2.3)</td> <td>(8.5)</td> <td>染付</td> <td>見込風景 底部に文字あり 焼継</td>	30	53	10	2 号溝	Ш	中	_	磁器	-	(2.3)	(8.5)	染付	見込風景 底部に文字あり 焼継
30 56 - 2 号溝 皿 中 - 磁器 - (4.0) (7.2) 染付 雲 30 57 - 2 号溝 鉢 - - 磁器 - (3.3) (9.2) 外面に釉 30 58 - 2 号溝 鉢 - - 磁器 - (2.3) (6.4) 外面に釉 30 59 2 2 号溝 皿 中 - 磁器 - (1.3) - 染付 底部に焼継の記号 焼継 30 60 25 2 号溝 段重 - - 磁器 - (16.8) 染付 蛸唐草 焼継 30 61 - 2 号溝 段重 - - 磁器 - (3.9) - 染付 30 62 - 2 号溝 段重 - - 磁器 - (3.9) - 染付 蛸唐草 30 63 7 2 号溝 段重 - - 磁器 - (0.8) - 染付 31 64 - 2 号溝 徳利 - - 磁器 - (2.4) (3.6) 外付 31 66 - 2 号溝 徳利 - </td <td>30</td> <td>54</td> <td>_</td> <td>2 号溝</td> <td>ш</td> <td>中</td> <td>_</td> <td>磁器</td> <td>_</td> <td>(1.7)</td> <td></td> <td>染付</td> <td></td>	30	54	_	2 号溝	ш	中	_	磁器	_	(1.7)		染付	
30 57 - 2号溝 鉢 - 磁器 - (3.3) (9.2) 外面に釉	30	55	19	2 号溝	ш	中	-	磁器	_	(1.4)	_	染付	
30 58 - 2号溝 鉢 - 磁器 - (2.3) (6.4) 外面に釉 30 59 2 2号溝 皿 中 - 磁器 - (1.3) - 染付 底部に焼継の記号 焼継 30 60 25 2号溝 段重 - - 磁器 - (16.8) 染付 蛸唐草 焼継 30 61 - 2号溝 鉢 - - 磁器 - (3.9) - 染付 30 62 - 2号溝 段重 - - 磁器 - (3.9) - 染付 30 63 7 2号溝 段重 - - 磁器 - (2.4) (3.6) ・ 31 64 - 2号溝 徳利 - - 磁器 - (2.4) (3.6) 染付 31 65 183 2号溝 徳利 - - 磁器 - (2.5) (5.6) 外面に釉 底部に重ね焼きの跡 31 66 - 2号溝 瓶 - - 磁器 - (3.0) - 染付 釉	30	56	1	2 号溝	ш	中	_	磁器	_	(4.0)	(7.2)	染付	套
30 59 2 2 号溝 皿 中 一 磁器 一 (1.3) 一 染付 底部に焼継の記号 焼継 30 60 25 2 号溝 段重 一 一 磁器 (14.8) 5.1 (16.8) 染付 蛸唐草 焼継 30 61 一 2 号溝 タ重 一 一 磁器 一 一 磁器 一 一 染付 蛸唐草 焼継 30 62 一 2 号溝 段重 一 一 磁器 一 一 一 一 一 一 一 一 一	30	57	_	2 号溝	鉢	_	_	磁器	_	(3.3)	(9.2)	外面に釉	
30 60 25 2 号溝 段重 - 磁器 (14.8) 5.1 (16.8) 染付 蛸唐草 焼継 30 61 - 2 号溝 鉢 - 磁器 - (3.9) - 染付 30 62 - 2 号溝 段重 - - 磁器 - (2.4) (3.9) - 染付 30 63 7 2 号溝 段重 - - 磁器 - (0.8) - 染付 31 64 - 2 号溝 徳利 - - 磁器 - (2.4) (3.6) 染付 31 65 183 2 号溝 徳利 - - 磁器 - (2.5) (5.6) 外面に釉 底部に重ね焼きの跡 31 66 - 2 号溝 瓶 - - 磁器 - (3.0) - 染付 釉	30	58	_	2 号溝	鉢	_	_	磁器	_	(2.3)	(6.4)	外面に釉	
30 61 - 2号溝 鉢 - 磁器 - 3.9) - 染付 30 62 - 2号溝 段重 - - 磁器 (13.2) (4.4) - 染付 蛸唐草 30 63 7 2号溝 段重 - - 磁器 - (0.8) - 染付 31 64 - 2号溝 徳利 - - 磁器 - (2.4) (3.6) 染付 31 65 183 2号溝 徳利 - - 磁器 - (2.5) (5.6) 外面に釉 底部に重ね焼きの跡 31 66 - 2号溝 瓶 - - 磁器 - (3.0) - 染付 釉	30	59	2	2 号溝	Ш	中	_	磁器	_	(1.3)	_	染付	底部に焼継の記号 焼継
30 62 - 2号溝 段重 - 磁器 (13.2) (4.4) - 染付 蛸唐草 30 63 7 2号溝 段重 - 磁器 - (0.8) - 染付 31 64 - 2号溝 徳利 - - 磁器 - (2.4) (3.6) 染付 31 65 183 2号溝 徳利 - - 磁器 - (2.5) (5.6) 外面に釉 底部に重ね焼きの跡 31 66 - 2号溝 瓶 - - 磁器 - (3.0) - 染付 釉	30	60	25	2 号溝	段重	_	_	磁器	(14.8)	5.1	(16.8)	染付	蛸唐草 焼継
30 63 7 2 号溝 段重 - 磁器 - (0.8) - 染付 31 64 - 2 号溝 徳利 - - 磁器 - (2.4) (3.6) 染付 31 65 183 2 号溝 徳利 - - 磁器 - (2.5) (5.6) 外面に釉 底部に重ね焼きの跡 31 66 - 2 号溝 瓶 - - 磁器 - (3.0) - 染付 釉	30	61	-	2 号溝	鉢	_	_	磁器	_	(3.9)	_	染付	
31 64 - 2号溝 徳利 - - 磁器 - (2.4) (3.6) 染付 31 65 183 2号溝 徳利 - - 磁器 - (2.5) (5.6) 外面に釉 底部に重ね焼きの跡 31 66 - 2号溝 瓶 - - 磁器 - (3.0) - 染付 釉	30	62	_	2 号溝	段重	_	_	磁器	(13.2)	(4.4)	_	染付	蛸唐草
31 65 183 2 号溝 徳利 一 磁器 一 (2.5) (5.6) 外面に釉 底部に重ね焼きの跡 31 66 一 2 号溝 瓶 一 磁器 一 (3.0) 一 染付 釉	30	63	7	2 号溝	段重	_		磁器		(0.8)		染付	
31 66 - 2号溝 瓶 磁器 - (3.0) - 染付 釉	31	64		2 号溝	徳利	_	_	磁器	_	(2.4)	(3.6)	染付	
	31	65	183	2 号溝	徳利	_	_	磁器	_	(2.5)	(5.6)	外面に釉	底部に重ね焼きの跡
31 67 29 2 5溝 土瓶 磁器 - (3.0) - 染付	31	66		2 号溝	瓶			磁器	_	(3.0)	_	染付	釉
	31	67	29	2 号溝	土瓶	_	_	磁器		(3.0)	_	染付	

磁器観察表(明治時代)

1222名6日	既祭表	しかん	1時代)									
挿図	遺物	注記	出土地点	器種	——— i	形状	種別		(cm)(現存		絵付け	備考
番号	番号	番号			т			口径	器形	底径	釉薬	/#I-5
31	1	_	2 号溝	碗	小	丸形	磁器	(7.0)	4.0	(3.6)	染付	風景
31	2	_	2 号溝	碗	小	端反形	磁器	(7.0)	3.9	(3.0)	銅板転写	唐子 蝶
31	3	-	2 号溝	碗	小	丸形	磁器	(8.8)	4.4	(2.8)	銅板転写	菊
31	4	_	2 号溝	碗	中	端反形	磁器	(11.2)	5.8	(3.8)	染付	植物(葉)
31	5		2 号溝	碗	小	端反形	磁器	(9.8)	(5.0)	_	染付	五弁花
31	6	144	2 号溝	碗	中	丸形	磁器	(11.2)	(4.1)	_	_	松葉 花
31	7	_	2 号溝	碗	小	_	磁器	_	(3.1)	(4.2)	染付	
31	8		2 号溝	碗	小	_	磁器	-	(3.4)	(4.0)	染付	
31	9	16	2 号溝	碗	中	丸形	磁器	_	(5.0)	(3.8)	型紙摺り	見込菊 他
31	10	_	2 号溝	碗	中	_	磁器	_	(3.5)	(3.6)	型紙摺り	
31	11	_	2 号溝	碗	中	_	磁器		(3.0)	(3.8)	型紙摺り	
31	12	_	2 号溝	碗	中	_	磁器	-	(3.0)	(3.6)	型紙摺り	
31	13	139	2 号溝	碗	_	_	磁器	_	(2.1)	(3.0)	色絵	笹 見込に文字?
31	14		2 号溝	碗	_		磁器	_	(2.7)	_	型紙摺り	菊 五弁花 波
31	15	-	2 号溝	碗	-	_	磁器	_	(1.8)	_	型紙摺り	
32	16	_	2 号溝	碗	_	_	磁器	-	(3.1)	_	染付	唐草
32	17	_	2 号溝	碗	_	_	磁器	_	(3.8)	-	銅板転写	
32	18	_	2 号溝	碗			磁器	_	(2.5)	_	型紙摺り	
32	19	_	2 号溝	碗	_		磁器		(2.7)	-	型紙摺り	
32	20	_	2 号溝	酒坏	_	_	磁器	_	(0.9)	2.4	_	
32	21	_	2 号溝	酒坏	_	_	磁器	_	(0.8)	2.2	_	
32	22	5	2 号溝	酒坏	-	_	磁器	_	(2.2)	_	_	
32	23	_	2 号溝	碗の蓋	_	_	磁器	_	(1.3)	_	染付	
32	24	-	2 号溝	徳利	_	_	磁器	-	(9.1)	(5.4)	銅板転写	
52	24		4 与件	ルボイリ			1003.66		(9.1)	(0.4)		

陶器·瓦観察表 (江戸時代)

	現余衣(4	34-57 aff. [2]	ili lakkate	99.44	形状 種別		法量(cm)(現存値)			絵付け 釉薬	備考
挿図番号	遺物番号	注記番号	出土地点	器種	7541	性別	口径	器高	底径	私刊り 他来	畑つ
32	1		2 号溝	急須	_	陶器	(6.8)	(0.9)	_		
32	2		2 号溝	急須	_	陶器	(11.0)	(3.2)	_		
32	3	24	2 号溝	急須の蓋	_	陶器	(8.4)	(6.4)	_	京 しからき	
32	4	23	2 号溝	蓋	_	陶器	5.6	(2.5)	_		L
32	5		2 号溝	碗·小	_	陶器	9.4	(5.0)	_	染付	全体に釉
32	6	127	2 号溝	すり鉢	_	陶器	(31.2)	(6.8)	_		
32	7	100	2 号溝	瓦	_	_	長 7.9	頭 7.7	厚 1.9		

古銭・キセル観察表

							ž	A++ +v.			
挿図番号	遺物番号	注記番号	出土地点	器種	形状	種別	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	備考	
32	1	_	寺部3・東部一括	古銭	_	_	2.5	2.5	0.15	淳化元寶	
32	· 2	-	寺部3・東部一括	古銭	_	_	2.5	2.5	0.15	皇宗通寶	
32	3	_	寺部3・東部一括	古銭	_	_	2.5	2.5	2.5	開元通寶	
32	4	_	寺部3・東部一括	古銭	_	_	2.5	2.5	2.5	寛永通寶	
32	5	_	寺部3・東部一括	キセル	_	_	1.9	_			

住居・溝・土坑・井戸・水溜観察表

		流・井戸・水溜観察表 *▽ :☆嬢々		W		規模(cm)	1	/#: #£	
挿図番号	調査区	遺構名	位置(グリッド)	平面形状	断面形状	長軸	短軸	深さ	- 備考
4	寺部1区	1 溝	120 • 129 • 193	_	鍋型	900	150	10	
4	寺部1区	2 溝	121 • 129 • 194	_	鍋型	753	80	8	
4	寺部1区	3 溝	130 • 139	_	鍋型	295	110	22	
4	寺部1区	4 溝	130	_	箱形	300	23	11	
4	寺部1区	5 溝	139 • 148	_	U字型	510	27	16	
5	寺部1区	6 溝	149 • 158	_	鍋型	830	30	12	
5	寺部1区	7溝	140 • 141	_	箱形	1200	76	30	
5	寺部1区	8 溝	149	_	箱形	640	40	28	
4	寺部1区	1 土坑	120	楕円形	箱形	80	45	30	
4	寺部1区	2 土坑	129	円形	鍋型	64	53	16	
4	寺部1区	3 土坑	_	円形	鍋型	64	60	21	
4	寺部1区	4 土坑	139	円形	箱形	72	70	32	
5	寺部1区	5 土坑	132	不整円形	U字型	138	40	50	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
5	寺部1区	6 土坑	132	円形	U字型	62	50	64	
5	寺部1区	7 土坑	140	不整円形	箱形	266	110	46	
5	寺部1区	8 土坑	141	円形	U字型	68	56	64	
5	寺部1区	9 土坑	141	楕円形	U字型	50	28	38	
5	寺部1区	10 土坑	149	楕円形	鍋型	71	50	30	`
5	寺部1区	11 土坑	150	楕円形	U字型	126	151	66	
5	寺部1区	12 土坑	150	楕円形	箱形	86	50	22	
5	寺部1区	13 土坑	149	楕円形	鍋型	72	54	26	
6	寺部1区	水溜 1	158	楕円形	箱形	95	76	17	
5	寺部1区	水溜 2	_	円形	箱形	22	20	74	<u> </u>
6	寺部1区	水溜3	148	楕円形	鍋型	165	87	30	
7	寺部2区	1溝	625 • 636	- CIC 181	不整形	510	56	17	
7	寺部2区	2 溝	626 • 637	_	鍋型	740	57	18	
8	寺部2区	3 溝	647		不整形	362	90	12	
8	寺部 2 区	4 溝	647 • 648 • 658 • 659		不整形	610	112	14	
8	寺部2区	5 溝	690 • 691 • 701	_	箱形	628	42	12	
8	寺部2区	6 溝	702	_	箱形	312	70	10	
8	寺部2区	7溝	702 • 703		箱形	400	68	14	
8	寺部2区	8 溝	624 • 625 • 635 • 646	_	鍋型	1390	70	10	
8	寺部2区	1 土坑	646	方形	不整形	72	58	20	
7	寺部 2 区	2 土坑	658	円形	箱形	350	260	30	
8	寺部 2 区	3 土坑	658	方形	鍋型	36	30	10	
•	40070	3 7.96	873 • 878 • 879 • 880 •	73715	刺尘	36	30	10	
10	寺部 3 区	1 号溝	881 • 882 • 883 • 884 • 885 • 888 • 889	_	箱形	4250	150	50	
11	寺部3区	2 号溝	170 • 193 • 194 • 350 • 721 • 722 • 732 • 733 • 885 • 896 • 907 • 918	_	鍋型	2600	50	54	
12	寺部3区	1 土坑	848	楕円形	鍋型	230	105	23	
12	寺部3区	2 土坑	848	楕円形	鍋型	230	95	25	
12	寺部3区	3 土坑	848	楕円形	鍋型	95	65	22	
12	寺部3区	4 土坑	859	楕円形	不整形	132	67	13	
12	寺部3区	5 土坑	847	円形	鍋型	62	57	10	
12	寺部3区	6 土坑	847	不整形	不整形	100	90	28	
12	寺部3区	7 土坑	860 • 861	不整形	不整形	82	60	10	
12	寺部3区	8 土坑	861	不整形	不整形	68	65	10	
12	寺部3区	9 土坑	861	不整形	不整形	125	103	7	
12	寺部3区	10 土坑	860	方形	鍋型	80	67	19	
12	寺部3区	11 土坑	860	不整形	鍋型	182	65	14	
12	寺部3区	12 土坑	872	不整形	鍋型	125	117	17	
14	寺部3区	13 土坑	859	不整形	鍋型	265	220	14	
14	寺部3区	14 土坑	870	円形	鍋型	110	102	22	
13	寺部3区	15 土坑	856 • 857	不整形	鍋型	180	151	26	
13	寺部3区	井戸	926 • 927	不整形	鍋型	146	133	27	
18	寺部 4 区	1住	1093 • 1094 • 1107 •	正方形	箱形	350	350	400	
			1108						
18	寺部 4 区	2住	1096 • 1097	正方形	箱形	300	300	300	

まとめ

寺部村附第9・中西第3遺跡での今回の発掘調査では、平安時代から近代までの遺物が出土し、平安代時代から近代までの遺構が検出された訳であるが、その中で特記される事項は、発掘区中央部、3・4区の境界線では、標高363,3 mを計測する傾斜変換線が認められ、この地形の変化に伴って遺構の立地の変化が認められた事実である。すなわち、この傾斜変換線以下の寺部村附第9・中西第3遺跡では、住居跡の姿は消え若干の土坑基が検出されたのみで、平安から中世に至る遺構は極端に少なくなり、この地点が遺跡内の集落・端部としての認識が可能となったことである。

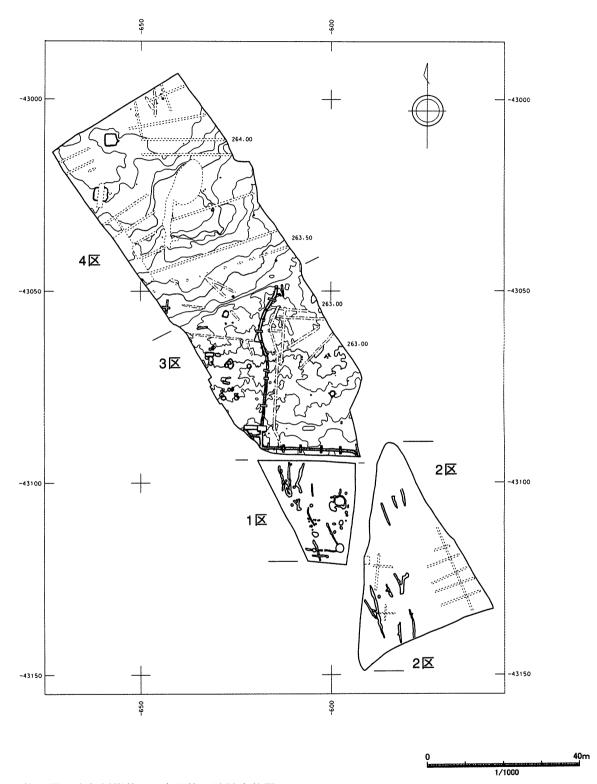
この集落の端部の認識及び確認という成果が得られたということは、周辺集落研究の構造を解明するにあたって、本遺跡の存在は、今後重要な位置を占めてくるものと思われる。以下に、調査区ごとに調査成果を述べ、まとめにとする。

4区の遺構 この傾斜変換線を境に、調査区上位・北部の4区では住居跡2軒が検出され、2軒とも平面形状は正方形、断面形状は箱型であり、規模は3,5 mの規模におさまる。1号住居跡は、住居中央および竈上部は試掘抗により破壊されていたが、ほぼ全容は捉えられたものと思われる。住居跡床面付近および竈内からは甲斐型土器の暦年代(1992・瀬田)、IX・X期の杯類が多量に出土しており、9世紀第4四半期~10世紀第1四半期の年代が想定された。2号住居跡は、河川礫層に構築された例で、やはりIX期が主体を占めてほぼ同年代の築造が与えられる。これらの住居の南方の傾斜変換線上位端部にあたる箇所では、IX・X期を主体に知期までの焼土を伴う土器集中区が確認された。この土器集中区より南側部の傾斜変換線下位の発掘区では遺物出土量は激減し、摩滅した状態で出土することから、傾斜変換線先端部に位置する土器集中区は居住区の範囲の極限を示す何らかの祭祀行為と考えたい。このことは、後記する下位の発掘区南部の1・2・3区では、上記の遺構に近い年代を示す例では3区の1号土坑出土墓の皿1点(IX期)と他に1例の土坑、計2基が確認されたにとどまり、さらに十数条南北に出された溝は、軟弱な地盤の低湿地に自然水路が流れた痕跡と解釈され、1・2・3区の出土遺物の大部分は3cm大の遊離資料であり、住居関係資料が検出されない空間であったことからもうなずけよう。

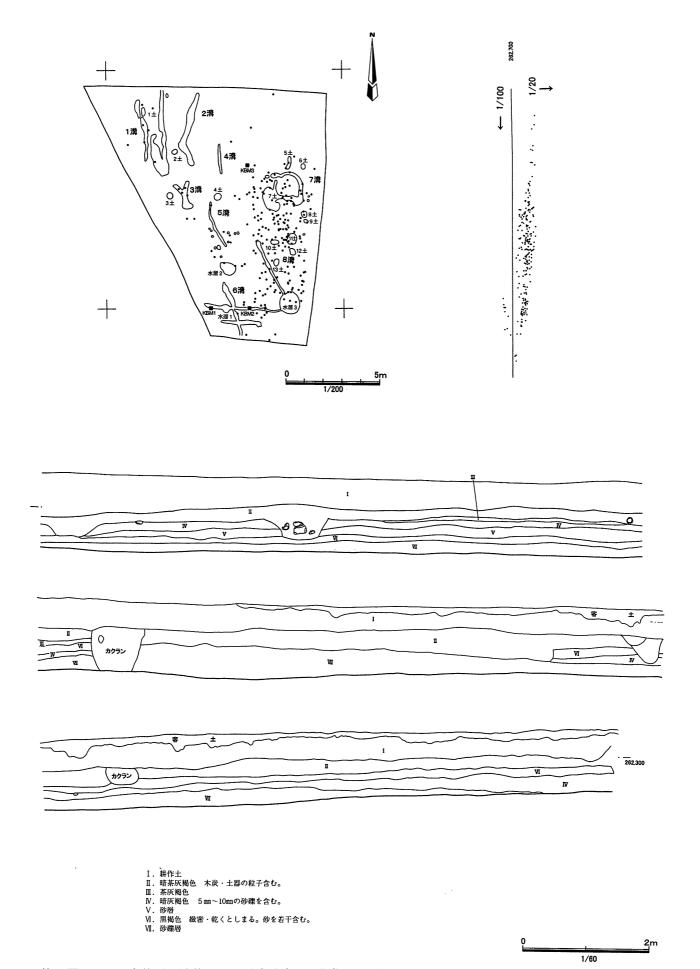
3区の遺構、 土坑15基が確認されたが、いずれも3区中央を南北に流れる水路の西部に集中する。1・2号土坑は、形態、および土器出土状態から土坑墓としての性格が与えられる。13号から14号土坑は、土坑内に礫を大量に検出するが用途は不明としかいえない。1号井戸とした石組みを持つ遺構も本来の井戸とは性格が異なり、水溜としての用途が強いものであり、先の、13~15号土坑も同一な用途の可能性が高い。3区中央を流れる用水路(1号溝)は一部湾曲するがほぼ直線的に南北に流れ、3区末端で直角に東西に流れる2号溝と合流する。この水路は3・4区の境辺りから豊富に湧き出る水量を利用した生活用水と考えられる。江戸末期に使用が開始され、東西に流れる2号溝は昭和の30年代に改築されている。

 $1 \cdot 2$ 区の遺構は、水性堆積の軟弱な地盤に16条の溝が確認された。それらは不規則で蛇行して検出される状態からは、緩やかな水の流れに軟弱な地盤が侵食されていく自然溝の生成過程として読み取れる。1 区では、 $6 \cdot 8$ 溝と水溜 $1 \cdot 2 \cdot 3$ 号が遺構として確認される。又 3 号水溜を除く水溜 $1 \cdot 2$ 号水溜と $6 \cdot 8$ 溝は、水路と水溜の関係で機能しているが目的は不明であり、時期は近代瓦片等が 1 号水溜より検出されることより当該期が想定される。

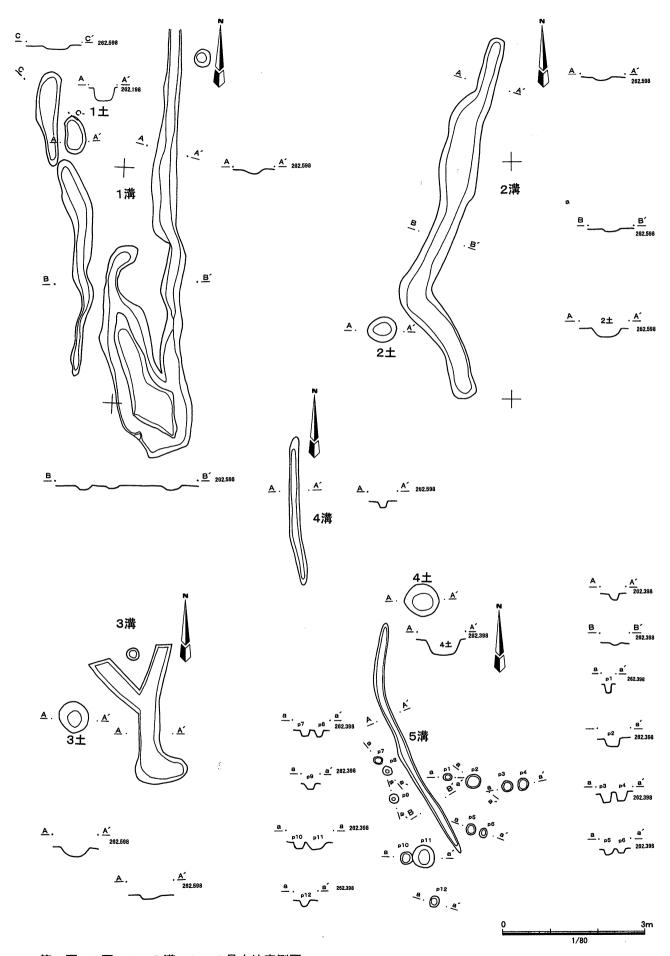
(小林広和・猪股一弘)



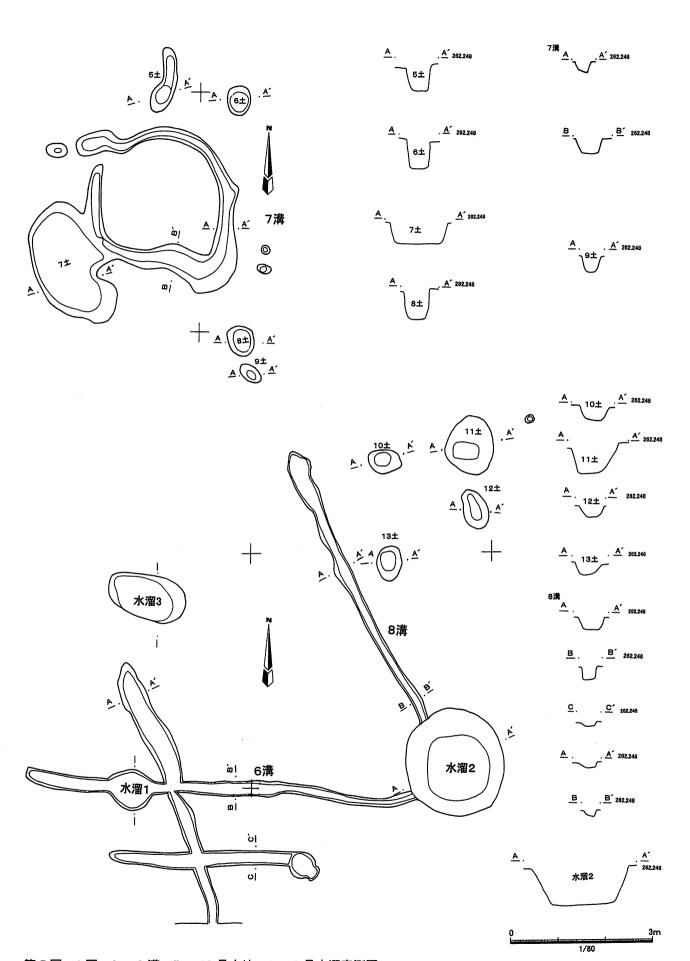
第2図 寺部村附第9・中西第3遺跡全体図



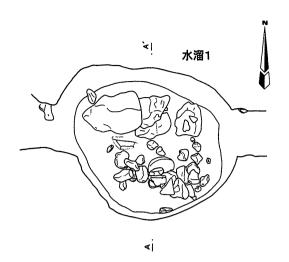
第3図 1区、全体図、遺物平面・垂直分布図、発掘区西壁セクション

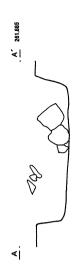


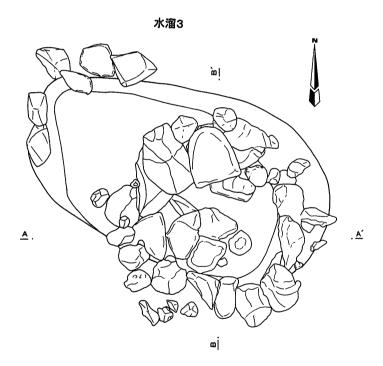
第4図 1区、1~5溝、1~4号土坑実測図

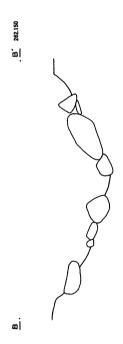


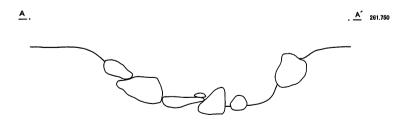
第5図 1区、6~8溝、5~13号土坑、1~3号水溜実測図

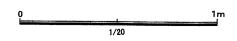




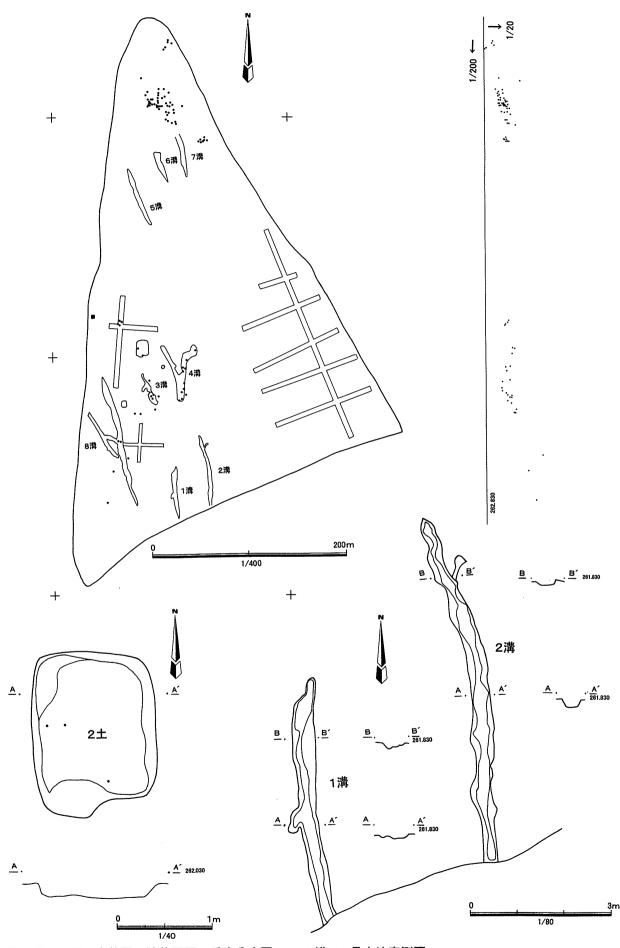




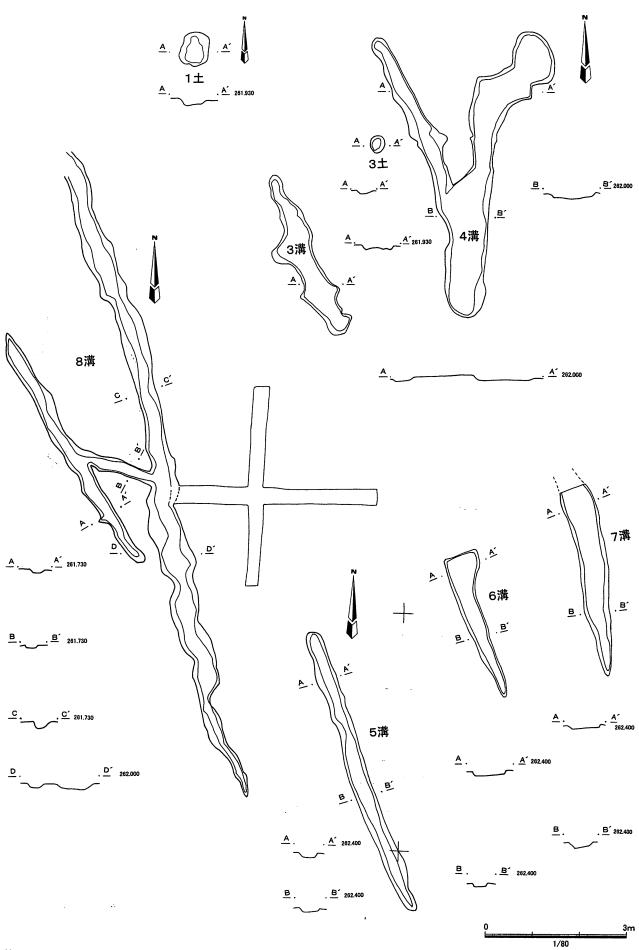




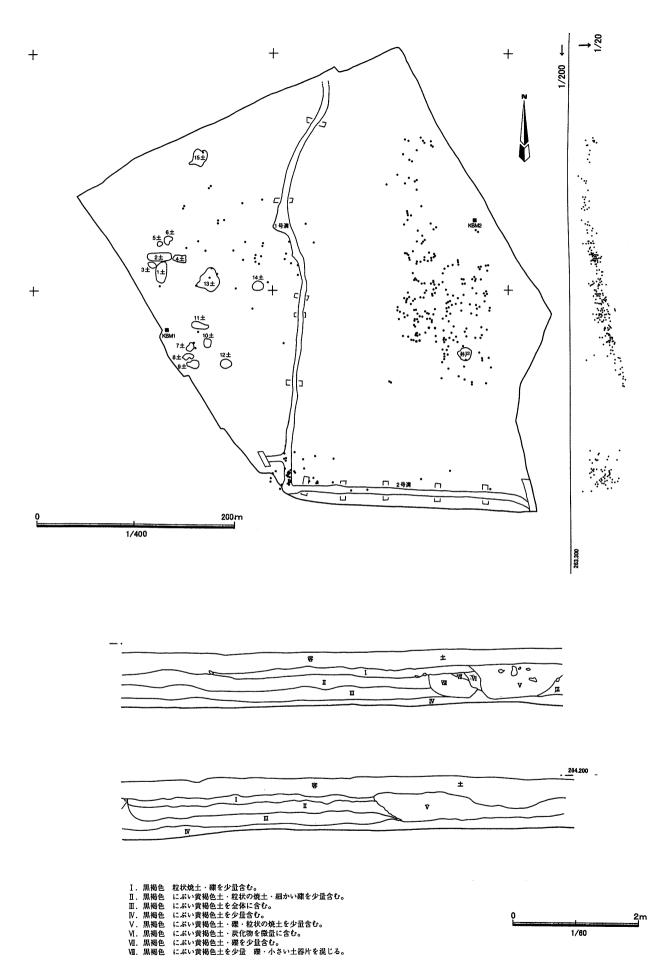
第6図 1区、1・3号水溜実測図



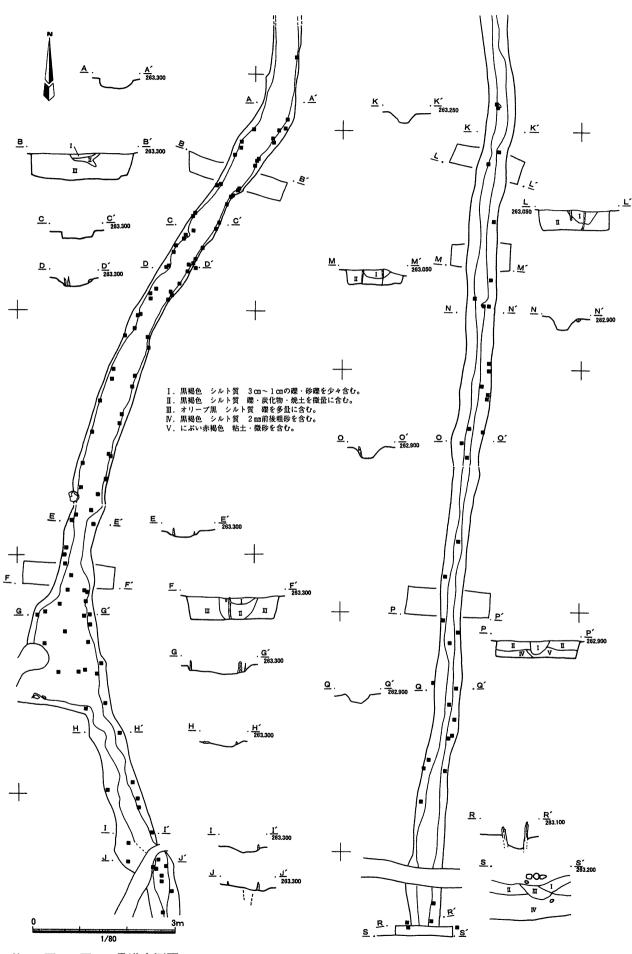
第7図 2区、全体図、遺物平面・垂直分布図、1・2溝、2号土坑実測図



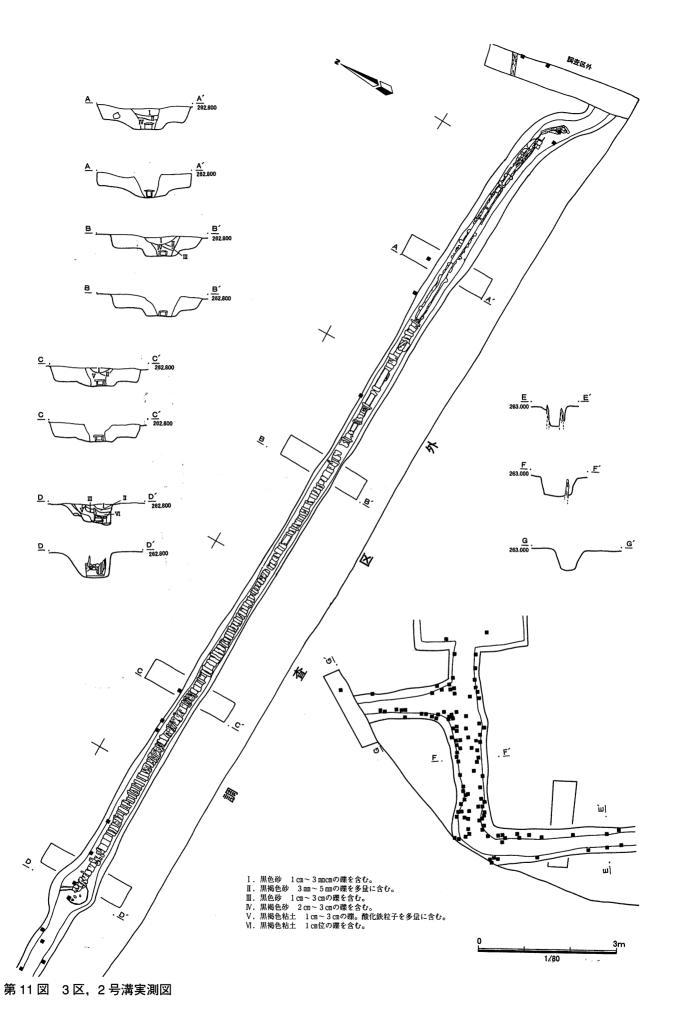
第8図 2区、1・3号土坑、3~8溝実測図



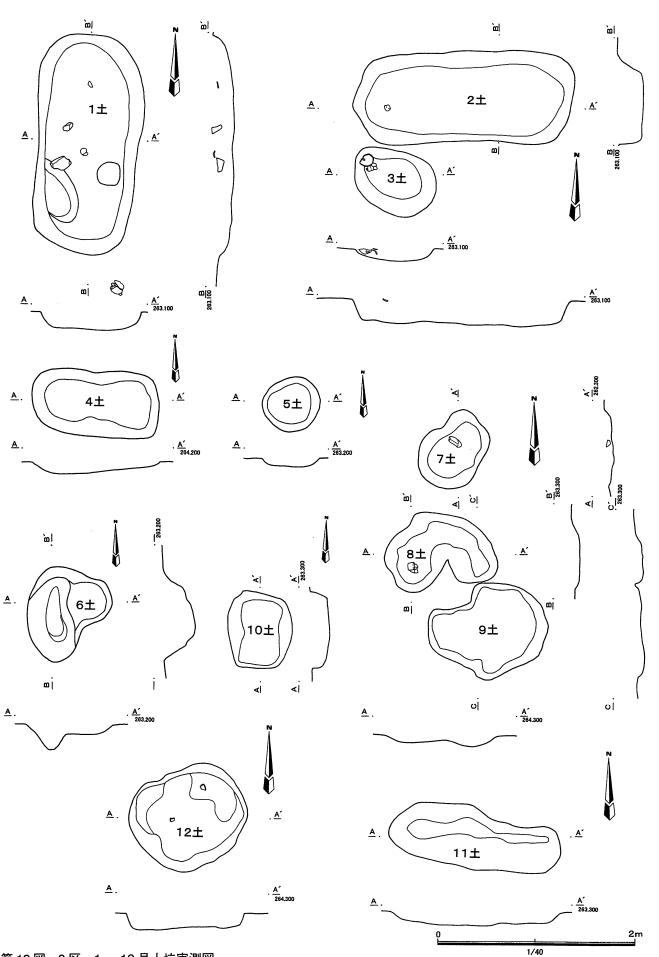
第9図 3区、全体図、遺物平面・垂直分布図、西壁セクション



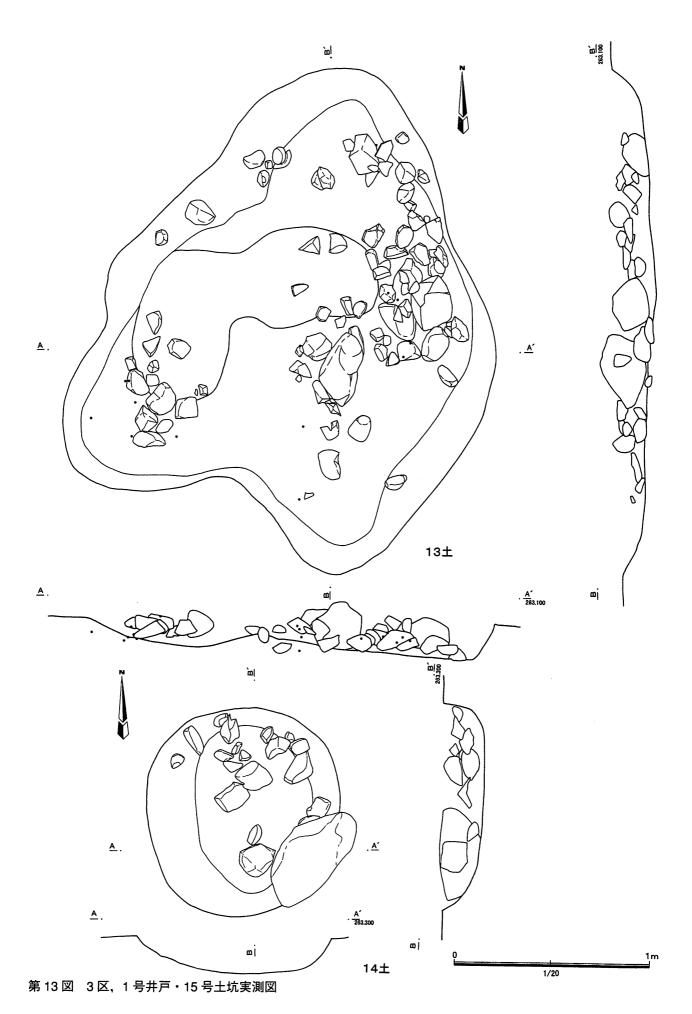
第10図 3区,1号溝実測図



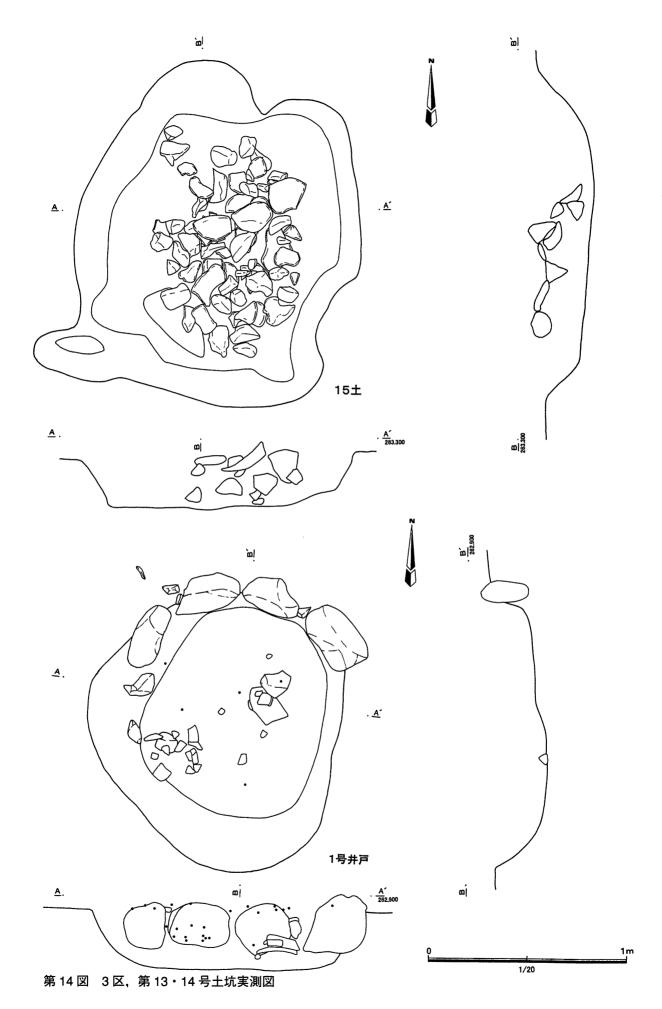
-28 -

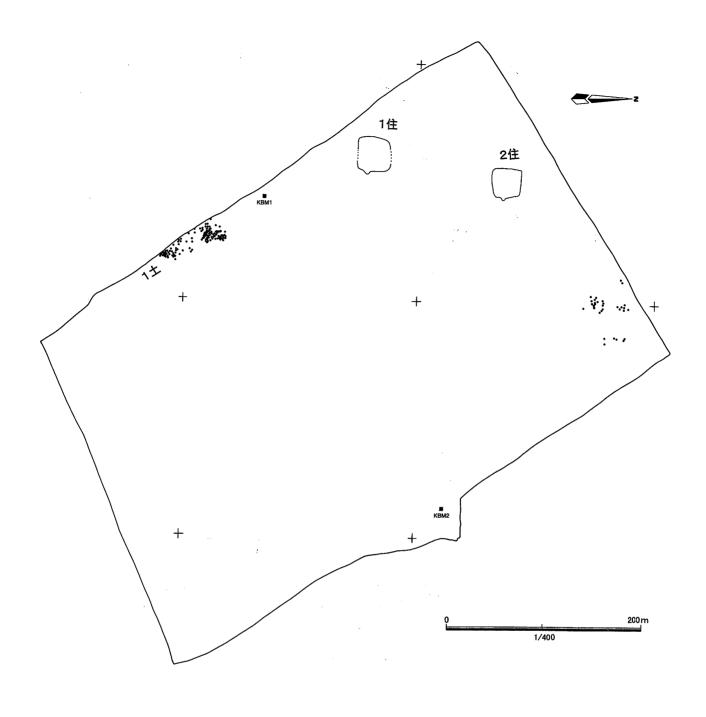


第 12 図 3 区、1 ~ 12 号土坑実測図



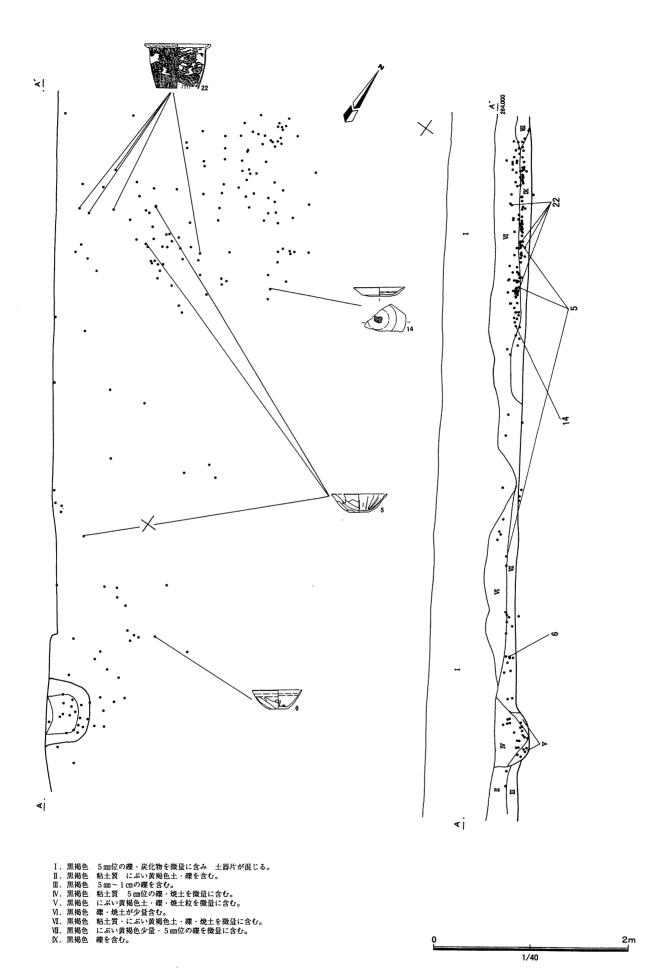
- 30 -



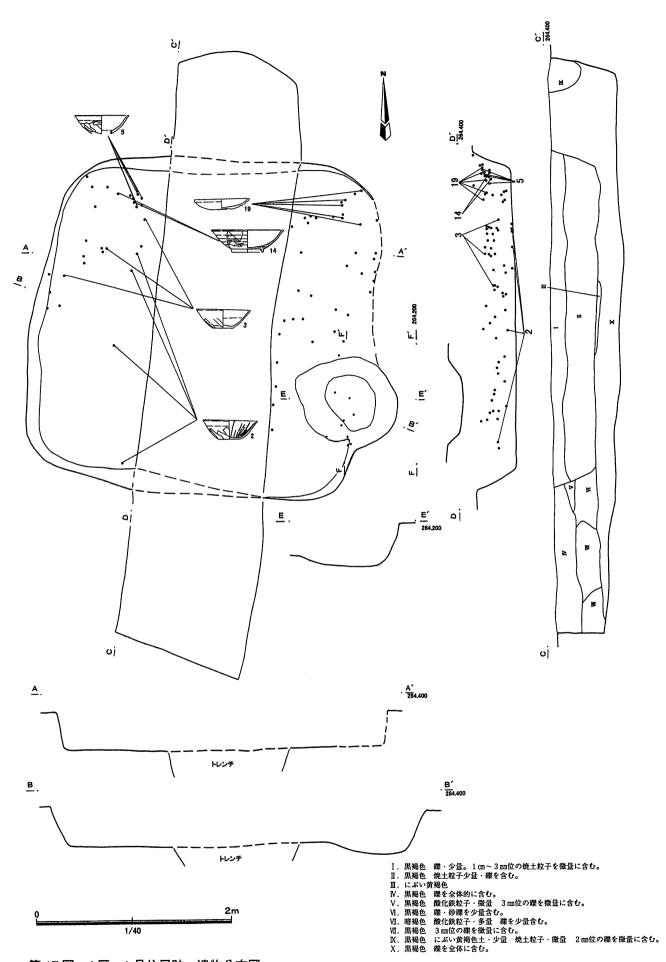




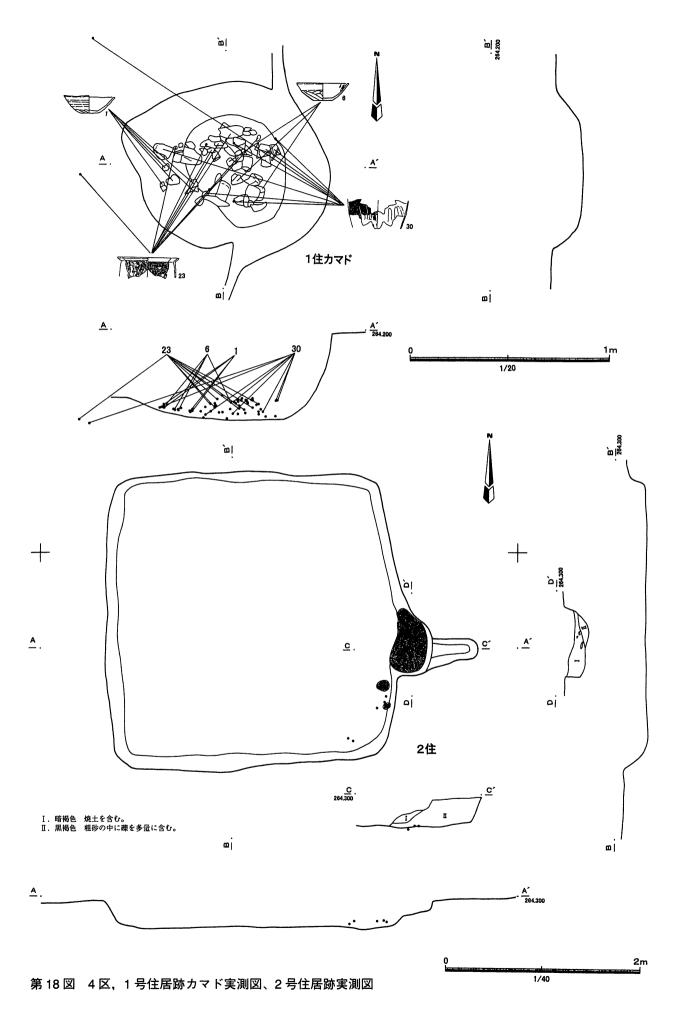
第15図 4区、全体図、遺物・垂直分布図

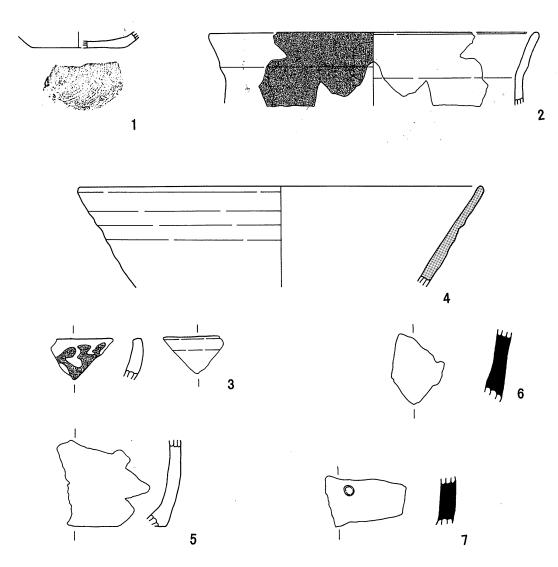


第16回 4区、土器集中区・垂直分布図

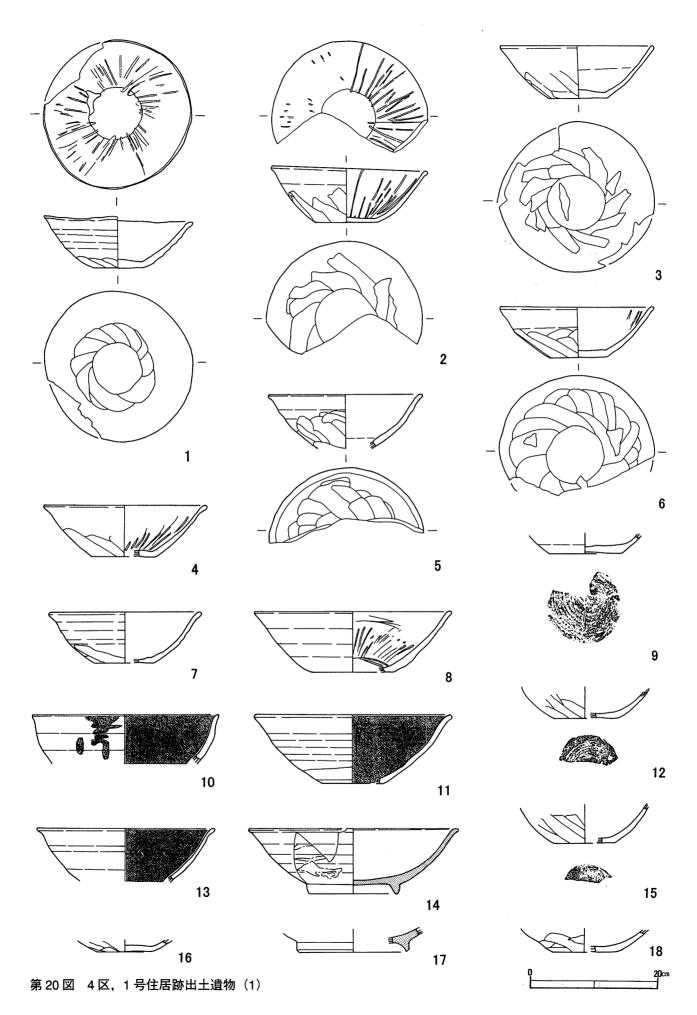


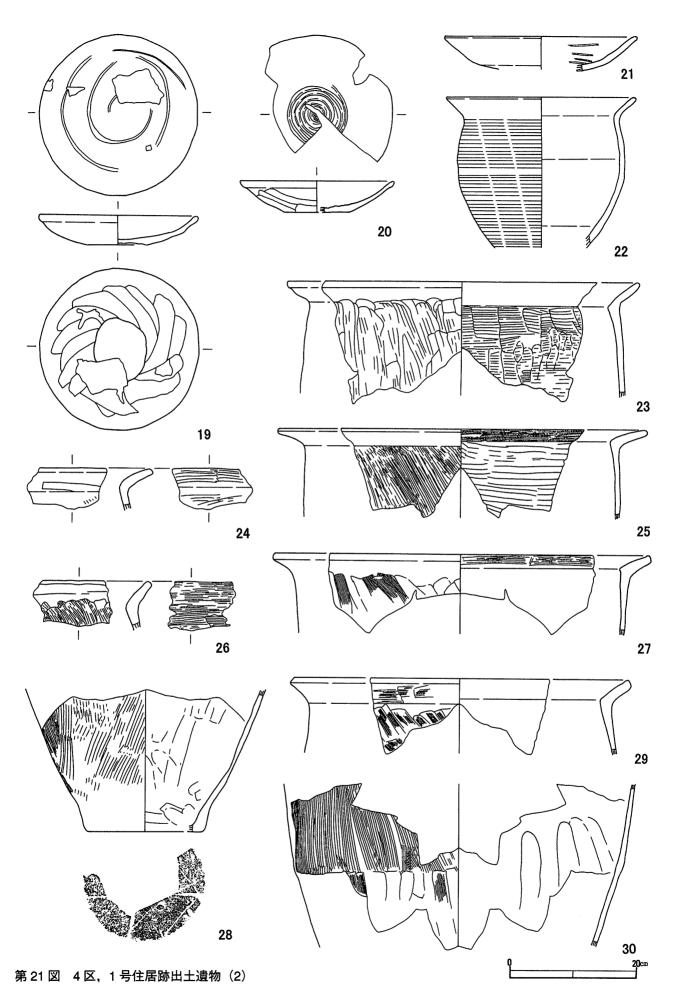
第17図 4区、1号住居跡・遺物分布図

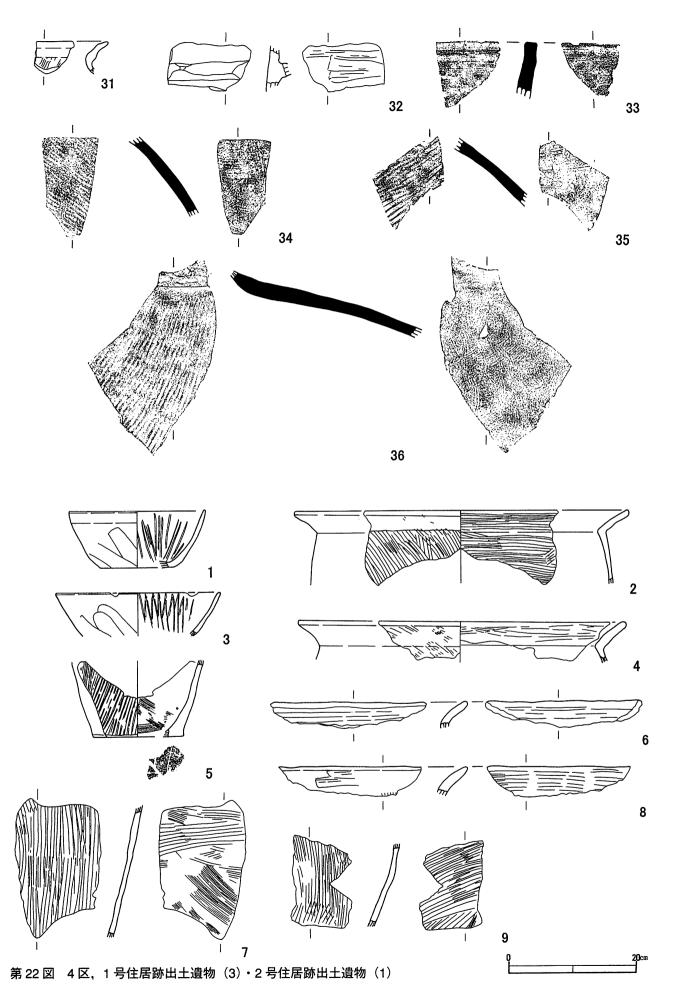


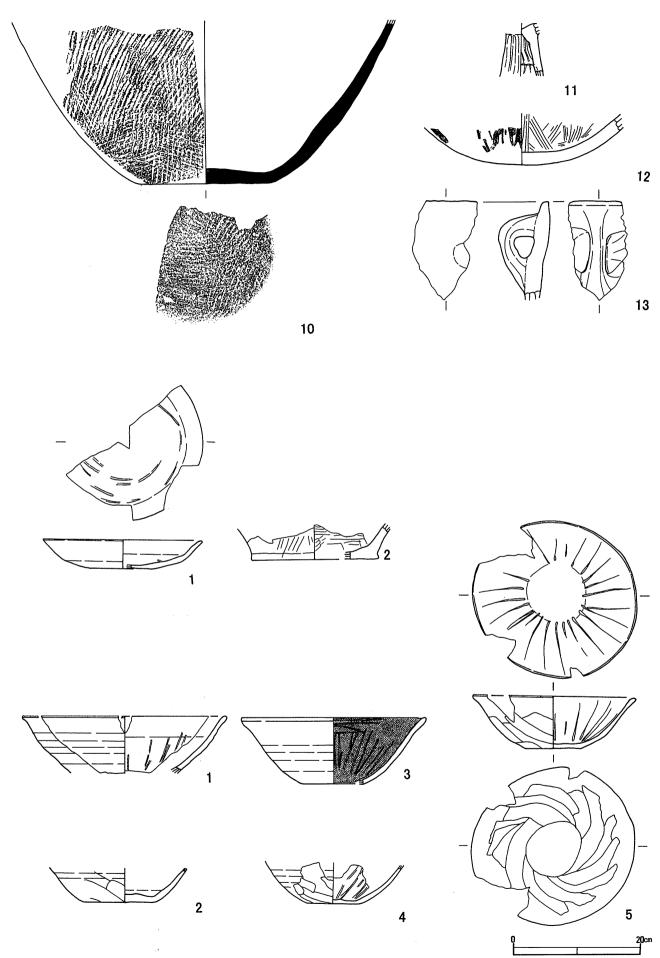


第19図 3区、1号井戸出土遺物

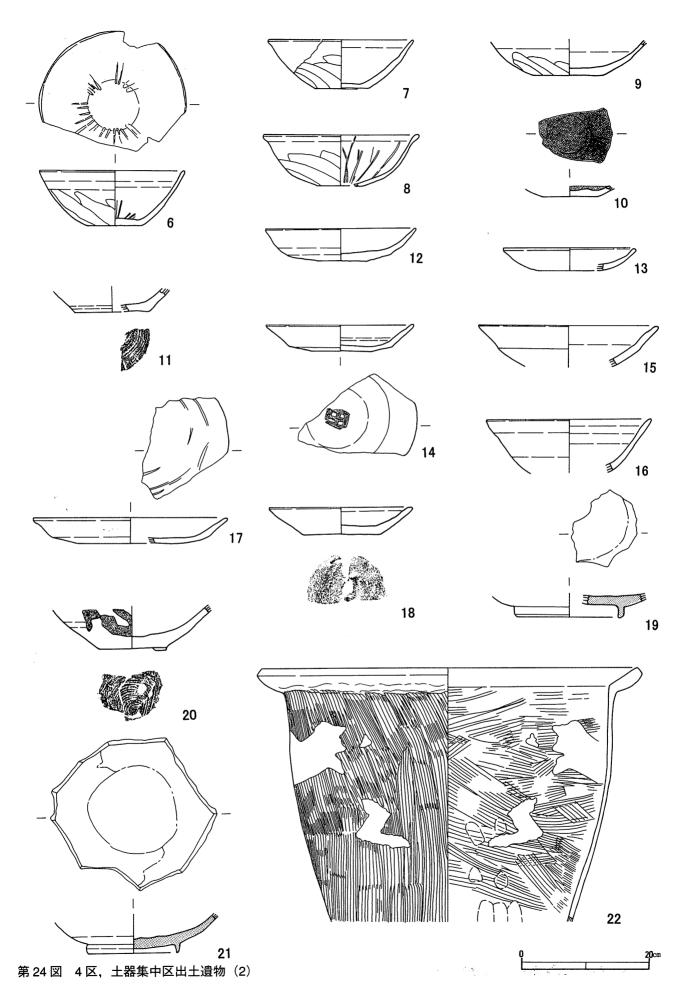


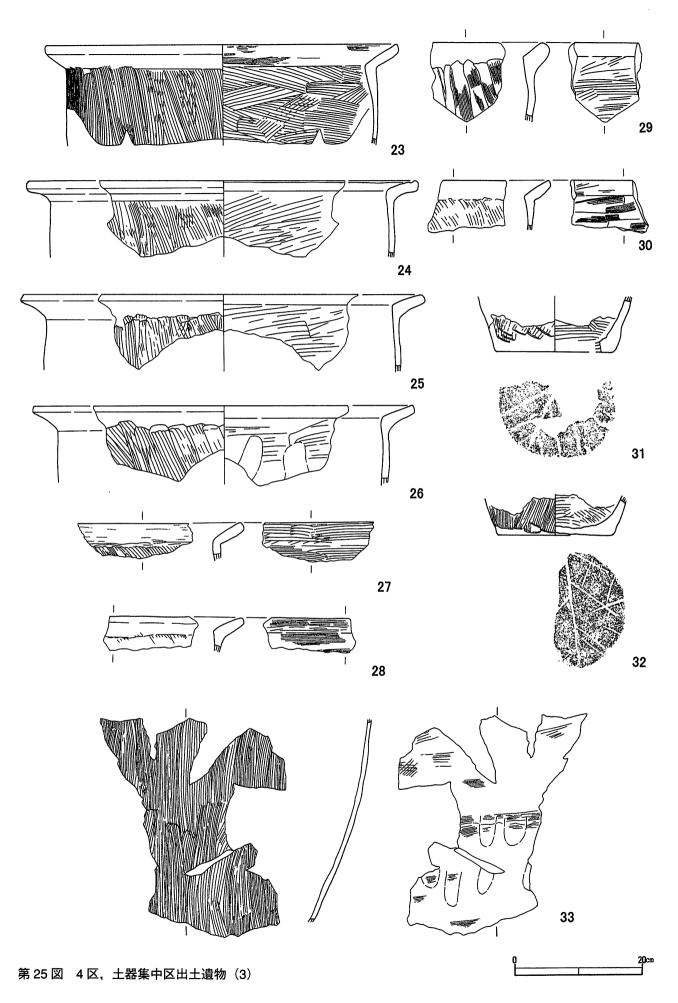


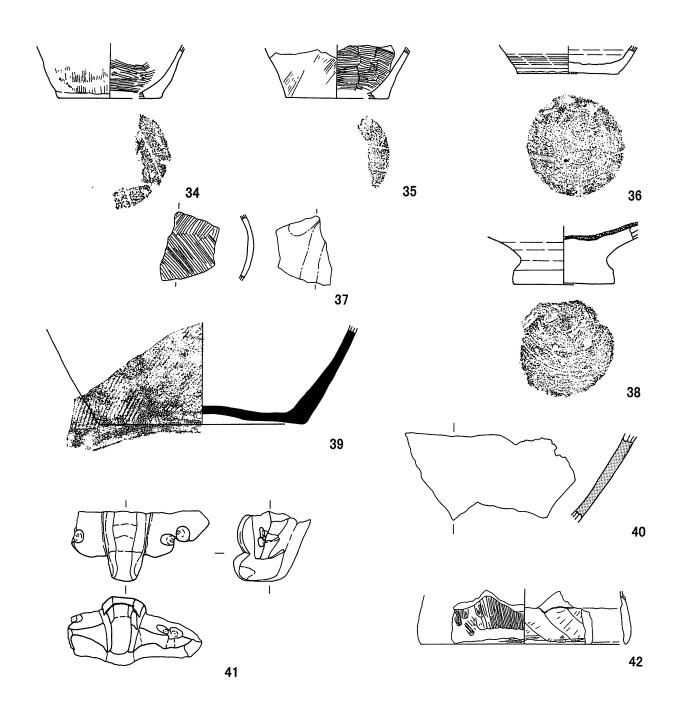


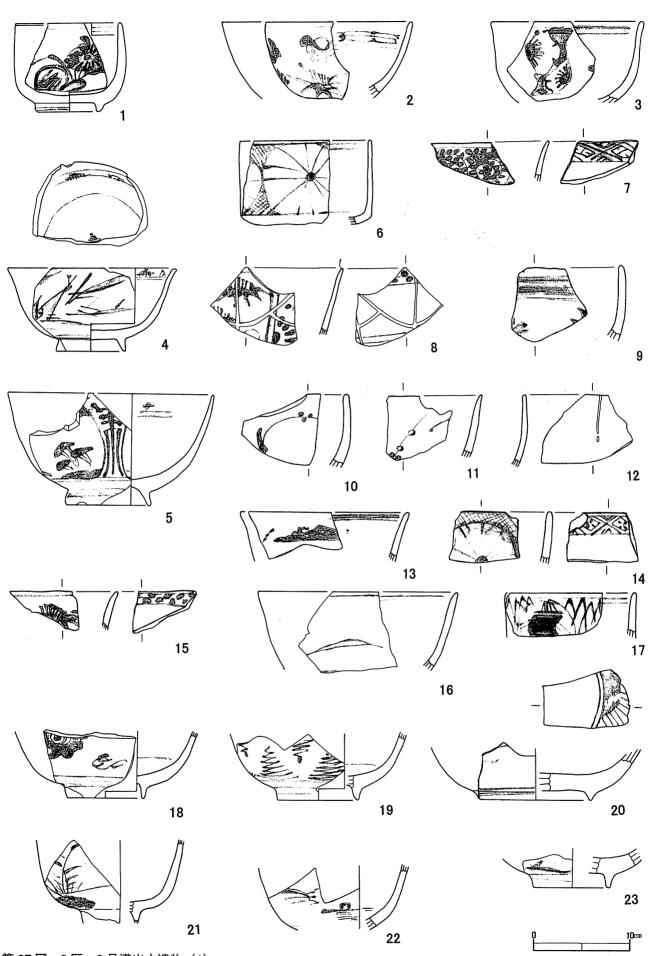


第 23 図 4 区、2 号住居跡出土遺物(2)・1 号土坑出土遺物・土器集中区出土遺物(1)

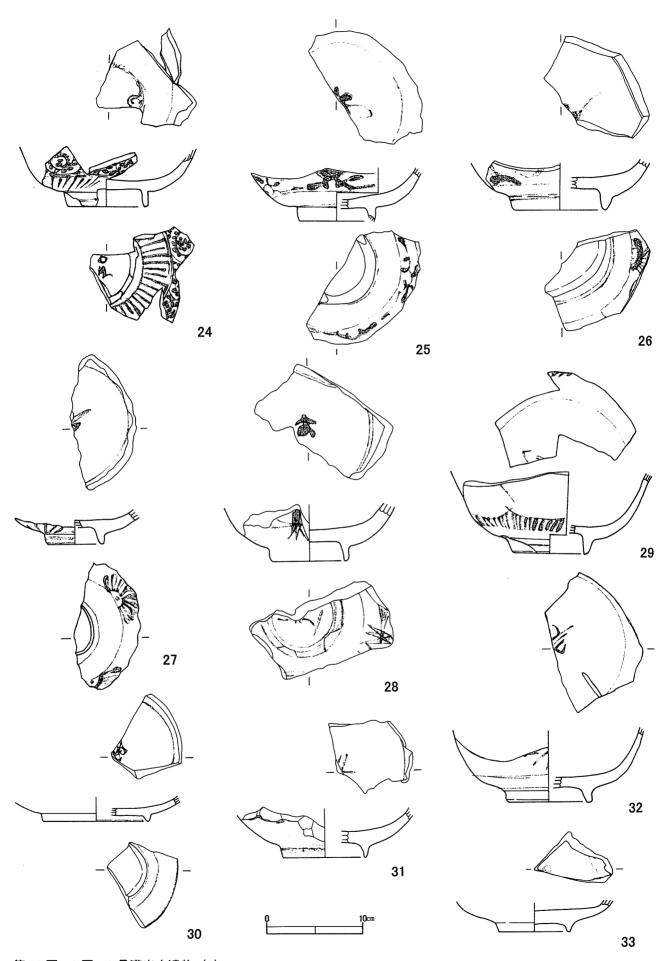




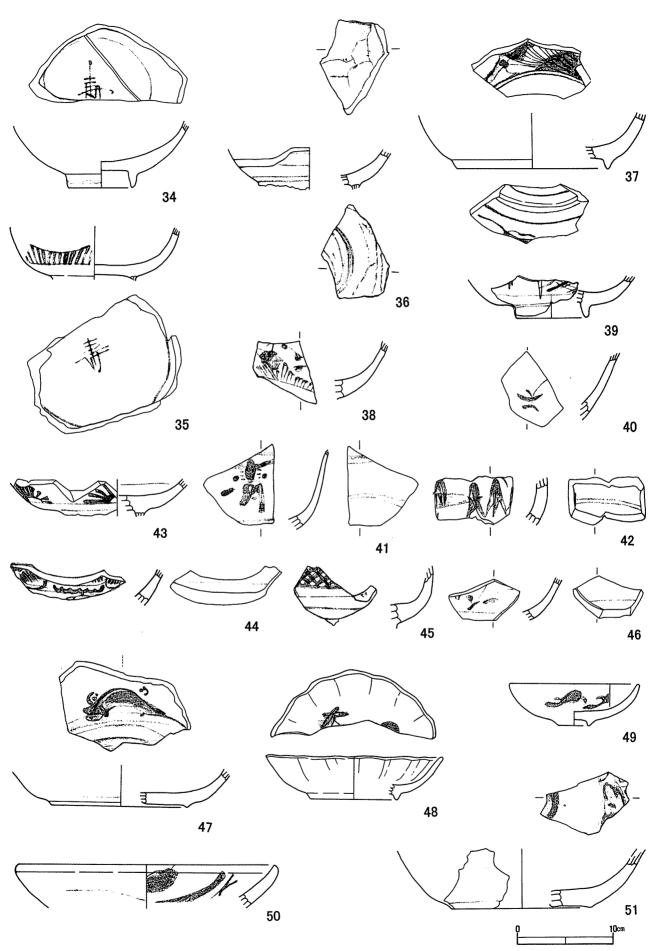




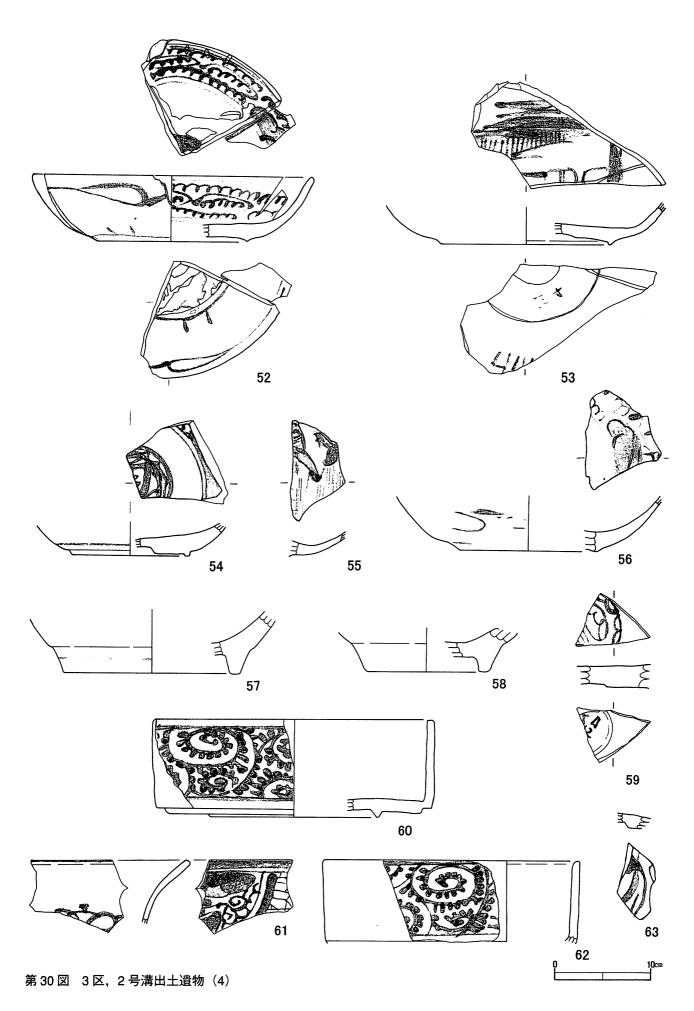
第27図 3区,2号溝出土遺物(1)

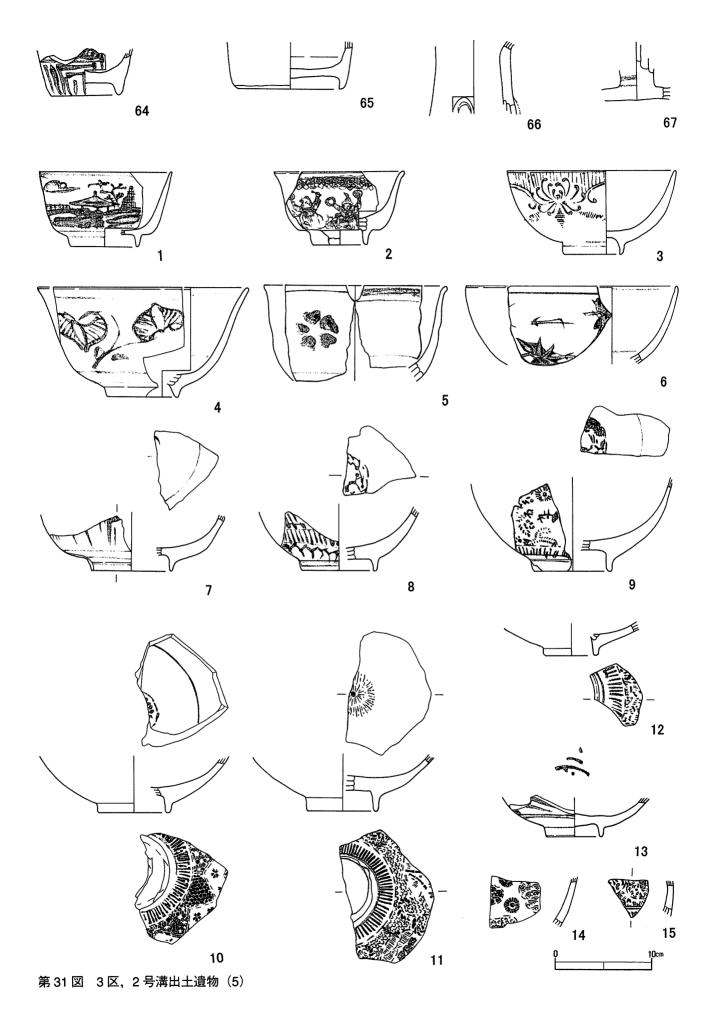


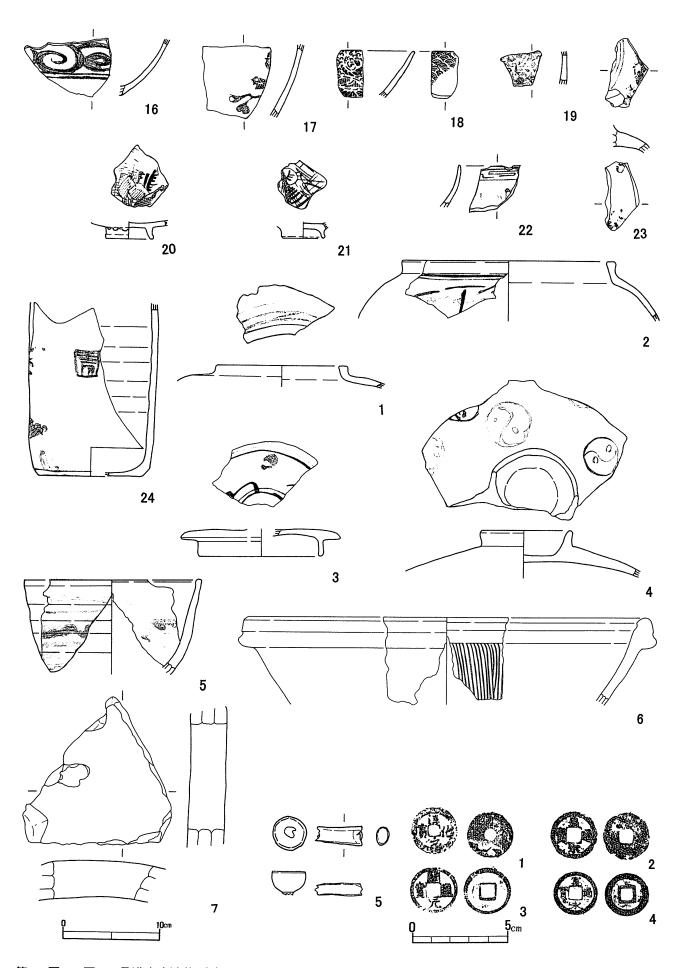
第28図 3区、2号溝出土遺物(2)



第29図 3区,2号溝出土遺物(3)







第32図 3区、2号溝出土遺物(6)

寺部附・中西遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

山梨県中巨摩郡若草町(現:南アルプス市)に所在する寺部附・中西遺跡は、御勅使川扇状地南部の扇端 と低地の境界付近に立地している。本遺跡の発掘調査の結果、住居跡や溝状遺構、流路、土坑などが検出さ れている。

本報告では、平安時代の住居跡や石組遺構などの覆土の水洗選別により得られた微細遺物を対象に、種類の分類と同定を行い、当該期の植物利用や動物利用などに関する資料を得る。

1. 試料

試料は、平安時代住居跡覆土やカマド内から採取された土壌及び石組遺構焼土層の水洗選別により抽出された微細遺物である。これらはプラスチックケースあるいはビニール袋に収められており計 178 試料ある。同一名の試料も存在することから、分析の便宜上それぞれに仮番号を付し、本文中もこの仮番号を用いて区別している。各試料の詳細は、結果と共に表1に示す。

2. 方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実や炭化材などの植物遺体と動物遺存体を抽出し、以下の項目の同定を行う。なお、これらの種類以外の物質は試料袋に戻し、保存する。

(1)種実遺体

種実遺体を現生標本および原色日本植物種子写真図鑑(石川,1994)、日本植物種子図鑑(中山ほか,2000)等との比較から、種類の同定・計数をおこなう。同定後の種実遺体等は種類毎にビンに詰め、乾燥剤を入れ保存する。

(2)炭化材

実体顕微鏡下で炭化材片の組織を観察して、その特徴から種類を同定する。その際に、複数点ある試料については、複数の炭化材を観察して、複数種類か1種類かの確認を行う。実体顕微鏡の倍率では同定不可能な種類全点と同定できた種類から各1点を選択する。選択した試料について、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察する。

(3)動物遺存体

試料を肉眼およびルーペで観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。同定および解析には金子浩昌氏の協力を得ている。

3. 結果

結果を表1に示す。植物遺体には炭化個体と未炭化個体が認められた。これらについては、分析目的を考慮し、区別して表示した。以下に、検出された植物遺体(種実遺体と炭化材)、動物遺存体の同定結果を記す。

(1)種実遺体同定

炭化種実は木本2種類(モモ、ブドウ属)、草本4種類(イネ、オオムギ、コムギ、アワーヒエ)の種実 遺体が検出された。未炭化種実は、草本6種類(イネ、イネ科、ホタルイ属、カヤツリグサ科、ギシギシ属、 スベリヒユ)が検出された。以下に、同定された種実遺体の形態的特徴などを、炭化種実、未炭化種実の順 に記す。

<炭化種実>

• モモ(Prunus parsica Batsch) バラ科サクラ属

核(内果皮)の破片が検出された。完全に炭化しており、黒色。破片の大きさ 6mm 程度。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。完形ならば、広楕円形でやや偏平、先端部はやや尖る。基部は切形で中央部に湾入した臍がある。一方の側面に縫合線が発達する。

ブドウ属(Vitis) ブドウ科

種子が検出された。完全に炭化しており、黒色。広倒卵形、側面観は半広倒卵形。基部の臍の方に向かって細くなり、嘴状に尖る。長さ5mm、径4mm程度。背面にさじ状の凹みがある。腹面には中央に縦筋が走り、その両脇には楕円形の深く窪んだ孔が存在する。種皮は柵状で薄く硬い。

• イネ (Oryza sativa L.) イネ科イネ属

胚乳が検出された。完全に炭化しており、黒色。長楕円形でやや偏平。長さ $4\sim6$ mm、幅 2.5mm、厚さ 1.5mm 程度。一端に胚が脱落した凹部があり、両面はやや平滑で $2\sim3$ 本の縦溝が認められるなど、遺存状態は比較的良好である。脱穀した米を蒸したり炊いたりし過ぎて「おこげ」となった場合には、このように明瞭に胚乳の形をとどめることはないと考えられる。おそらく脱穀前の穎に入った生米の状態で、何らかの理由による火熱を受け、炭化した穎は脆く壊れやすいので脱落し、胚乳のみが残存したことが考えられる。

• アワーヒエ (Setaria itarica Beauv.-Echinochloa crus-galli Beauv.) イネ科

胚乳が検出された。完全に炭化しており、黒色。広楕円体でやや偏平。長さ 1.8mm、径 1.5mm 程度。背面は丸みがあり、腹面は平ら。基部に胚の凹みがある。表面には内外穎の一部が付着しているが、遺存状態が悪く種までの同定は不可能であった。

• オオムギ (Hordeum valgale L.) イネ科オオムギ属

胚乳が検出された。完全に炭化しており、黒色。紡錘状長楕円形で先端部は尖り、基部は丸い。長さ5~7mm、幅3.5mm、厚さ3mm程度。腹面は1本のやや太く深い縦溝があり、背面基部には胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。

• コムギ (Triticum aestivum L.) イネ科コムギ属

胚乳が検出された。完全に炭化しており、黒色。黒色、楕円形で全体的に丸みを帯びている。長さ $4\sim4.5 \,\mathrm{mm}$ 、径 $3\sim4 \,\mathrm{mm}$ 程度。腹面には 1 本のやや太く深い縦溝がある。背面基部には胚の痕跡があり、丸く窪む。表面はやや平滑。なお、遺存状態が悪く、オオムギとの判別が難しいものはムギ類とした。

<未炭化種実>

• イネ (Oryza sativa L.) イネ科イネ属

穎の破片が検出された。淡褐色、長楕円形でやや偏平。長さ6~8mm、幅3~4mm、厚さ2mm程度。 基部に特徴的な果実序柄がある。穎は薄く、表面には特徴的な顆粒状突起が規則的に縦列する。

イネ科 (Gramineae)

穎が検出された。淡褐色、狭卵形でやや偏平。長さ 6mm、幅 1.8mm 程度。穎は薄く柔らかくて弾力がある。表面には微細な網目模様が縦列する。

・ホタルイ属 (Scirpus) カヤツリグサ科

果実が検出された。黒褐色、片凸レンズ状の広倒卵形。長さ 2mm、幅 1.5mm 程度。背面はやや高く稜がある。先端部は尖り、基部から伸びる逆刺を持つ髭状の腕が残る。表面は光沢があり、不規則な波状の横皺状模様が発達する。

• カヤツリグサ科 (Cyperaceae)

果実が検出された。淡褐色、三稜状挟倒卵形。長さ 1.8mm、径 1.2mm 程度。先端部はやや尖り、基部は切形。表面には微細な網目模様がありざらつく。

ギシギシ属(Rumex) タデ科

果実が検出された。暗褐色、果実は卵状三稜形。径 1mm 程度。両端は急に尖り、稜は鋭い。果実を覆う 花被は心円形で径 2mm 程度。大きな網目模様の脈があり、縁に歯牙がある。脈の基部には楕円形のコブ状 突起がつく。

• スベリヒユ (Portulaca oleracea L.) スベリヒユ科スベリヒユ属

種子が検出された。黒色、腎臓状円形でやや偏平。径 0.6mm 程度。一端が凹み、臍がある。臍には種柄の一部が残る。種皮表面には鈍円錐状突起が密生する。

(2)炭化材同定

結果を表1に示す。分類の結果、43点が炭化材と判断された。ただし、多くは微細片のため種類の同定が困難な試料や木材組織の観察が不可能な試料であり、これらのうち同定可能な試料は19点であった。不明とした試料は、炭化材と判断されるが木材組織の観察が不可能であったものを示している。

19点の炭化材は、針葉樹1種類(マツ属複維管束亜属)と広葉樹10種類(ハンノキ属・クマシデ属イヌシデ節・ブナ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・コナラ属コナラ亜属・クリ近似種・クスノキ科・モモ・サクラ属)に同定された。以下に、各種類の主な解剖学的特徴を記す。

•マツ属複維管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxylon*) マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は急~やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道及び水平樹脂道が認められる。分野壁孔は窓状となり、放射仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められる。放射組織は単列、1~15 細胞高。

ハンノキ属(Alnus) カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または 2 ~ 4 個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、 1 ~ 30 細胞高。

試料が微細片のため、ハンノキ亜属かヤシャブシ亜属かの区別はできなかった。

• クマシデ属イヌシデ節 (Carpinus subgen. Euarpinus) カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に 2 ~ 4 個が複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列 状~交互状に配列する。放射組織は異性Ⅲ~Ⅱ型、1 ~ 3 細胞幅、1 ~ 40 細胞高のものと集合放射組織と がある。

ブナ属(Fagus) ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に 2~3 個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有する。道管内壁の壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は同性~異性Ⅲ型、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節(Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1~3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節(Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1~2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合放射組織 とがある

• コナラ属コナラ亜属 (Quercus subgen. Lepidobalanus) ブナ科

環孔材で、複合放射組織を有することから、上記クヌギ節またはコナラ節と考えられる。しかし、残存しているのが早材部(孔圏部)のみで、晩材部の道管配列が観察できなかったため、クヌギ節かコナラ節科の区別ができなかった。

• クリ近似種(cf. Castanea crenata Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は1~4列、孔圏外で急激~やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15 細胞高。

試料は微細片であり、組織が類似するコナラ節の可能性もあるため、近似種とした。試料が脆く、電子顕 微鏡による観察・写真撮影はできなかった。 • クスノキ科 (Lauraceae)

散孔材で管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または2~3個が放射方向に複合して散在する。 木口面で油細胞と考えられる組織が認められる。

試料が微細片で脆いため、柾目および板目の組織観察や電子顕微鏡による観察はできなかった。

• モモ (*Prunus salicina* Lindley) バラ科サクラ属

環孔性散孔材で、年輪のはじめにやや大型の道管が $4 \sim 5$ 列配列し、やや急激に管径を減じた後、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性 Π 型、 $1 \sim 6$ 細胞幅、 $1 \sim 70$ 細胞高。

サクラ属 (Prunus) バラ科

散孔材で、管壁厚は中庸、横断面では角張った楕円形、単独または 2 ~ 8 個が複合、晩材部へ向かって管 径を漸減させながら散在する。

木口面の組織配列からサクラ属である。少なくとも上記モモとは道管配列が異なり、異なる種類である。 現生標本との比較では、ヤマザクラなどに類似しているが、種類の同定には至らない。サクラ属の試料は、 いずれも微細片で電子顕微鏡による観察ができなかった。

(3)動物遺存体同定

試料は、いずれも被熱を受けた微細な骨片であった。これら骨片は、中型の鳥獣類、魚骨、中形獣、マイマイ属 殻?に 同定 された。なお、中形獣については、ムササビ(Petaurista leucogenys)、タヌキ(Nyctereutes procyonoides)、アナグマ(Meles meles)程度の大きさの獣類が想定される。以下に、各試料の結果を記す。

• 仮 No.3

2片の小骨片である。極めて微細であり、詳細は不明である。

• 仮 No.4

扁平な細形骨である。中型獣の肢骨片と考えられる。

• 仮 No.6

半透明の弾力のある薄い半球状を呈する。マイマイ属の卵殻の可能性がある。

• 仮 No.36

6片の小骨片である。獣骨片と考えられる。

• 仮 No.40

厚さ 0.77mm を測る。細条溝が片側につく。魚類の鰭棘と考えられる。

• 仮 No.83

唯一骨の原形を保っている試料である。魚の椎体で、椎体の関節円板片側のみ残存する。椎体横径 2.37mm を測り、腹面に椎体に平行する 3 条の薄い骨板が縦走し、側面に 1 条の隆帯が認められる。当試料は、イワシ類の腹椎骨に形態的・大きさともに近似する。この他に、小骨片(鳥骨?片)が認められる。

• 仮 No.86

厚さ 1.24mm を測る骨片である。獣骨の四肢骨破片の可能性がある。

• 仮 No.90

海綿質からなる骨片である。獣骨としては脆い。鳥類の骨片の可能性がある。

• 仮 No.111

厚さ 1.11mm 程度の骨である。中型獣の骨片の可能性がある。

4. 考察

(1)炭化種実からみた植物利用状況

微細遺物の分類・同定の結果、栽培植物とされる種類が検出されている。これらのうち、モモ、イネ、アワ、オオムギ、コムギは、古くから栽培のために持ち込まれた渡来種である(南木,1991)。モモは、中国

からの渡来種とされ、観賞用の他、果実や核の中にある仁(種子)などが食用、薬用等に広く利用される。 特に、山梨県内の他の遺跡からもモモの種実や木材の検出例があり栽培されていたと考えられ、本遺跡でも 種実遺体や炭化材が認められることから、遺跡周辺で栽培されていた可能性がある。

また、穀類のイネ、アワーヒエ、オオムギ、コムギは胚乳が食用される。自生していたと考えられるブドウ属は、果実が食用可能な有用植物である。これらの栽培植物を含む有用植物が全て炭化した状態で、動物遺存体などとともに住居跡覆土等から出土した状況を考慮すると、本遺跡近辺で栽培されたものが持ち込まれ利用された痕跡と考えられる。

御勅使川扇状地上や扇端部に立地する遺跡の分析調査例では、百々遺跡の住居跡からはイネ、アワーヒエ、オオムギ、コムギ、マメ類、エゴマの炭化種実や、灰化したイネの穎が確認されており(パリノ・サーヴェイ、未公表)、二本柳遺跡で検出された平安時代末の水田面からオニグルミ、モモ、ウメが認められ、さらに、イネ、オオムギ、コムギなどの炭化胚乳も検出されている。山梨県内の古代~中世の遺跡から検出された炭化種実の時代・地域別の詳細な検討結果によれば、甲府盆地ではモモ、イネ、アワーヒエ、オオムギ、コムギが出土例、個体数ともに多いことが指摘されている(櫛原、1999)。本遺跡で認められた炭化種実の種類も、周辺の遺跡や山梨県内における傾向と調和していると言える。

一方、炭化種実とともに検出された未炭化種実には、抽水植物のイネ、ホタルイ属の一部、湿性~中生植物のイネ科の一部、カヤツリグサ科の一部、中生植物のギシギシ属、スベリヒユなどの草本類が認められた。これらは、稲作に伴う水田雑草や集落周辺の明るく開けた場所に生育していたものに由来すると考えられる。なお、未炭化種実は、低湿地遺跡など特別な場合を除くと、炭化していない限り種子は残らず、解析に関しては炭化種子以外を除外して考えた方が妥当という意見もある(吉崎,1992)。本分析で検出された種実遺体は、いずれも遺跡周辺に生育していたと考えられるが、遺存状態が良好であり、遺構の埋没過程で混入した可能性もある。そのため、炭化種実と同様に評価してよいか判断が困難であることから、本報告の解析からは除外している。

(2)炭化材からみた木材利用状況

炭化材は、水洗選別を実施した試料の検出状況から、住居構築材あるいは燃料材などに由来する可能性がある。微細片のために同定不能な試料が多かったが、針葉樹 1 種類(マツ属複維管束亜属)と広葉樹 10 種類(ハンノキ属・クマシデ属イヌシデ節・ブナ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ亜属コナラ亜属・クリ近似種・クスノキ科・モモ・サクラ属)が認められた。

また、仮 No.162 の炭化材には、種類は不明であるが、少なくとも 4 種類の広葉樹材が確認されている。 したがって、実際には上記した種類よりも多くの樹種が利用されていた可能性がある。

栽培植物のモモが検出されたことから、種実だけでなく、木材も利用されていたこと推定される。微細片での検出のため用途の判断はできないが、栽培種を伐採して利用するとは考えにくく、枝払いや成果期を過ぎ収量の落ちた個体の伐採等で得た木材を利用したと考えられる。

本遺跡周辺で実施された分析調査例によれば、御勅使川扇状地扇端部に立地する二本柳遺跡で実施した花粉分析結果(パリノ・サーヴェイ株式会社,2000)や、同扇状地上に立地する百々遺跡で実施した微細植物片の同定結果でも、同様な種類が認められている。したがって、御勅使川扇状地上や扇端部、後背の山地等にこれら種類が生育していたことが推定される。

(3)動物遺存体からみた動物利用状況

検出された動物遺存体は、マイマイ類や魚類、中型鳥獣類と同定された。マイマイ類は被熱しておらず、 遺構廃棄後に混入したものと考えられる。一方、魚類、中型鳥獣類と考えられる骨片は、被熱しており、当 時食糧等として利用された残滓と考えられる。特に、イワシ類と考えられる海産魚類が認められた点は注目 される。同様な類例は、長野県の芝宮遺跡群や中原遺跡群で認められており(藤原,1999)、本分析結果を 考慮すると、当該期には何らかの形で海産魚が搬入されていたことが示唆される。なお、海産魚の搬入・流 通経路や変遷については、検出例が少ない点から詳細な検討がなく不明な点が多い。この点については、今 後の課題として分析調査例を蓄積し改めて検討したい。

引用文献

藤原直人(1999)芝宮遺跡群・中原遺跡群出土の動植物遺体-古代の食生活を考える-. 帝京大学山梨文化 財研究所研究集会報告集 2 「食の復元 -遺構・遺物から何を読みとるか」, p.171-185.

石川茂雄(1994)原色日本植物種子写真図鑑,328p.,石川茂雄図鑑刊行委員会.

櫛原功一(1999)炭化種実から探る食生活-古代~中世を中心に一. 「食の復元―遺物・遺跡から何を 読みとるか」, 帝京大学山梨文化財研究所編, 81-98, 岩田書院.

中山至大·井之口希秀·南谷忠志(2000)日本植物種子図鑑,642p.,東北大学出版会.

南木睦彦(1991) 栽培植物. 「古墳時代の研究 4 生産と流通 I」, 石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編, p.165-174, 雄山閣.

パリノ・サーヴェイ株式会社(2000) 二本柳遺跡の古環境と木製品の樹種. 山梨県埋蔵文化財センター 調査報告書第183号「二本柳遺跡-一般国道52号(甲西バイパス)改築工事・中部横断自動車道建設 に伴う埋蔵文化財調査-」,山梨県埋蔵文化財センター編,山梨県教育委員会・建設省甲府工事事業 所・日本道路公団東京建設局,p.234-249.

吉川純子(2000) 山梨県日本柳遺跡の大型植物化石. 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 183 号 「二本柳遺跡――般国道 52 号(甲西バイパス)改築工事・中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財調 査ー」、山梨県埋蔵文化財センター編、山梨県教育委員会・建設省甲府工事事業所・日本道路公団東 京 建設局、p.219-233.

吉崎昌一(1992) 古代雑穀の検出、月刊考古学ジャーナル、No.355、p.2-14、

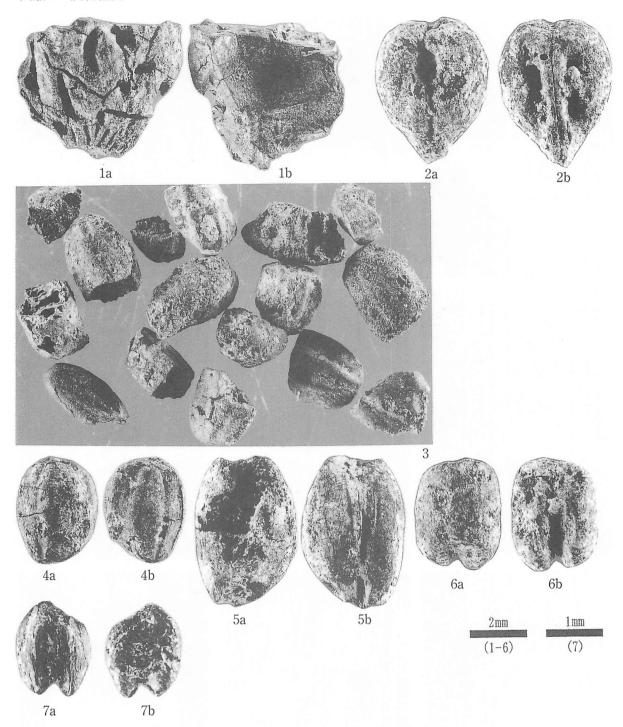
									外部特殊							19	H		
								UK.					未現化			(李母)	: ::::::::::::::::::::::::::::::::::::		
					414		n s		误化基	大 民 大 子	7.4 7.4	\vdash	-	* x	≁ 不即 被 :	**	E		
					海野な サ マの選	r r 4 h	4*	+2월 > 기 H			*#	> 5 4 混	トショグキ芸	(= リュ	£				
6VNo.	22	78 - C-18			数	光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光光	類年	25元	证	*	UA UA		※※	海上		小湖、城村		(名 水	
の	G973	(組.株上			1	!	1	1		i	1	-	1	-	-	_	1		
2 季節②	G973	(新級上	4 55	プラケース人り	1	1		1	2 不明	1	1	1	1	1	-	1	-		
8					1	1		1	62 ブナば	ıc.	- 2	1	1	1		2 不明	1		
'						1	+	!	1	1	1	1	1	1	-	I WERRETTH ?		Annual Control of the	
6 4		a contra			1					+	-	1			i 1	1 777 (4882)	1	DEMENDENCE I	
(*) (#) (*)		24 C 34	Ī					1 1	1 1		1	1	1	1	1 1	- 1 - 1440/822 :	1		
	25 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00	34831			1	+	1	1		- 1		1	1	1	1		-	- HENDARCH STOR	
	高信住民 株	1. 244 di			1	+	1	1			1	1	1	1	-		1	-	
\$ (E)(G)	西衛住民路	1946	T		1	-	1	1		1	1	1	1		1		1	- 機関機能は	
李朝(3)	西側住民跡	2,45	No.48		1	-	-	1		1	1	1	1		-	_	1	- 経動の構造されず	
李鹏③	西朝住居跡	± 21/9			1	 	1	1		1	1	1	1	1	-	_	1		
多銀金	西爾住居跡	15年2階			1	1	1	1	1	1	-	ı	-	1	1	1	i	- MINISHRICATO	
多部3	西倒住居跡	1 SHE 2NS	No.55		1	-	-	1	-	-		-	1	1	- 1		1	1	
李部(3)	西侧住居跡	1 以版			1	-	1	-		_	-	1	_	_	1	_	1	- 機能機能されず	
李都(3)		194回西铁			1	1	1	1	-	1	_	1	1	1	1	_	1		
李惠(3)	西側住居跡	1 分配			1	1	1	1	1		-	1	1	1			1	1	
	西倒住居跡	元章語			I I	1		1	1	1	_	1	1	ı	-			-	
小部 (3)	西國住居路	15年曜			1	1	1	1		ı	_	1	1	1	1 -			- Andrewskists	
	2012年2012年 高価作用24	S101 265+				<u> </u>	+	1	1 7/8	<u> </u>		1	1				1		
(E)38(5)	お食件用器	11346			1	1	1	1	. 1		1	1	1		1			- MANDARATISATE	
\$ M(3)	西側住居跡	*				'	1	1		1	1	1	1	1	1				
(金属(3)	西類住居跡	15年東2階			1	1	1	1	ı	i	-	1	1	-	-		-	- Walkalistof	
李陽(3)	西侧住區跡	1 5/15/2 2 8/9			1	1		1	-	1		100	1	Ī	-		1	1	
(2)開金	西衛住田跡	15年			1	1	1	-	1	1	!	ı			1		1	1 1台域数?	
李第(3)	西側住居跡	1 VAE 2 MB			1	1	1	1	1	1	1	l	i i	1	1		1	- Wind Walletts	
983	日本に田本	1 VE 92 20				1	+	1	1	+	-	1		1	-		1	LOPECTATION IN THE	
4 m 4	西部江西郡	1 5105 E									1 1	+	1	+	1			+	
(2) 銀令	Japan Maria	153167286			1	1	1	1		1	3			ŀ	-		1	+	
李部(3)	西側住居跡	2165	Γ		1	1		1	1	1	- 1	H	1	Ė	-	1	-		
33 \$#53	西爾住居跡	15年两2種	No.80		-	1	-	-		-		1		1	-	_	1	1	
小部 (3)	西侧住居跡	1.948			-	1	1	-	=	i		1	1	1	1	_	i	- 格物路林路出されず	
李都(3)	西侧住居跡	15年間			1	1	1	1	1	1	-	1	1	1	1		-	- 機関機能は	
					-	1	1	1	1	I		ı	1	1	1	6 散竹片?	1	-	
小部 ②	西衛住田跡	(1) 2 KG			1	1	1	1	1	1	-	ï	1	-	1		1	-	
\$48(3) + m(3)	西爾住民等	2.65%				1	1	1	1	-	1	1	1	1	1		i .	- designations	
480 480	西阿江田路	157年2時間	No.84		1 1	'		1 1	1 ! !	1	1 1	1	1 1	1	1 1	1 600000		a superson	
April 14	PSINITERS OF	1.012.025				1						+	1	1	1	1 WORELLAN	1	THE PROPERTY OF	
-C-000	用配件用 24	183					1	1 1	1 1	+		†	1	+			'	HENDERSHAFTS	
金銀(3)	西部上西郊	1 53# 28%	Ī		1	1	1	1		1	1	1	1	-	1	1	Ľ	+	
李郎(3)	西侧住旧路	1 5 ME 2 MS			1	1		1	44		1	1	1		1		ļ		
45 李部②	西爾住居跡	PR 2 括	No.91		1		1	 -	-	1	-	ī	1	ī	ŀ		-		
					1	1	-	1	_	1	1	1		i	1	_		- MANDAMISTO	
李部③	西朝住民跡	芸 (発	No.92		1	1	1	1	1 不明	ı	1	7	1		1		1	1	
李部/3)	西側住居跡	1948			1	1	1	1		1	1	1	I I	1	1		1	- WARRICH	
\$483)	西爾住居跡	15%			1	1	1	1		1	1	1	L	1	1		1	- 他が広林の出されず	
李陽(3)	西朝住民路	1 5/1 2 PM			1	1	1		1	1		1	1		+		1	- BENDERALISTO	
4-m(3)	CONTERMS.	1 57E 210930	No.97			+	-	i	1	ı	1	l	ı	1	+		+		
	ESWIE ESW	1-5055 1988	1			1	1	ı	1		1 1	+	1						
お無の	而配件原始	### #X3 1	00 00		1 1	1	+	1		+		+	1		+		1	- KENTAKHANA	
李儒(3)	お母子民味	1534 (488)	ı		1	'	1	1	1	1	1		1		1				
李儒(3)	西朝住民跡	1.9/短 國際	No.102			+	1	1	1	1	1	1	1		1		1	- MANDAKABOATO	
					1	-	1	1			1	1	1	F	-		Ė		
李鹤③	西爾住區跡	15先西珠			1	-	1	1	1	1	-	1	1	1	1		1		
李鹤②	1000	1.5/155			_	1	1	1	1	1	3	7	1	1	1				
60 李銀(3)	西属住民跡	鲞	No.108		1	-	1	1	1	1	-	+	1	1	1	ı	1	-	
4.000 4.000	西部住田路	15/18			1	1	1	1	1	1	- 2	1	1		1				
\$1830 1.000		15年四年			1	1	-	1	1	1	1	i	 	1	1		1	- Bendankenstra	
(Filliple)	Museson	W 442	2			1	-	1		-	-		-	-	-			a apparentics of	

34 !	TAX HALLES	勿同定結果(2)					\top								植物遺体										S U)	Æ	不	
										to:::			以	忧					ı k	炭化		T			物物设置	昆虫遺骸	不明	
							w ÷	ブド	1	相実	2	4	7 7		炭 化 材	不明炭化物	1	1 1	ħ	#	7.	- ₩	不明植物		1 4	NR.		
							種類名	ドウ属	*	オオムギ	コムギ	ムギ類	7			化物	*	イネ科リカ	カヤッリグサ科	・シギシ風	スペリヒュ		1 39					
lo.	試料名	遺傷	份上位置				部核位	量子	乳	胚乳	私乳	机	私		俗柯		Ąú	¥6 9	! #!		孙子				種類·部位			備考
	寺部(3)	西朝住居跡	1号版 カマド		0			_=			-	-	_	_		Ξ	\equiv	-	= -	T		_	+	$\overline{}$		Ξ	_	
	予部③ 予部③	西朝住居跡	東 焼上	+	0		 -	-	-					<u> </u>	コナルロナラ型ロナ油	-		_	=	1			-	_		 -	-	間が取り向けされず
	す部の 事部の	西朝住居跡 西朝住居跡	東カマド上		0 2 1/2	 	+-	-	=		-		\exists	-1	ווע נלופי ולועינכ	_			=	+	+=	_	_			-		横海線制されず
68								=	=	-			_	_		-	-	-		-	- -	Ξ.	_			=	Ξ	植物類(検引されず
	寺部③	西朝住尼跡	カマド焼上		0			_	_	-		-	-	-			-			:	 -	+	- 1			<u> </u>		
70	寺部(3)	西朝住店跡	SI01 カマド焼上	-	O 2 \$8	O\$1799-340	┿	┝═		-	_	_	_		サクラ属り 不明	_	2	_		-	+-		3	_		-	-	
	中部③	西側住居跡	133E	No.7	×		+-	+=	_		_	=	=	-	1991	=			=			_	-	-	<u>.</u> .	-	-	お前屋材 別にされず
73	\$ # @	西側住居跡	2層1号性	No.7	×		_	<u> </u>	Ξ-				_=	-		-	-	-					_	-		_	_	が が が が が が か か か か か か か か か か か か か か
	寺部②	西朝住居跡	15月E東2層	No.9	×			_	_	-	-	-	-	-						-			1			 -		I
	寺部(3) 寺部(3)	西側住居跡	1 53年 2 86	No.26 No.31	×		-	-	_							_	-			+	+-	_		-		-	_	格的選集を行ったが、
	存部③	西側住居跡	1 53E 289	No.31	×	+	-	-	-	-	-	-	-	-		극	-		=	+	+=		<u> </u>	-		┯		機能放射を行うれる。 1630年を対けられる。
	分部③	西似住居跡	1号在東2局	No.68	×			_	_	-		-		_		_		-		1 -	-	-	1	-		-	-	
	寺部(3)	西側住尼跡	1 3光色 2 編 銀	No.84	×		=	LΞ	LΞ	_	=	_=[-	ᆸ		-	_	-[- -	-						_=		
80	寺部③	西朝住居跡	別時記録と1	No.85	× 2 袋	1	 -	-	_			-				_	-	-					_	_		-	_	接動車検引されず と動車検引されず
	许部③	西側住尼跡	1号住房 西城	No.87	×	 	 	-	 -	_	_	_	_			_	-		-	-	-		_	_				経的基料的 はされず
83				No.92	×			-			\neg	\neg				•							Ι.	٦.	原始群(四)短裙背?)	_	1	
	寺部③	西倒住居跡	1号住西秋							_			_	_		_				1			<u>'</u>	'	点類情片?			
	事部の	西朝住居跡	#FE 1 5KE	No.93	×		 -	-	-	-	-	-	-	-					=	-	+=	-	-	_	-	-		植物選集を持ちます。 植物選集を持ちます。
86	寺部③	西朝住思跡	1 場住 2版	No.95	× 2 袋	-	+=	 -		-		=	_	_		_	_	_	_	-	-	-	├		账价(四肢价)片?	├		BENERALICATA
	寺部(3)	西侧住居跡	15注聚2版	No.97	×		 	 -	_	-	-					_	-	-				+	 -	-		-	_	8的異様的されず
	寺部③	西似住起跡	1号住壁	No.99	×		-	-	_					_		-	-	-				-	-	-		-	三	材的取材的されず
	等部(3)	西朝住启跡	153年課院	No.100	× 2 袋		<u> </u>	-	-				-	-		-	-	-			-	 -	-	-	risely to 0		_	開発機能されず
90	今部(3)	西側住居跡	1531 連続 1831	No.102	×	+	 -	-	-			ᆖ	_			_	-		_	_		_	-	1	点類付片?		-	格が選挙を担されず
	寺部(3)	西朝住居跡	1号住西野	No.104	×		+-	-	-	-	_	-	_	-			-	_			- 1	+=	-	-		-	_	研修機能されず
93	非部③	西倒住厄跡	1号住西根	No.105	× 2袋		_	-	-	-	-	-1	-	_					= -			1 -	-			<u> </u>		植物圏特別されず
94							=		<u> </u>	-	-			-		1	-	-			:		٠			-		お飲食材料 はなれず
	寺部(3)	西側住居跡	門 1731: 西米	No.105 No.106	×		-	-	-		_		-	-		_	-	-	_ -	_	-	-	-	_		-	-	が影響を行っている。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	分部(3)	透明住居跡	1号住週末	No.109	×		+-	-	-	-						-	-	-		_		-	-	-		-		植物選样別におす"
	寺部③	西侧住居跡	1号(据)西珠	No.109	×		_	-	-	-			_	_		_	_	-			-	- 1	-	_		-	三	材的資料的にされず
	寺部③	西側住居跡	1号住西床	No.110	× 2 袋			_	_	_			_	-		_			_ _:				-	-		-	_	材物部特別されず
100	寺部(D)	西側住居跡	17名主西末	No.111	× 2 %	 	 -	-		-	-	_	_	-		_	-	-	- -	1	-	+=	 -	<u> </u>		┝	-	格的意味を行されず。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
102	-1-mm/m	CHARLES CO.	LATERAN	NO.111	1^2*		+=	 -	-	_	-=	_	_	-		_		_		+-				-		 	-	お物理特別されず
103	寺部③	西朝住塔跡	1号注 西宋	No.112	× 2 袋		_	_	-	-	-	-	-	-		_				- -	-1 -		1 -	_		_	_	材的型体制されず
104								_=	-				-	1 -		_	_	-		1-	- -		-	_		<u> </u>		出物型料剤にされず
105 106	寺部③	西朝住居跡	15准 西宋	No.114	× 2 袋	1	+-	 -	-	-	-	-	_	1				 -	= -	-		+-				-	-	格的資料を用されず。
	寺部③	西朝住居跡	1号住西末	No.115	×	 	+=	一	+=	=	-	_	_	 		_	-	-	_	+-	+-	-	+-	-		-	+	REMEMBERS 113
108	寺部③	西朝住島跡	15往床	No.117	× 2 🛱		T	_			-		_			_	-	_			-		Ξ	_		=		州が取材的はないず
109							T-	-	=	_	-	-	_	=		-	_ =[-		_		-	Ξ	_		=	-	研究研究 出されず
110		西侧住尼跡	1号住西末	No.119	× 2 袋	がログラケース人り	+-	-	 -		-=			_			_	-		_		+	-	 -	山水田(4) 5-2	-	_	植物理体制されば"
111		-	1 岩尾 2層	No.59	Δ		+=	+ -	-	-	_	_	_	+ -1	+			+		+-	+=	+=		 	中型联件片?	┯	+=	
113		西側住居跡	1 -3(1)(2) 4-14	No.64	Δ		 -	 -	+=	-	-	_				_	-	=	=	+-	+-	-	-	-		-	 -	現的理解的なわず
114	寺部③	西側住居跡	15日起 西駅	No.85	Δ			_=	_							_	_		= -	_		_	_	-		<u> </u>		研究検討されず
115	守部③		1号作居 連航	No.92	Δ			<u> </u>				_		-		_	$\overline{}$	-	- -	┶				_			₩	が物理検討されず
	寺部(3) 寺部(3)		13年2	No.93 No.102	Δ		-	-	-					-		_	-	-] :	1		- 	_	_		=	╁	RESERVATION OF
	寺部(3) - 寺部(3)	西側住居跡	173日38	No.102 No.118	Δ		+=	-	-	_	_	_	_	-		_			=	-	-		_		 	-		REPRESENTATION OF THE PROPERTY
	李部	- manage	2 13(E		Δ	-	+-		-	_	-	-		-		_	-		==	_				_		-	-	
120	寺部		2号整次性医路 カマド		Δ	/印1757-3人 5		-	_	-	_	-			不明	_	-	-	-		-		_	_		Ξ	_	
	寺部③		1号相	No.7		5分-利息局			-	_		_	_=		不明	-	_=			- -	—		_			-		
	寺部③ 寺部③	-	1号住居	No.9 No.26	□ □ 2 ½	 	+=	_	-	<u> </u>	-	-	_	3	不明	-		1		╁	+-	_		_		 -		-
123		-	1 1/1086	140.20	ILI 6 PK	 	+=	_	+-	1	_	=	_	_	不明	<u> </u>	-		_	+	_					-	-	
	李部③	 	1号住房	No.31	0						-	-	_	<u> </u>	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						-					-	-	

													炭化	植物遺体					- 1				4	\$h 17n	昆虫追飯	不明	
							-			種実			炭化	344	- x	<u> </u>			未炭	it.		对	4	物泡	直酸	"	
							+ + + K	ブドウ鼠			コ ム ギ オ	¥ i	7	炭 化 材	不明炭化物	1 *	1 本科	ホタルイ属	カヤツリグサ科	ギシギシ属	スペリヒュ	不明植物		(4			
No.	試料名	遺構	出土位置				選 核	极子	紅乳	胚乳	胚 月	Ε 1	£	樹種		¥ú	¥ú	果実	果	果実	桶子			種類・部位			備考
	6 寺部③		1号住居	No.83			_			_			-	-		_	_	-	_	_	-		3 -	-	_		
	7 寺部③		1号住居	No.92				-			_	_	-	-	-	_	-	-	-	-	-	_	3 -	-	_	-	
	8 寺部③ 9 寺部③		1号住居 1号住居	No.93 No.97			+-	-	-	-	_		= -	-	 -		_	-		-	-	- 2 - 1		-	 -	-	
	0 特部③	+	1号住居	No.99	lö l	投入り	\vdash	 				=	-	-	+=	-	-		_	-	-				+=	├	
	1 寺部③		1号住居	No.102		1	+-	T =1		-			_	5 不明	-	-	_	-	-	_	-	- -		_	+=	ΗĒ	
	2 寺部(3)		1号住居	No.105			-	-	-	-	-	-	= -	-	-	-	-	-1		-	-	- 1	_	-	 -	 -	
	3 寺部③		1号住居	No.106					-	_	_	_		9 不明	_	_	-			-	-	-	4 -	-	_	-	
	4 等部③	ļ	1 号住居	No.111			1 =	_	_				_	2 不明	_	LΞ		[=		-T		_			=	
	5 寺部③		1号住居 1号住居	No.112		+	+-			-		_	-	1 不明	╀╌	-	-			-	_				-	<u> </u>	
	6 寺部③ 7 寺部③		1号任居	No.118 炭化物		+	+-	-	- 2	-	- -	-	=	- 」 5 コ ルボン・ボ ロナボ	42	-	-		-		-				-	- 3	
	1 7553			炭化物	 	+	+-	-	2					5 広葉樹	14		=			=	_		3 -		+-	_	
	2 寺部③		1号住居签土		†	1	†-	-	==		= -	=	= -		-		-	-	_	-	-		2 -	-	<u> </u>	 -	
	9 寺部③			埃化物		(Benations)	Ι-	-		-	=	- -	- -	7 広葉樹	4		-		-	-	-			-	-	l -	
	0 寺部③			No.110				_	-		-	-			2		-		-			- 1	1 -	-	_	_	
	1 寺部③			炭化物		(E2%,8478A))	-	-	-		_ _			0 広葉樹	3		_	-		-			2 -	-			
	2	西朝住居跡	1号住居西壁	No.84 		(%No.9945A))	-	-	-1	-	_			1 不明	2	_	-		-	1	1	- 2	-	-	<u> </u>	<u> </u>	
	4 学部③	西朗住居跡	西班	No.99		(95)0.994860	+-	 	-	-	_	_	_+_	9 3 7 利 3 7	5	-	-	-	-		=	3		-	-	₩-	
	5 寺部(3)	En Politive Poly	1号住居	様子かな	15.	(部)が-スム)	+=	-	-				=		+=		_	_	_		=	- s			 -		
	6 事務③	西側住居跡	カマド 1住	1	炭化物●		+-	-	3	_			_	- 広葉樹	77	-	3	-1	-	-	_	- 3		-	4		
147	7 寺部(3)	西侧住尼跡	カマド 1住		₩子 ●		T -	-	3	=		_	_		+=	-	-	-	-	-1	-		_	-	-	-	
	8 寺部③	西側住居跡	1号住 カマド焼土		炭化物●		_	_	7	-	-	-	1	サクラ試	55	-	3	1	-	-1	-	- 1	5 -	-	1	1	
	9 \$##3	西側住居跡	1号住 カマド焼土		₩7 •		 -	_	1	-	_	_			_	-	_	-	-	-	-	- -		-	-	1	
	0 寺部③ 1 寺部③	西侧住居跡	1号性 カマド境上	46.7.0	∯? ●	1	↓ -		_	_		_	- -	·	-	_	_				ᆜ		1 -		_ =	<u> </u>	
152			G973 石組焼土 G973 石組焼土	種子? 行粉	•	 	-	1	-=	-	$\overline{}$	1 -		-	1 -	-	-	-	-	-	+	- -		-	-	1	
153		 	G973 石組焼土	炭化物	•	-	-	-	5		_		2	・ ハンノキ属	3		-	-	-	-	2	_ _ 9		<u> </u>	1		
154	4 寺部③		2号住居跡 カマド	種子	•		-	-		-		1			<u> </u>	-	-	_	-1	-1	=+			-	<u> </u>	-	
	5 寺部③		2号住居跡 カマド	埃化物	•		_	-	4	-	- -	1	-	広葉樹	28	-	-	-	-		-	- -	-	-	-	-	
	6 寺部③	西側住居跡	1号住(2層)	No.90	•		-	-	-	-				5 広葉樹	-	-	_		-	-					_		
	7 寺部③	西側住居跡	1号住 西联	No.104	炭化物●		1 -		-	_	_	3		5 広葉樹	5			ᆜ	-	_	_	-	_		_	_	
	8 寺部③ 9 寺部③	西側住居跡 西側住居跡	西床 1号住居 西床	No.109 No.118	● 炭化物●	 	-	-	+		_	-	-	-	<u> </u>		-	-		-	_	_ -			-	1	
	9 守部③	西側住居跡	1 写任店 四床	No.118 炭化物	炭化材●	1	2	-	-=	-	=	1	_	- 広葉樹	 -	9	_	-	_	_			_		-	1	
	1 寺部③	西朝住居跡	1号住(東)焼土		•	● \$1797-2Å9	-	-	-	_				り サクラ試	-	-		=	_		-		_		-	-	
162	2 寺部③	西側住居跡		炭化物	0		-	-	4	-	-	-	-	ラッ解放射等出番屋	30	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-	
	3 事部③	西側住居跡		骨?	♦		_	-	-		_	= -	-1:		_			=		-	<u>-</u> [=		-	-		植物理機能されず
	4 寺部③	西侧住居跡		様子かな	♦		-			_		-	:		1	-	_		-	-	\equiv	= -	-	-		2	
	5 寺部	西側住居跡	西床	和子?	◊		-	1	-		-	- -		-	ᆜ	-]		[-[-	- [_	-		1	
	6 寺部 7 寺部	西側住居跡 西側住居跡	西床 上(2 M)	炭化物 炭化物	♦♦		 -		8 16		2 4	5		・ クリ近似種 ・ 針葉樹	36		\vdash	-	_	1			-			2	
	8 寺部	西側住尼跡	上(2階)	模子?	O		+-		2	+	1	3			60+	_	-		-=+		-	- 1 				3	
	9 寺部	西側住居跡	2 15	炭化物	\ <u>\diamage \tag{\diamage}} \tag{\diamage}</u>	 	1 -	-	-2	_	- 	Ť	_	クマシデ狐イヌシデ節	13		_				_	-	+=	-	+=	4	
	0 寺部	西侧住居跡	現(2 胚)	炭化物	Š		+-1	-	6		2	7		マツ城複雑資東亜城	33		1	-	_	1			 -		-	-	
	1 寺部	西側住居跡	(東)2 階	炭化物	♦		-	Ξ	6		2	6		クマシデ国イヌシデ節	78		-	-	=1		-	_	3 -	-	-	1	
	2 寺部	西側住居跡	(西) ± 2 档	炭化物	♦		_	=		_	- -	-		? サクラ科	7			-		_				-		_	
	3 寺部	西側住居跡	床	炭化物	♦		1=	-	-[-	=[=		2 対視対視的対応	6	三			-	-	-T	-	_			三	
	4 寺部 5 寺部	西側住居跡 西側住居跡	₩.	炭化物	 		+=		1		- -	-		広菜樹	14		-	-	-	-					-	_ =	
	5 寺部 6 寺部	西朝住居跡	西壁 2 層	炭化物 炭化物	♦		1-	-	2	_	_	3		・マツ国複雑管束亜国 3 コナラ属コナラ亜国	23		-	-	1	2	-	-		·	ᆜ	 -	
1/6	1 17 IDP	CONTINUED?	(米/エル)	火ルが	1~	.1	1 -	-1	-1	-1	-1	2	- 1 8	7 コテフロコナフ架域	12	-1	-		-	-1	-1	-	: -	-1	-	-	

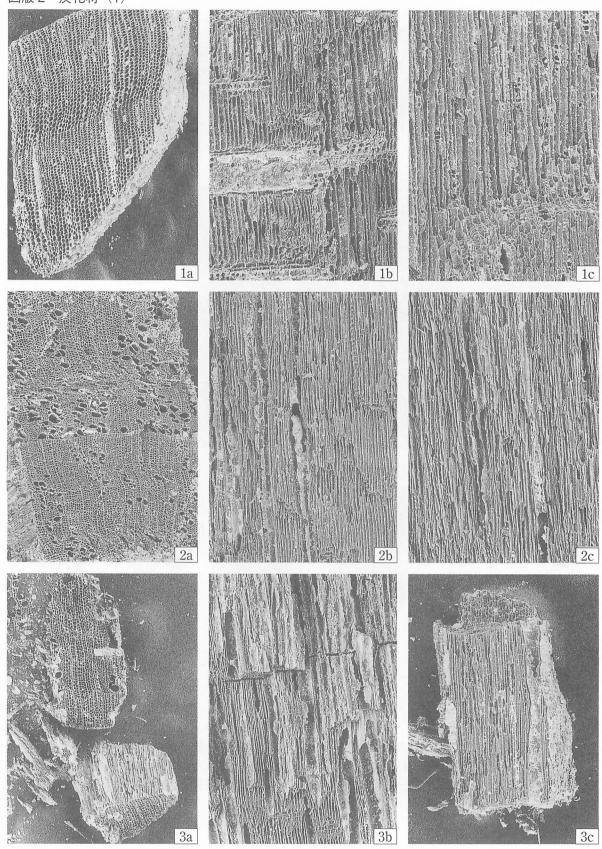
「多」は、100 個体以上の検出を示す。「数字+」は、砕片を含み数字以上の個体数が推定される種類を示す。

図版 1 炭化種実



- 1. モモ 核(西側住居跡;1住(東)カマド) 2. ブドウ属 種子(西側住居跡;西床)
- 3. イネ 胚乳(西側住居跡;土(2層)
- 5. オオムギ 胚乳(G973 石組焼土)
- 7. アワーヒエ 胚乳(西側住居跡;カマド1柱)
- 4. イネ 胚乳(西側住居跡;1号柱 カマド焼土)
- 6. コムギ 胚乳(西側住居跡;西壁2層)

図版 2 炭化材 (1)



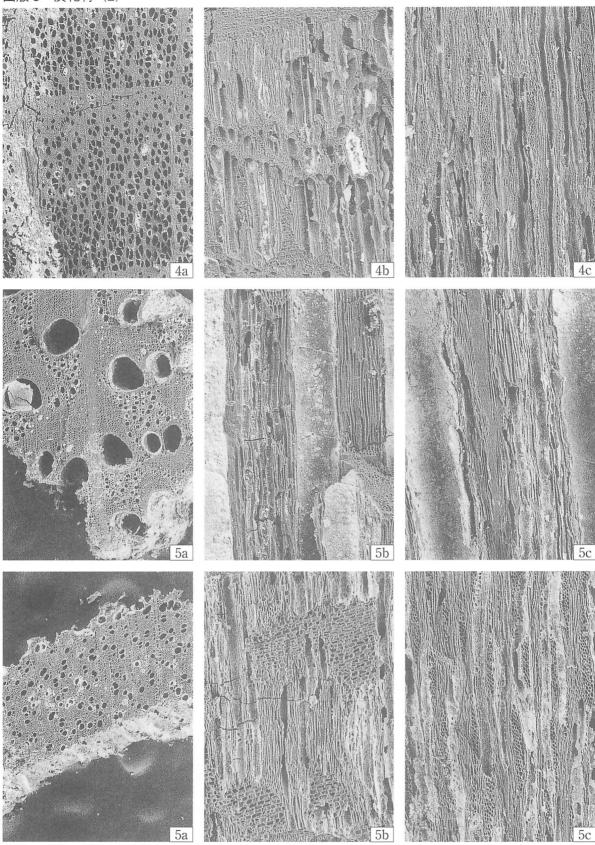
1. マツ属複維管束亜属(仮 No.170)

- 2. ハンノキ属(仮 No.153)
- 3. クマシデ属イヌシデ節(仮 No.171)

a:木口, b:柾目, c:板目

200 μm: a 200 μm: b, C

図版 3 炭化材(2)



- 1. ブナ属(仮 No.3)
- 2. コナラ属コナラ亜属コナラ節(仮 No.187)
- 3. モモ(仮 No.169)

a:木口, b:柾目, c:板目

200 μm: a 200 μm: b, C 写真図版·付編



1区 全景(西から)



1区 1号土坑



1区 1~5溝、2~4土坑

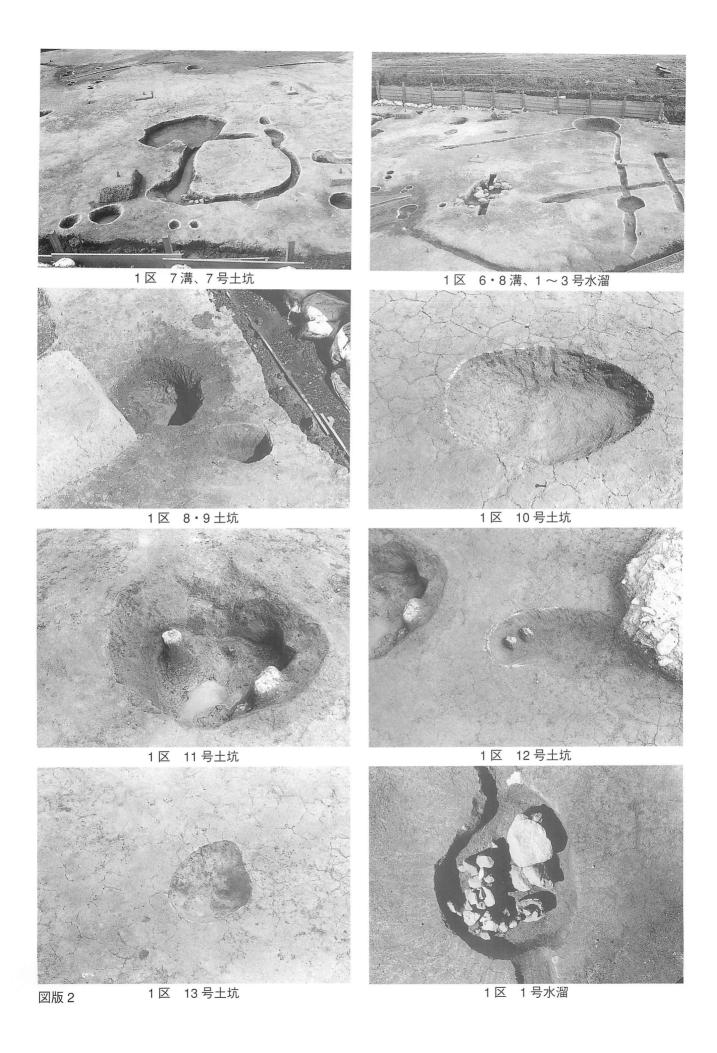


図版 1

1区 5号土坑

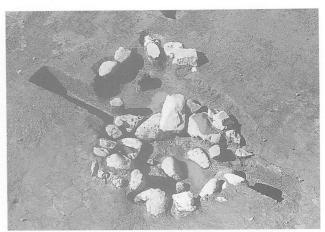


1区 6号土坑





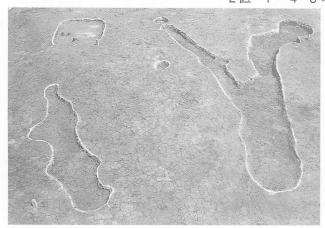
1区 2号水溜



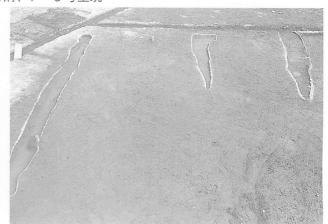
1区 3号水溜



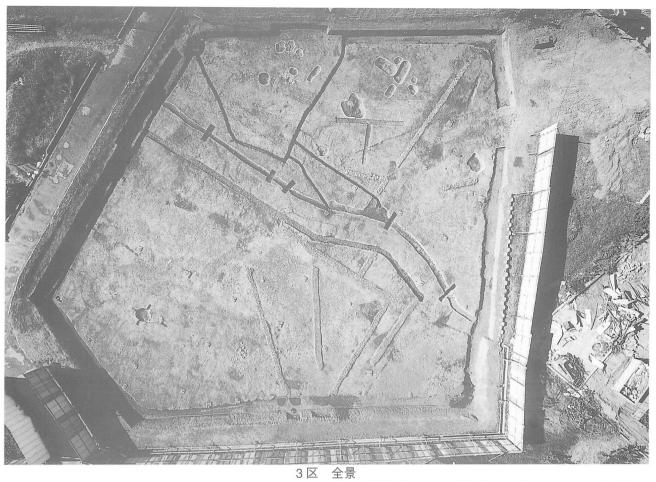
2区 1~4・8号溝、1~3号土坑



図版3 2区 3・4溝、1・2号土坑



2区 5~7溝



3区



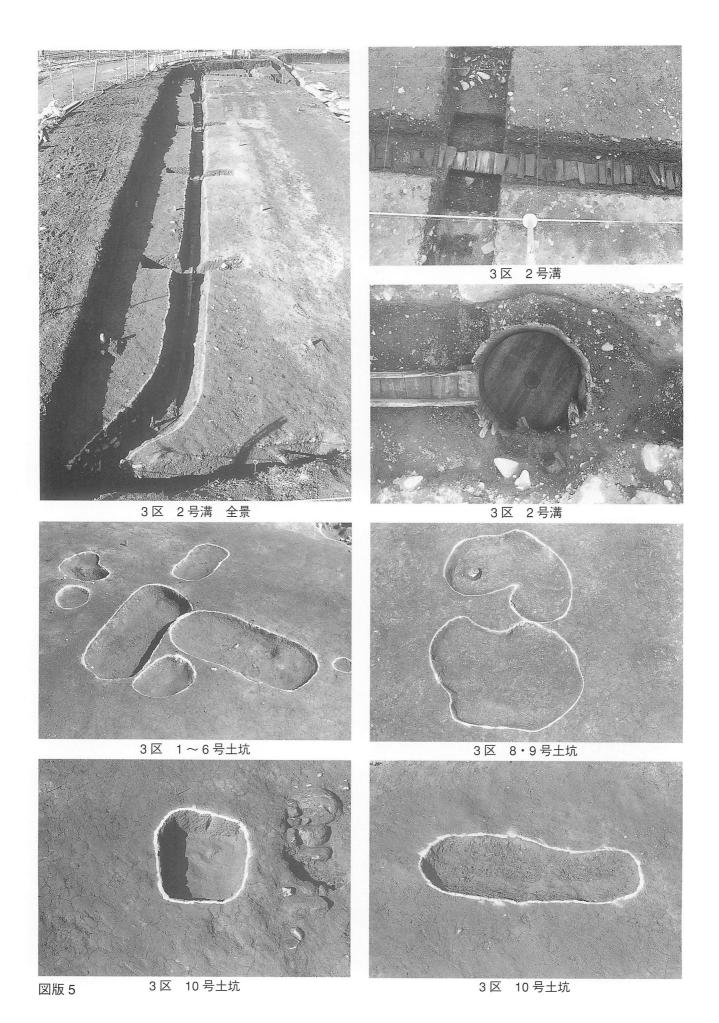
3区 1号溝 全景 図版 4



3 🗵 1号溝



3区 1号溝





3区 12号土坑



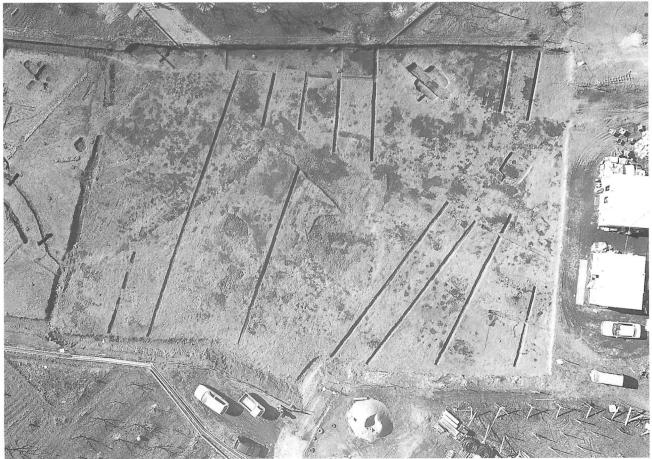
3区 14号土坑



3区 15号土坑

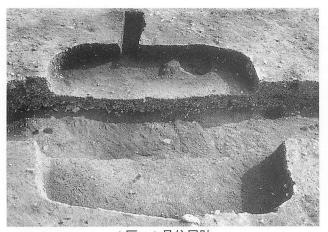


3区 1号井戸

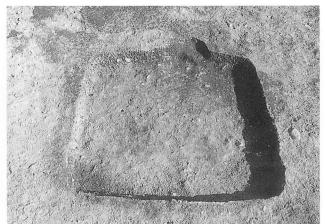


図版 6

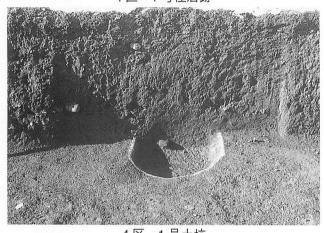
4区 全 景



4区 1号住居跡



4区 2号住居跡



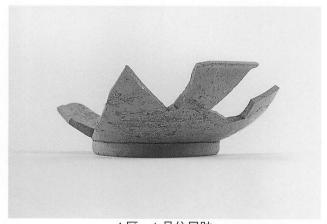
4 区 1 号土坑



4区 1号住居跡



4区 1号住居跡



4区 1号住居跡



図版 7

4区 1号住居跡



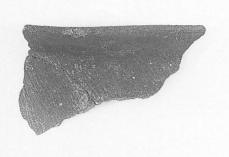
4区 1号住居跡



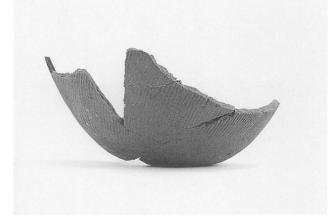
4区 1号住居跡



4区 1号住居跡



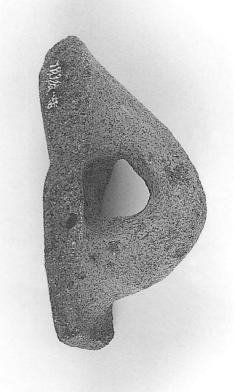
4区 2号住居跡



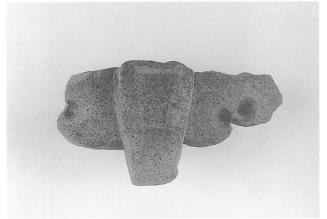
4区 2号住居跡



4区 2号住居跡



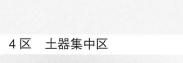
4区 2号住居跡



図版 8

4区 2号住居跡







4区 土器集中区



4区 土器集中区



4区 1号土坑



4区 土器集中区



4区 土器集中区

図版 9



4区 土器集中区



4区 土器集中区



3区 2号溝出土

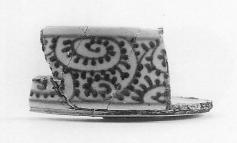


3区 2号溝出土



3区 2号溝出土

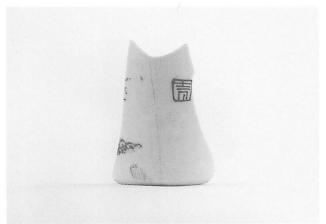




図版 10 3区 2号溝出土



3区 2号溝出土



3区 2号溝出土



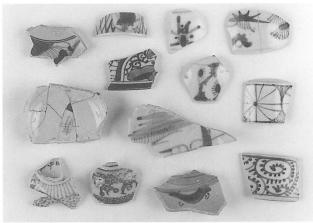
3区 2号溝出土



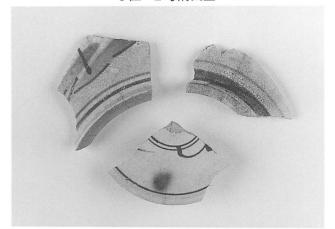
3区 2号溝出土



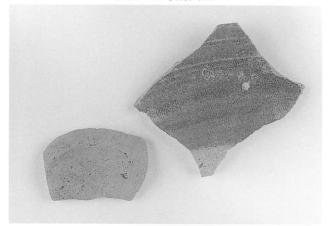
3区 土器集中区 図版 11



3区 2号溝出土



3区 2号溝出土



3区 2号溝出土



3区 土器集中区

報告書抄録

3,	りが	な	てらべむらつきだいきゅう・なかにしだいさんいせき
書		名	寺部村附第9・中西第3遺跡
副	書	名	新山梨環状道路建設に関わる発掘調査報告書
巻		次	(全1冊)
シ	リーズ	名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シ	リーズ番	号	第 218 集
著	者	名	小林広和·猪股一弘
編	集機	関	山梨県埋蔵文化財センター
所	在	地	〒 400-1508 山梨県東八代郡中道町下曽根 923 TEL. 055-266-3016
発	行	者	山梨県教育委員会・山梨県土木部
発	行	日	2004年3月28日

ふりがな	ふりがな	J-	ード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	(新)	(新)	词重判时	河里.田佾	训旦./尔凶
寺部村附 第	やまなしけん山梨県	19208	WK30	35°	138°	2001 (H13) 年8月	約8000m²	新山梨環状
9 • 中西第 3 遺	南アルプス市		WK38	36′	29 ′	20日~10月15日		道路建設に
跡	寺部地内			42"	35"	2002 (H14) 年7月		関わる発掘
						1 日~ 2003 (H15)		調査
						年1月31日		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
寺部村附第9•中	集落	平安時代~近代	溝 (用水路含む)	18	土師器・須恵器	
西第3遺跡			竪穴住居跡	2	陶磁器類・銭貨	
			土坑	31	炭化物	
			井戸	1		
			水溜	3		
			土器集中区	1		

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第218集

2004年3月25日 印刷 2004年3月31日 発行

寺部村附第9•中西第3遺跡

一新山梨環状道路建設工事に伴う発掘調査報告書一

編 集 山梨県埋蔵文化財センター

山梨県東八代郡中道町下曽根 923

TEL 055-266-3016

発 行 山梨県教育委員会

山梨県土木部

印 刷 株式会社 アド井上

